

1 意見募集期間令和 8 年 4 月 9 日（木）～令和 8 年 4 月 2 8 日（火）

2 結果意見提出人 1 4 1 者 4 6 0 件

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
1	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	乳児期から小学校の接続期までを見通したとありますが、今回の再編案では新大津幼児教育・保育共通カリキュラムに則った、本当に見通した改定案にはとても見えないです。 再編案を見ますと、特に「ク」と「ケ」に関しては大石から石山まで朝の時間帯ですと車で15分以上青山から田上まで車で15分とかなりの距離があります。私は通園の過程も重要な教育だと思います。車で15分じっといっているのが子どもにとっていい環境なのでしょうか？大人にとって15分というのはとても短い時間ですが、子どもにとっての15分というのはかなり長い時間です。子どもは15分あれば道端に咲いている花を見て色彩や匂いなどを五感で感じ、昆虫や鳥等の生き物に触れて生命について学び、近所の大人や子どもと喋り社会を学びます。子どもは大人と違い、1日中何かを学んでいます。1日30分。1年間で何分、何時間、何日分の子どもたちの自由な遊びと発見の時間を市は子どもから無くそうとしているのでしょうか？ 上田上はかなりの過疎地域ですが、私は自分の足で上田上を歩きながら実際に上記のことを考え、そんな環境の中で子どもを育てたいと思い、5年前に上田上に引っ越してきました。カリキュラムの基本理念1つ目、乳幼児期にふさわしい生活と遊びを～と書いています。乳幼児期の健やかな育ちと学びというのは、地域を自らの足で歩き、地域の人間と関わりながら年数を経て醸成されるものではないのでしょうか。本当に子どものことを考えた政策なのでしょうか？	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものです。 「乳幼児期の健やかな育ちと学び」というのは、地域を自らの足で歩き、地域の人間と関わりながら年数を経て醸成されるもの」については、ご意見として承ります。幼稚園教育として市立幼稚園がこれからも大切にしていきたいことは、28～29ページに記載のとおりとなります。	検討の目的
2	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	私にはこれはただの市の予算削減案にしか見えません。削減案だとするならば、未来ある子どもからではなく、別の場所から削減してください。	本検討は2ページに記載のとおり、質の高い教育・保育の提供を目指して検討を行っているもので、予算の削減案ではありません。	予算削減・効率化
3	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	共働き世帯の～とありますが、少子化や共働き世帯の増加は遥か昔から言われていたことであります。なぜ令和8年になってこの話をしているのでしょうか？日本は、大津は抗って子どもが増えて、大人は豊かになって1馬力で子育てするようになると予測していたのでしょうか？	市立幼稚園の再編に係る検討は、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものです。	進め方
4	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	幼稚園教育要綱解説から抜粋して、さも大津の幼児教育が基準を満たしていないように書かれていますが、解釈の違いがかなりあると思います。「幼児は多数の同年代の」？多数とは。同年代でなければならない理由とは。主体性や社会態度が少人数で得られない理由は私には理解できません。実際に我が子は7名のクラスでそれぞれ十分に主体性などを獲得しています。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。	適正規模
5	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	人間関係の固定化とは。他の園と相互に交流して十分に色々な人間関係を築いています。大人と違い、子どもはすぐに友達になりますので。それでも希薄だということであれば市が交流できる催しを開催すればいいのでは。1回2，3時間遊べばすぐに友達になります。子どもの人間関係を固定しているのは、はっきり言って親です。	市立幼稚園では、「幼児期の生活にふさわしい環境」の観点から、適正な集団規模や教育の質を確保し、小規模な環境では得られない経験などが得られることや、普段の集団とは別の集団と接する機会を確保することを目的として交流保育を実施しております。 検討委員会には、交流保育の成果と課題等として、出合いの機会をもつことが目的の中心となりやすく、日常的な交流ではないことから、多様な個性に触れながらの自分づくりや、集団として互いに育ち合うことを求めるためには、更なる工夫が必要であるという資料が提供されております。	適正規模
6	2	【第一章総則】 1 はじめに 2 段落目から全体的に	体験できる遊びが固定化とは？20人いないとできない遊びなんて限られていると思いますが。それこそ体験会を市が開催すればいいだけでは。十分に周知されていて、興味があれば子どもは行きます。親は連れていきます。「子どもにとって望ましい教育環境の保証」が再編によって得られるとは、この再編案を見て微塵も感じません。再編する前にできること、沢山あると思います。子どもの安定した環境を壊してまで再編する必要はあるのでしょうか？ もしあるのだしたら、それを感じる議案書を大津市には出していただきたいと思います。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。「20人いないとできない遊び」ではなく、33ページに記載のとおり、「遊びの最小単位が3～5つ程度構成できる規模」として検討を行っているものです。	適正規模

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
7	5	【第一章総則】 2 本市の現状 (2)母親の就労状況について	1つ目のコメントで書きましたが、1日で30分運転する時間が増えるというのは専業の家庭以外に対してとても負担がかかると思います。結果的に、子育て世代は利便性の良い地域に今後住んでいくことになってしまい、ますます過疎地域は過疎化します。 過疎地域の対策をしている市の他の部署とも政策が矛盾していると思います。	通園時間の増加が負担に繋がることは検討委員会でも意見が出ております。 そのため、再編を検討するにあたって、あまり広域になりすぎることは現実的ではないことも考慮して、中学校区を基本に検討することとなったものです。	通園支援
8	7	【第一章総則】 2 本市の現状 (3)保育ニーズの高まり	すでに就労者向けの預かり保育があるので保育園なみの就労が可能かと思います。あまり周知されていないのではないかと感じます。幼稚園のニーズの低下の理由にしていますが、預かり保育の拡大が始まってまだ1年という段階でこの再編案を出してくところに疑問を感じます。ろくに周知もできていない段階で次のステップにいくのは早すぎませんか？十分に知れ渡ってから幼稚園の需要が回復しない等であれば次のステップとして再編案を出すべきではないでしょうか？ 保育ニーズの高まりと幼稚園のニーズの低下は、預かり保育等の整備、周知で十分に対策可能かと思われます。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
9	12	【第一章総則】 2 本市の現状 (5)市立幼稚園の運営費等の状況について	現状で市の全体予算の1%も使っていない市立幼稚園に対してコスト意識というのはおかしいと思います。数千万円、数億円を削るために子どもたちの将来や地域の未来を犠牲にする前にもっと削るところあると思います。	本検討は2ページに記載のとおり、質の高い教育・保育の提供を目指して検討を行っているもので、予算の削減案ではありません。	予算削減・効率化
10	14	【第一章総則】 2 本市の現状 (6)保護者ニーズの変化について 図 1 1	このアンケート調査結果を市は無視するということではよかったですでしょうか？ それぞれ理由はあるかと思いますが、80%が自宅近くを希望しているという現状を。	13ページに記載のとおり、各調査対象者は、各調査年度において住民基本台帳から未就学児童（0歳～5歳）を無作為抽出したものであることから、市立幼稚園の利用者や希望者に対象を限定した調査ではなく、かつ複数選択可としていることから、最も重視する項目までを把握することはできませんが、検討委員会での議論の材料としております。	アンケート
11	14	【第一章総則】 2 本市の現状 (6)保護者ニーズの変化について 図 1 1	上田上の子育て世代は過疎地域の家を購入したり相続したりして住んでいる現状です。都会の方からすると、何故わざわざ田舎に。と思われるかもしれませんが、表5のとおり少なくとも10年ほど一定数の子どもがおります。これは何故か？上田上幼稚園の出身者や、私のような移住者が実際に感じて、上田上幼稚園の魅力を知っているからだと思えます。それは通園する園が変わってしまうとなると上田上に住む必要がなくなります。Uターンを考えている若年層も帰ってこなくなります。すると子育て世代は過疎地域からいなくなり、将来の農業の担い手をさらに減らし、最終的には上田上には誰も住むことがなくなります。そういう政策を市は行おうとしている。過疎地域を潰そうとしているように感じます。なぜ全てマイナスの施策なのでしょう？プラスの施策はできないのでしょうか。市の在り方そのものを検討していただく必要があるかと思います。	市の施策に対するご意見として承ります。	地域との関わり
12	25	【第一章総則】 4 市立幼稚園が果たしてきた役割 (2)幼稚園と保育園の滑らかな接続 (3)地域の特色を活かした幼稚園教育の推進	ここについては再編を行うことによっていくつかの地域は従来通りの役割を享受できる環境ではなくなると思えます。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
13	25	【第一章総則】 4 市立幼稚園が果たしてきた役割 (2)幼稚園と保育園の滑らかな接続 (3)地域の特色を活かした幼稚園教育の推進	小学校の統廃合も進められているはずですが、幼稚園の再編を先に進めるのも納得できません。大規模な再編になりますので、入園の子が小学校卒業後となる年に同時に行い、先に募集停止するのが筋かと思います。大々的に統合後どの園か、どの小学校かを告知し続けてそもそもそちらに入園・入学をするようにすればいいと思います。上田上の未来はそこで無くなりますが。 市の一存で子どもが振り回されることのないように、幼小中を他の地域に移ることなく過ごせる環境をお願いします。	小学校に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。	小学校
14	47	【第三章基本的な再編等の計画】 2 再編等の方向性について (4)施設の状況及び園の特徴について	上田上幼稚園は珍しい全面天然芝であり、その環境で3年間過ごすというのはかけがえのないものだと思っています。 実際に住む場所の選定の際に幼稚園が天然芝だという点はかなり重視しました。 幼少期に裸足で天然芝を駆け回れる環境は市立幼稚園にはなかなか無いので、再編されて上田上幼稚園がなくなるというのは非常に勿体無いかと思います。	検討委員会では、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかななどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。	園の特徴

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
15	47	【第三章基本的な再編等の計画】 2 再編等の方向性について (4)施設の状況及び園の特徴について	また、上田上幼稚園では地域の方のご厚意でしいたけの菌打ちや収穫、菜の花や各種野菜を育てたり収穫したり、たけのご掘り等この地ならではの体験が山ほどあります。そういった体験があることも重要視して園を選んでいますが、今後再編が進み、人数が多くてそういった体験のできる場所のない園や、自然の少ない環境の幼稚園に行かざるを得なくなるということは避けていただきたい。 対人間の成長も大事ではあるが、自然を学ぶことは課せられる勉強の少ない幼少期が一番適していると私は思います。 過疎地域の幼稚園を選んでいる人にはそれなりの理由があることを分かっていただきたい。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
16	54	【第三章基本的な再編等の計画】 4 全体的なスケジュールについて	上記のコメントにも書いたが、全体スケジュールが性急すぎる。再編が実施された場合1年間田上幼稚園に通い、そこから上田上小学校に通う年代が出てくる。子どもの精神的負担や各地でのコミュニティとの分断等への配慮等が一切なされていないように感じる。上記のコメントで書いたように幼稚園を選んでいる親からすると、その1年は完全に無駄であると思う。 44頁の推移予想は預かり保育の周知等が十分済んでいない段階での予想に過ぎず、参考資料にもならないと思います。 最低でも今後5年間状況を注視し、過疎地域にプラスとなる施策を行ってから再編案を出していただきたい。 このスケジュールに関しては再考の余地が十分にあると考えます。	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、全体スケジュールは原案のとおりとします。 なお、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
17		全体を通して	大津市が掲げている「第2次大津市子ども・若者支援計画」では、地域社会全体で子どもを育む環境づくりを謳っていますが、この再編案はそれに反していると感じます。 上田上では、幼稚園や小学校といった施設は子育て世代のみならず地域住民のコミュニティの核として存在しています。 今回の再編案は市が掲げる地域共生社会の実現を、自ら放棄しているように感じます。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
18		全体を通して	2頁にある、集団の規模確保等の数値目標は教育の質の向上という目的を達成するための手段の1つに過ぎないはずですが、この再編案では手段ではなく目的になっていると思います。その数値目標に達していないから再編するというのは少し強引すぎると思います。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	適正規模
19		全体を通して	全体を通してもう少し広い視野で様々な地域を見ていただきたいと思います。 日本の重要課題である、地方創生としての観点から見ても過疎地域だから統廃合するよ！という短絡的な思考で物事を進めてしまうと、大津市全体だけでなく全国的にも大きな損害を受けると思います。上記したように上田上だけでも天然芝での遊びや地域住民による伝統的な農業等の体験があります。上田上だけでなく、各地域に様々な学びや遊びがあります。今回の再編案は少人数での遊びや学びを全て切り捨てると言っているのと等しいように感じます。誰もが大人数のところで子育てがしたいと思っているわけではない。過疎地域ならではの教育ニーズもあるのです。 市はしっかりと統廃合した後の地域の未来を考えましたか？一度失われた地域の文化や環境というのは二度と戻ってきません。 地域に子どもがいなくなるというのは、そういうことです。 もう少し長期的な目線でこの先を考え、他の部署や地域住民と協力していただきながらマイナスの施策だけでなくプラスの施策もいれて、地域を盛り上げていただきたい。 駅前だけが人間の住むところだと思わないでいただきたいです。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	適正規模 地域との関わり
20	50	【第三章基本的な再編等の計画】 3 検討経過とその概要について (2)再編等の方向性検討の結果について	この度、大石幼稚園、南郷幼稚園、石山幼稚園が統合される話を聞きました そこで疑問なのですが、なぜ3園の中心にある南郷幼稚園を廃園して石山幼稚園を選択されるのか、また、統合に当たり車で送り迎えを余儀される家庭があるにも関わらず駐車場のない石山幼稚園を選ぶのか、こども達が元気に走り回って農業体験等の学びを行える南郷幼稚園を廃園する理由にも納得いきません。 総合的な理由を考えれば3園統合するのであれば南郷幼稚園を残し、大石幼稚園、石山幼稚園のどちらかを保育園として稼働させるなどの対策を望みます。 このような一方的な廃園には反対します。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
21	50	【第三章基本的な再編等の計画】 3 検討経過とその概要について (2)再編等の方向性検討の結果について	反対です。絶対反対です。 今まで積み上げてきた歴史があるのに、人数が減ってるから再編成するというのは凄く悲しいです。 ご年配の方も、長等幼稚園出身だった！と言う声を良く聞きます。 そんな長い歴史があるのに、長等幼稚園がなくなってしまうのはとても反対です。絶対に反対です。 地域の方との関わりや、小学校との関わりを大事にしている長等幼稚園が大好きです。子どもたちも大好きです。 人数が少なくなるからといって、そんな簡単になくしてしまうのは大津市に住んでいる者としてとても残念です。 これからもずっと長等幼稚園は残ってほしいし、今までみたいに地域の方との関わりを大事にしている長等幼稚園に通いたいと思っています。 絶対にずっとずっと長等幼稚園はあってほしいと思います。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、原案のとおりとします。	検討の目的
22		全体を通して	私の個人的な意見にはなりますが大人の事情、社会の変化等の事情から考えると今回の再編案はやむを得ないのかも知れません。 しかし子供のたちの本当の気持ちはどうなのでしょう？ もし仮に保育園と幼稚園の入園体験へ両方に行かせた場合に少なくとも私の知る子供たちは園庭も広く自由に走り回れプールもあり園庭内で運動会等の行事も出来る幼稚園を全員が選びました。 保護者も本音は子供たちが選び行きたい幼稚園へ行かせてやりたいが家庭の事情で保育園しか選択肢がない家庭も多くあり1番大切な子供たちの考えや意見を二の次にしているもしくは聞いてやる事も出来ない環境ではないのでしょうか？ 私立幼稚園の28園を17園まで10年かけて減らす再編案が出ておりますがもう少し市や行政の協力を頂き保育園しか選択肢がなく子供たちの考え、意見を聞いてやれない家庭への市や街づくりを考えて欲しいです。 確かに大津市は2年連続待機児童ワーストという現実もあり市や行政も多方面でのご協力は頂いておりますが非現実的ではあるかも知れませんがお力添えを頂けますと幸いです。 宜しくお願い申し上げます。	28～29ページに記載のとおり、大津市では、「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」に基づき、就学前の子ども達が過ごす場所が異なっても、子どもにとっての質の高い教育と保育が保障されるよう取り組んでおり、検討委員会においても、大津市の全ての子ども達に提供できるように求めているところです。	再編容認 子育て支援全般
23		全体を通して	今のご時世給与を下げるのは考えられない。 まず、議員、市職員から下げるべき。	職員の処遇に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。	処遇
24		全体を通して	私は現在、子どもを幼稚園に通わせている保護者です。 現在検討されている幼稚園の再編について、慎重な判断を求めます。 確かに少子化や保育ニーズの変化は理解できますが、幼稚園には保育園とは異なる重要な役割があります。 特に、私の子どもが通う幼稚園のように、少人数で一人ひとりに丁寧に関わることができる環境、自然の中でのびのびと過ごせる環境、年齢を超えた関わりやゆったりした時間の中で育つ経験といった教育環境は、大規模化や統廃合では失われてしまう可能性があります。 市の資料では「集団の確保」が課題として挙げられていますが、小規模であること自体が価値となる教育も存在します。 すべてを一律に統廃合するのではなく、小規模園の価値を評価する視点、自然体験型や少人数教育といった特色を活かした存続、保護者ニーズに応じた多様な選択肢の確保を検討していただきたいです。 子どもにとって本当に良い環境は「効率」だけでは測れません。私の子供の上の子はこの幼稚園に通い考える力や人との接し方様々な事を学ばせて頂きました。先生方にも本当に感謝しています。この環境で育つ子供達がいなくなるなんて勿体ないです！！ 多様な育ちの場を残していただくことを強く希望します。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、効率化を目的としたものではありません。	適正規模 予算削減・効率化
25		全体を通して	今回の件には関係ないかもしれませんが、今回10名中7人の先生が移動されました。これもとても悲しく思ってます。 卒園した子供達がランドセル姿を見せにきても知らない先生ばかりで落ち込んでいました。今残っている園児達もこんなに変わると繊細な子供達には厳しいと思います。	人事に関しては、当検討委員会では検討しておりません。	人事異動

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
26		全体を通して	私は上田上幼稚園の卒園児であり、現在は保護者として自分の子どもを通わせています。 上田上幼稚園は、少人数だからこそ一人ひとりに丁寧に向き合い、子どもたちがのびのびと遊びながら自分の「好き」や個性を育てていける、非常に貴重な教育環境です。このような環境は、単に規模の効率性では測ることのできない価値であり、他の施設で簡単に代替できるものではありません。 また、地域の方々が行事等に関わり、日常的に子どもたちを見守ってくださっている点も大きな特徴です。幼稚園と地域が一体となって子どもを育てるこの環境は、地域コミュニティの維持・継承という観点からも重要な役割を果たしています。 仮に統合や廃園が進められた場合、子どもたちは急激な環境変化による不安や負担を抱えることになり、これまで築かれてきた人間関係や安心できる居場所が失われてしまいます。また、保護者にとっても教育環境の選択肢が狭まり、地域全体にとっても大きな損失になると考えます。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、効率化を目的としたものではありません。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	適正規模 地域との関わり
27		全体を通して	さらに、今回の人事異動についても大きな不安を感じています。多くの先生方が一度に異動となったことで、在園児は混乱し、これまで築かれてきた信頼関係が急に断たれてしまっています。卒園児にとっても、成長を見守ってくれていた先生方とのつながりが失われている現状は看過できません。 幼稚園と保育園は役割や教育方針が異なるものであり、単純に統合するのではなく、それぞれの価値を尊重した上で慎重に検討されるべきです。 上田上幼稚園でしか得られない教育環境が失われることを強く懸念しており、本計画には強く反対いたします。現場の子どもたち、保護者、地域の声を十分に踏まえた再検討を強く求めます。	人事に関しては、当検討委員会では検討しておりません。	人事異動
28		全体を通して	わたしも大津幼稚園の卒園生なので、大津幼稚園が無くなることは残念ですが、大津幼稚園の輝かしい歴史より、現在、そして未来に目を向けて考えることが大切だと思います。 世の中全体の少子化もありますが、一方で待機児童が増加しているという実態もあります。 幼稚園がガラガラで保育所は待機児童がたくさんいる、という現実が、今の市立幼稚園の形態が世の中のニーズに対応していない、ということではないでしょうか。 共働き世帯が増えているなかで、今のような短時間保育、給食もない、送り迎えも必要、という市立幼稚園では再編してもいずれまた再編が必要になり、縮少の一途を辿ると思われます。 今必要な対策は幼稚園の統合ではなく、各学区内で認定こども園へ移行することだと考えます。保育園との一体運営により共働き世帯のニーズに応えられ、園児の数は増え、運営の合理化も進み、今できていない対応もできるようになると思います。何よりこどもたちが自分の住んでいる地域の文化や歴史に触れながら多様な環境で体験を積んでいくことができると思います。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
29		全体を通して	市立病院の産科を閉鎖して、大津市での子供を産む場所を減らした成果が着実に出ている結果だと思います。 このままでは、大津市の乳幼児の数は減る一方ですから、幼稚園や保育園への予算削減は当然予定されていたことだと思います。 幼稚園等の再編等を推進するのであれば、大津市は高齢化都市を目指しており、乳幼児への投資は止めるとはっきり表明すべきです。	ご意見として承ります。	予算削減・効率化
30	12	【第一章総則】 2 本市の現状 （５）市立幼稚園の運営費等の状況について	幼稚園の利用者が減る中で、各地区に１か所以上の施設は必要不可欠であり、１人でも利用者がいれば地域の子どものセーフティーネットの役割を果たす必要があると考えます。他学区の土地で授業を受けても、親子にとって苦勞が増えるのではないのでしょうか。また、幼稚園の運営は扶助費としての役割が大きく、ニーズが減るからと言って統廃合されるものでしょうか？そこで、例えば維持管理費用をクラウドファンディングで施設の改修し少ない費用で持続させたり、別で収入源を増やすなど、他にも資金面で工面のしようはないのでしょうか。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。	適正規模
31	12	【第一章総則】 2 本市の現状 （５）市立幼稚園の運営費等の状況について	また、幼稚園の運営は扶助費としての役割が大きく、ニーズが減るからと言って統廃合されるものでしょうか？そこで、例えば維持管理費用をクラウドファンディングで施設の改修し少ない費用で持続させたり、別で収入源を増やすなど、他にも資金面で工面のしようはないのでしょうか。	資金面についてのご意見については、今後の参考とさせていただきます。	予算削減・効率化
32	13～15	【第一章総則】 2 本市の現状 （６）保護者ニーズの変化について	結局のところ平成２６年度から令和６年度にかけて上位を占める項目は変わっておらず、①自宅近く②職員の対応③給食④教育・保育の質であり、それらの条件を満たす施設が公立の幼稚園の存在意義ではないでしょうか。	13ページに記載のとおり、各調査対象者は、各調査年度において住民基本台帳から未就学児童（０歳～５歳）を無作為抽出したものであることから、市立幼稚園の利用者や希望者に対象を限定した調査ではなく、かつ複数選択可としていることから、最も重視する項目までを把握することはできませんが、検討委員会での議論の材料としております。	アンケート

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
39		全体を通して	※中学校区単位の協議 再編の方向性の検討は、中学校区を単位としてとらえられているようです。南北に長い大津市の公立幼稚園は、人口動態をはじめ地域課題や地域要望の差異が大きいためそれは理解できます。示された案は、実際に中学校区ごとの、関係機関や保護者、地域の方々などを交え、聞き取りや協議を経たものなののでしょうか？計画案の中からはそれが読み取れませんでした。 また幼稚園と保育園は、両方共に子どもが過ごす施設ですが、子どもの過ごし方や保育者の働き方には大きな違いがあります。学区によっては幼保の一体的な運営も考えられることから、瀬田南や比叡平、他市の例をもとに幼稚園と保育園双方の現場との協議を重ねる必要があるでしょう。そのうえで学区ごとの独自の再編計画ができてくると思います。(教員の配置数やバス運行、給食等の具体的な課題も出てくるでしょう。)説明会が実施されているようですが、説明会ではなく、ボトムアップが大切だと思います。 移行や統合が、単に数値分析や大人側の利害だけで単純に行われることのないようにしていただきたいものです	関係機関や保護者、地域の方などの代表者で構成される検討委員会において、市全体の方向性として検討を行ったものであり、個々の中学校区ごとに協議を行ったものではありません。 大津市では、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適の観点で検討を行ったものです。	進め方
40	25～32	全体を通して	※大津市の公立幼稚園教育の継承とさらなる充実へ P25からP32に示された内容のとおり、これまで、長い歴史の中で大津市の公立幼稚園のはたしてきた『子ども一人ひとりへの深い幼児理解に基づいた質の高い教育内容と方法』をこれからも継承し、姿形は変わってもさらに充実発展させていくものであってほしいです。どうか、本計画を、何より、「人間としての子どもの幸せ」を最優先し、そこに携わるエキスパートとしての保育者が十分に役割を果たせる条件と環境を、全国に誇れるような形で考えてくださることを願っています。	ご意見として承ります。	検討の目的
41		全体を通して	先生の異動について、10人中7人の先生が異動されました。年長、年中の子どもたちはメンタルが不安定になっていると保護者の方から聞きます。 子どもにとって望ましい教育環境と言えるでしょうか？市は無理やりに再編成を進めているように感じます。現在のこども達の心を犠牲にして無理に進めるのはやめていただきたいです。 先生方と地域の方々の縁を切って上田上幼稚園を潰しやすくしようとしているように感じました。	人事に関しては、当検討委員会では関与しておりません。	人事異動
42		全体を通して	田上幼稚園との合併、例年は田上幼稚園との交流は園生活に慣れている年中、年長だけでした。今年は年少から交流するらしいです。まだ園生活に慣れてなくて親と離れる時に大泣きしている3歳児にとってあまりにもつらいとおもいます。まだ自分の担任にも慣れていないです。なのにはほかの園の子どもたち、先生はもっと怖いでしょう。これも将来的に田上に合併するための準備ですか？無理やりに感じます。	検討委員会では、個別の園の取組に対して意見しておりません。いただきましたご意見は担当所属に共有します。	その他
43		全体を通して	保育のニーズについて、今は保育園は待機児童がいて、保育園が足りないです。幼稚園は全然子どもたちが集まらないです。働いてても幼稚園に預けられますよと市がもっとアナウンスするべきなんじゃないですか？親が自分から情報を取りに行かないとあまり知ることができない情報もたくさんあります。たくさんの幼稚園を潰して行く前にもっと市がやるべき事があると思いませんか？	検討委員会においても周知に課題があるという意見が出ていることから、23ページにより具体的な方策について追記を行います。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
44		全体を通して	パブリックコメントについて、プリント1枚ベラッと配って、まずどこアクセスしたらいいのか分かりづらいし、説明会の日にちもプリントもらった日から短いです。行きたくても仕事休めません。行けません。あと、説明会の回数が少なすぎる。オンラインでみんな見られるようにするのはだめなんですか？広く市民の意見を聴くためにと書いてますが、あまりそうは思えないです。市のホームページのQRコードつけてアクセスしやすくするとか工夫してほしいです。	今後、実施する場合のご意見として承ります。	その他
45		全体を通して	特性の強い子について、市立の幼稚園は誰でも入園出来る。保育園ばかりになってしまって家の近くに市立幼稚園がないと、こどもに無理をさせてしまっても近くの保育園に入園させるしか無くなる家庭も多いと思います。うちの長男は特性が強くて幼稚園には本当にお世話になりました。 4月から小学校の支援級に行きました。そんな子ども達も受け入れてくれる市立の幼稚園を無くして合併するなんて本当に子どもたちの為になるのでしょうか？	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
46	42、48、50、53	ケ田上中学校区・青山中学校地区 イ駐車場の有無や台数、周辺道路 の状況 駐車場台数	【意見：田上幼稚園への統合計画を撤回し、上田上幼稚園への統合を検討すべき】 私は現3歳児を含む3名の子どもを通わせていた保護者です。本案における「田上幼稚園への統合」に対し、以下の実情と教育環境の観点から強く異議を唱え、「上田上幼稚園への集約・存続」を提案いたします。 1.駐車場の実態と送迎の利便性について 本案では上田上幼稚園の駐車場が「0台」とされていますが、長年、PTAや地域の方々の多大な協力により、常時20～30台規模の駐車スペースが確保・運用されており、円滑な車送迎の実績があります。 他園を含め、原則徒歩・自転車送迎である中、上田上園は広域からの通園を受け入れる基盤が既に整っています。三園が合併しても、上田上園のロケーションは中間地点に位置し、かつ園児数は青山・上田上地区が比較的多いことから、保護者の負担を考慮すれば上田上園の方が合理的です。	ご意見として承ります。 地域の実態に合わせて駐車スペースを利用されていることは存じ上げておりますが、駐車場の数については、48ページ下部に記載しているとおり幼稚園敷地内にある駐車場のみに計上しております。	通園支援
47	42、47	工教育環境や子どもの育ちの環境と いう観点から見た園庭などの特徴オ 各園が持つ歴史的な背景 園の特色	2.「他地区通園者」に選ばれる魅力と教育的意義 上田上園には、学校選択制により「他地区通園者」が多数存在します。同じ選択範囲である田上園と比較して、非常に多いと伺っております。これは、大津市唯一の「芝生の園庭」や、地域の方々と共に歩む「里山保育」「源内峠遠足」「川遊び」「ピーナッツ・タケノ掘り」といった、この地でしか体験できない貴重な教育環境が支持されている証拠です。幼児期に自然と触れ合い、多様な体験を共にする魅力は、本案が掲げる「質の高い教育」の核心であると考えます。 長年、地域が大切に守り育ててきたこの稀有な教育環境を喪失させることは、大津市の幼児教育にとって大きな損失です。数値上の基準だけでなく、実態としての利便性と教育的価値を再考していただきたく存じます。	いただきました意見にある特徴については、検討委員会でも意見が出された上で検討を行いました。園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	園の特徴 地域との関わり
48	44、48	各市立幼稚園の園児数推移 延床面積、園庭の広さ	3.園児数推移と施設規模の適合性 青山・上田上校区の児童数推移は「第二段階」に近い水準にあり、特に他地区からの流入を含めれば、今後とも一定の集団規模（10名以上）を維持できる可能性が高いです。また、三園合併後の学年人数は30名以下と予想されますので、上田上園の既存園舎で十分に賄うことが可能と考えます。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過
49	29	統的な評価と改善による教師の資 質・能力の向上を図る幼稚園教育	4.教職員配置と保護者の不安について 令和8年度の職員異動において、上田上園では10人中7人が入れ替わるという極端な状況が発生しました。経験者が2名いらっしゃることを差し引いても半数です。教師の質を考慮するのであれば、ベテラン教師・経験者から新人・未経験者に対する教育が適正に行われるべきであり、担任/主任経験者が一斉に異動することは誠に遺憾です。これが統合を見越した「引き継ぎの軽視」であるならば、子どもや保護者の不安を煽るばかりです。入園直後に合併の話を聞かされた保護者の心理的負担は大きく、このままでは来年度以降の入園者減少を招く「負の連鎖」になりかねません。または、意図的な「負の連鎖」ではないかと大津市に対する不信感があります。	人事に関しては、当検討委員会では関与しておりません。	人事異動
50	29	【第二章基本的な方針と考え方】 2幼稚園教育のあり方について （５）継続的な評価と改善による 教師の資質・向上を図る幼稚園教育	P14の調査で施設を選択する際に重視することでは「園長・スタッフの対応や印象がよい」「教育・内容が良い」が上位にあげられています。各々の園が積み上げてこられた教育・保育の専門性が反映していると感じます。P29には記載の通り、幼稚園は法定研修や担当課・教育センターによる系統的・継続的な研修や各園の研修が質の確保の支えになっていると思います。今回、幼保の採用が一緒になったと聞きました。新任の先生方には、幼稚園で新任研を受けられる保障も不可欠だと思います。（他の市町では、幼稚園の新任研を受けられるように配属を計画し、工夫されている） 今回、再編の議論が焦点ですが、質の要である園の先生方が、この再編に向き合うために、また未来に希望が持てるような具体策を再編と並行して、現場の先生と議論されることを期待したいと思います。	ご意見として承ります。	進め方
51	39～40	【第二章基本的な方針と考え方】 5再編等の方向性検討について （２）再編検討等に係る検討フ ローについて	再編にあたって、一番大切にしていきたいのは、「子どもの最善の利益」です。子どもの最善の利益を考えることは、未来の大津市を託す子どもたちが、乳幼児期にどのような園の環境や保育内容で過ごすかにかかってくると 思います。 大津市の教育を子どもたちのために継承していくためにも、再編した幼稚園が、保育所機能を持つ「幼保連携型認定こども園」「幼稚園型認定こども園」に積極的にシフトしていく必要を感じています、地域ごとの需要と供給のバランスを図ることは大切ですが、待機児童の解消や子どもたちの生活の保障のためにも、公立が率先して推進していくことを期待したいと思います。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
52	40	【第二章基本的な方針と考え方】 5 再編等の方向性検討について 認定こども園に関する箇所	大津市の認定こども園の数が充分満たされているという見解ですが、今後、大津市が子育て世代の転入増加を推進する以上、万全の環境を用意すべきであると考えます。私の周囲でも、自然環境が良く、ＪＲの利用が便利であり、京都より地価の安い、大津市に転入を希望する、子育て世代が多いです。 また、大津市内のこども園一律に考えるのではなく、個別の学区の状況を鑑み、特に大津市中心部である、打出中学区においては、現在の全ての幼稚園において、認定こども園として、子育て世代が安心して、転入できる環境にすべきだと思います。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
53	12、 25、 26、 47	【第一章総則】 2 本市の現状 (5)市立幼稚園の運営費等の状況について 【第一章総則】 4市立幼稚園が果たしてきた役割 (3)地域の特色を生かした幼稚園教育の推進 (4)地域の子育て支援の推進 【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について（上田上箇所） から全体的に	大津市の一般会計に占める教育費は約８％程度であり、そのうち市立幼稚園に係る経費は1.3％程と推計されます。この規模の財政負担を理由として、地域の幼児教育環境を縮小、統廃合することには慎重であるべきと考えます。 特に、私の住む上田上は自然環境に恵まれた地域であり、幼稚園では全面天然芝生の園庭を活かした保育に加え、地域の方々の協力のもと、里山体験やしいたけの菌打ち、源内峠での散策、ピーナッツ掘り体験、大戸川での川遊び等都市部では得難い貴重な体験活動が日常的に行われています。 また、周辺にはコスモス畑や菜の花畑が広がり、四季の移ろいを身近に感じながら育つことができる環境は、子供たちの情操教育や主体性の育成において非常に重要な価値を持っています。これらの地域資源を活かした保育は、単なる施設の統合では代替えが難しく、地域と共に築き上げてきた教育の質そのものです。再編により通園距離が延びることは、園児や保護者の負担増にもつながり、特に小さなこどもにとっては大きな影響があります。効率性や財政面のみを優先するのではなく、地域の実情や教育の質、子育て支援の観点を総合的に考慮し、拙速な統廃合ではなく、現状の価値を維持、活用する方向での検討を強く求めます。以上の理由から、本再成案については見直しを要望致します。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね、検討を行ったものであり、効率性や財政面から検討を行っているものではありません。	予算削減・効率化
54	2	【第一章総則】 1はじめに	本章において、幼児期の教育が人格形成の基礎であり、良好な環境の整備が重要であること、また地域や発達段階に応じた質の高い教育、保育の提供を目指すとされている点については、深く共感します。また、乳幼児期から小学校への接続までを見通し、等しく質の高い教育・保を一体的に提供するという理念は非常に重要であり、今後も大切にされるべきであると考えます。 しかし、今回の再編成案においては、こうした理念が現場でどのように実現されているかという視点が十分に反映されているとは言い難いです。特に、地域の自然環境や住民との関わりの中で育まれている体験的な学びや、少人数だからこそ実現できている丁寧な保育環境は、まさに本章で述べられている「良好な環境」や「質の高い教育・保育」の具体的な姿であると考えます。これらの実践は、単に施設を統合することによって代替できるものではなく、こどもたちの育ちにとってかけがえのないものです。計画では少子化や園児数の減少が課題として挙げられているが、少人数であることは一概に不利な条件ではなく、一人ひとりに寄り添った教育の充実という観点からはむしろ重要な価値を有しています。 市が掲げる理念を真に実現する為には、既に各地域で実現されている教育の実態を丁寧に評価し、それを維持、発展させる視点が不可欠です。現在の教育環境の中で、こどもたちは、確かに育ち、地域の中で見守られながら日々成長しています。実際、年中になった息子は裸足で芝生の園庭を気持ちよさそうに駆け回り、友達や先生と虫とりをして図鑑で一緒に調べたり観察したり、四季の移ろいを感じながら、間近で田んぼの様子を見てトラクターや田植え機、コンバインにも興味を持ち、お米の収穫までの過程を知ったりと、この一年で大きく成長している。未来あるこどもたちから、この貴重な学びの場を奪わないで頂きたいです。 以上のことから、本再編成案については、理念と整合性の観点からも慎重に見直しを行うことを強く求めます。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
55	7～	【第一章総則】 2本市の状況 （３）保育ニーズの高まりについて	資料では、共働き世帯の増加により保育ニーズが高まっているとされています。しかし、近年は市立幼稚園においても預かり保育が開始される等保育ニーズへの対応が進められています。こうした取り組みにより、幼稚園においても教育と保育の両立が可能となりつつあります。したがって、保育ニーズの高まりを理由として幼稚園の統廃合を進めるのではなく、既存の幼稚園機能を活かしながら対応していく視点が必要です。 幼稚園は本来の教育機能に加え、保育ニーズにも対応し始めている段階であり、その過渡期において機能を縮小することは、選択肢の幅を狭めることにつながります。多様化するニーズに対しては、施設の削減ではなく、機能の充実によって応えるべきであると考えます。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
56	14	【第一章総則】 2本市の状況 （６）保護者ニーズの変化について 図11	資料において、幼稚園等を選ぶ際に「自宅の近くにあること」を重視する割合が約８割と最も高いことが示されています。これは、通園のしやすさが保護者・こども双方にとって極めて重要な要素であることを示しています。しかし、再編成により統合が進められることで、これまで自宅近くの幼稚園に通えていたこどもが遠方の園に通うこととなる可能性があります。これは、市民ニーズとして最も重要されている要素に反するものであり、計画との整合性に疑問があります。 特に幼児期においては、長時間の移動は身体的・精神的負担となり得ます。また送迎に係る保護者の負担増加は、子育て支援の観点からも望ましいものではありません。利用者が最も重視している条件が満たされなくなる再編成は、本来の目的に反する可能性があります。	13ページに記載のとおり、各調査対象者は、各調査年度において住民基本台帳から未就学児童（０歳～５歳）を無作為抽出したものであることから、市立幼稚園の利用者や希望者に対象を限定した調査ではなく、かつ複数選択可としていることから、最も重視する項目までを把握することはできませんが、検討委員会での議論の材料としております。	アンケート
57	25～	【第一章総則】 4市立幼稚園が果たしてきた役割 （２）幼稚園と小学校の滑らかな接続 （３）地域の特色を生かした幼稚園教育の推進	市立幼稚園ではこれまで、小学校との滑らかな接続を重視し、学区ごとの連携を通じてこどもの育ちを支えてきたとされています。しかし、幼稚園のみを先行して統廃合することで、現在の学区とのつながりが弱まり、小学校との連携にも影響が生じる可能性があります。	小学校に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。	小学校
58	25～	【第一章総則】 4市立幼稚園が果たしてきた役割 （２）幼稚園と小学校の滑らかな接続 （３）地域の特色を生かした幼稚園教育の推進	市は、地域の特色を活かした教育や地域との関りの中でこどもを育てることの重要性を示しています。上田上幼稚園では、地域住民との交流や自然体験などを通じて、まさにその実践が行われています。しかし、再編により通園区域が広がり、地域外の園へ通うこととなれば、これまで築かれてきた地域との関係が希薄になる可能性があります。地域とのつながりの中で育つ経験は、こどもの社会性や郷土への愛情の形成にとって重要であり、容易に代替できるものではありません。 幼稚園段階で地域とのつながりを弱めることは、その後の小学校教育や地域コミュニティとの関係にも影響を及ぼす可能性があります。一体的な教育を掲げるのであれば、幼稚園のみを切り離して再編するのではなく、小学校との関係も含めた長期的な視点での検討が必要であります。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
59	47	【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について （４）施設の状況及び園の特徴について	幼稚園段階で地域とのつながりを弱めることは、その後の小学校教育や地域コミュニティとの関係にも影響を及ぼす可能性があります。一体的な教育を掲げるのであれば、幼稚園のみを切り離して再編するのではなく、小学校との関係も含めた長期的な視点での検討が必要です。上田上幼稚園では他にはない全面天然芝生があり、その環境で過ごす経験は代えがたいものです。さらに地域の協力のもと、里山体験でのかまどでの炊飯、しいたけの菌打ち等、多様で豊かな体験が日常的に行われています。こうした地域に根ざした学びの価値が、再編後も同様に保障されるのかについて、丁寧な説明が必要ではないでしょうか。	いただきました意見にある特徴については、検討委員会でも意見が出された上で検討を行いました。園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、地域としてご協力をお願いしたいと考えています。 また、54ページに記載のとおり、当事者である保護者などへの説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	園の特徴 地域との関わり
60	48	【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について （４）施設の状況及び園の特徴について 表15	上田上幼稚園では駐車場がないとされていますが、実際には地域から借用している駐車場が存在します。再編にあたり、園舎の規模や駐車場の有無が判断材料とされるのであれば、こうした実態も踏まえて評価されるべきではないでしょうか。	地域の実態に合わせて駐車スペースを利用されていることは存じ上げておりますが、駐車場の数については、48ページ下部に記載しているとおり幼稚園敷地内にある駐車場のみに計上しております。	通園支援
61	54	【第三章基本的な再編等の計画】 4 全体的なスケジュールについて	再来年入園予定の娘はこの5年以内に在園期間と計画がかぶっています。途中で統合が決まった場合、田上幼稚園へ移動したあとまた上田上小学校に通うことになると意味があるのでしょうか？この計画では様子見できる余裕がありません。 こどもの精神的負担や地域への配慮も考えて最低でも五年は状況を注視し、十分な改善案が出てから政策を行っていただきたいです。	できる限り早く周知を行うため、市全体として検討を行っているものです。 なお、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
62		その他	今回四月の教職員の人事異動で、上田上幼稚園では教職員が10名中7名異動となり、教育体制が大きく変化しています。 幼児期においては、信頼関係を築いた教職員との継続的な関りが重要であり、短期間での大幅な人員入れ替えは教育の質や安定性に影響を及ぼす可能性があります。実際にこどもたちの間でも不安や戸惑いが見られており、環境変化への影響は少なくありません。幼児にとって安心できる人的環境は、生活や学びの基盤であり、警視すべきではありません。これまで、教職員の方々が天津市の教育に誇りをもち、丁寧かつ確な保育・指導を行ってくださったいと保護者としても感じています。そのような中での大幅な異動は、保護者としても教育の質が維持されるのか強い不安を感じます。このような大規模な人事異動が再編成と連動しているのであれば、段階的かつこどもへの影響を最小限に抑える配慮が必要であると考えます。教育環境の変化は施設統合だけではなく、人的体制も含めて慎重に行って頂きたいです。	人事に関しては、当検討委員会では関与しておりません。	人事異動

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
63			①ホームページで拝見した結論として、この計画に反対します。もっと基準を明確にし、早急に進めるよう修正すべきです。子どもはすぐに大きくなります。我が子の教育のためにより良い環境を早く確保してください。	検討委員会でも早急に進めるほうがよいのではと議論されましたが、保護者等への説明に時間が必要なことから、原案のとおりとします。	再編容認
64	16	【第一章総則】 3これまでの取組	② 1 6 ページのこれまでの取組をみました。 1 0 年前から取り組みを進めているのに、ほとんど進んでいない。この 1 0 年間の幼稚園児に対する幼稚園教育を大津市と幼稚園は放棄してきたのでしょうか。 この 1 0 年間再編を進めなかった反省を記載すべきです。	ご意見については、今後の参考とさせていただきます。 今後、ご意見にあるとおり、10年間のこれまでの反省を踏まえた計画策定を求めてまいります。	進め方
65		全体を通して	③園児数が減少していると複数個所に記載されていますが、それはわかりきっていたことです。 ある程度の団体規模が必要なことぐらい親なら誰でも理解しています。子どもが少なくなり、共働きの増えている。それがわかってるのにこれまで再編すれば保証できた幼稚園教育、待機児童対策に使用できた人件費と幼稚園の光熱水費などの予算は何だったのでしょうか。	ご意見については、今後の参考とさせていただきます。 今後、ご意見にあるとおり、これまでの反省を踏まえた計画策定を求めてまいります。	進め方
66		全体を通して	④基準について、再編は 2 段階などといわずに一気に進めるべきです。 子どもたちのことを考えれば猶予はありません。保育園にしてもいい、こども園にしてもいい、公園でもいい。幼稚園教育を保証するなら基準を明確にし、4 年程度で進めるべきです。	検討委員会でも早急に進めるほうがよいのではと議論されましたが、保護者等への説明に時間が必要なことから、原案のとおりとします。	再編容認
67	42	【第二章基本的な方針と考え方】 5 再編等の方向性検討について （ 3 ） 地域性の考慮について	⑤地域性の考慮について、オは削除すべきです。 幼稚園の歴史は子どもの教育に一切関係ありません。幼稚園教育を保証するという観点で子どもと保護者以外の事情を考慮すべきではありません。	ご意見として承ります。 長い歴史のなかで培ってきた幼稚園教育を活かしていく必要があると考えていることから、原案のとおりとします。	園の特徴
68	50～	3 検討経過とその概要について （ 2 ） 再編等の方向性検討の結果について （ 3 ） 検討経過と概要について	⑥ 5 0 ページ以降にも園の歴史や地域性、または地域の方への説明ということが複数書かれているが削除すべきです。 幼稚園の歴史や地域住民の意見は子どもの教育に一切関係ありません。我々一般人は小学校の教育に口出ししません。幼稚園も一緒です。教育は教員がかんがえる。園の施設は市役所が考える。 それでも意見を聞くら保護者やこれから子育てをする妊婦や家庭であり、子育てを終えた世代ではありません。間違っても地域の世話役や声の大きい地域のまとめ役と呼ばれる人の意見を尊重すべきではありません。その方々は正当な地域の代表ではないし、選んだ憶えもない。また当然ながら選挙で選ばれた人でもない。 我々子育て世代はそれらの人に抑圧され、意見が言えないという現実を知ってください。	幼稚園の運営において、地域の方にご協力いただいていることは事実であることから、原案のとおりとします。	地域との関わり
69	12	【第一章総則】 2本市の状況 (5)市立幼稚園の運営費等の状況について	令和6年度の大津市における歳出額と大津市内にある幼稚園の諸経費を比較してみたところ、全体に対して割合が低いのに優先的に再編しないといけないのでしょうか。歳出額を見てみると、幼稚園再編のほかに削減できる部分があるのではないのでしょうか。その議論もなく、幼稚園再編と報告されても納得はできません。	本検討は2ページに記載のとおり、質の高い教育・保育の提供を目指して検討を行っているもので、予算の削減案ではありません。	予算削減・効率化
70	43	【第三章基本的な再編等の計画】 1再編等の検討の流れについて	大津市が掲げる再編フローを見てみると、確かに園児数のほかに施設の状況、園の特徴、地域の状況など様々な観点から再編を判断するとの記載はありますが、結局のところ、幼稚園再編に関しては園児数の数でしか判断していないような資料に読み取れます。園児数だけで判断せず、それ以外の項目も慎重に検討してください。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過
71	48	【第三章基本的な再編等の計画】 2再編等の方向性について （ 4 ） 施設の状況及び園の特徴について 表15	施設の状況なのですが、幼稚園の健全度、築年数ポイントが下がる園への再編は園児への安全性考慮にかけられています。また、田上幼稚園を除き、再編先の幼稚園では道幅が狭く、遠方からは車で通園には向かないです。この再編は本当に市民や子供への安全を考えていない再編にとらえられます。 再編される幼稚園から再編先への幼稚園までの経路検索をしたところ、最小でも2.3km、最大で8.1kmも距離があります。車でこればいいと思うかもしれませんが、子供のいる世帯が必ず車を持っているとは限りません。また、父母のどちらかが通勤で使用して、普段は家に車がないと、通園には徒歩か自転車になります。そういった場合、これだけの距離は事故が増える原因になりませんか。 再編先の幼稚園をGoogleマップから航空図を写したところ、住宅街の真ん中に位置してたり、交通量の多い場所に幼稚園が存在していることから、駐車場や改修による園拡大や道路幅の拡大等は近隣住民からの賛同は得にくく、実現するまで数十年必要になり、再編したのに結局お金がかかる結果になると考えています。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	検討経過 通園支援

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
72		その他	上田上幼稚園の運営に関する要望 今年3月に上田上幼稚園を卒園した保護者です。 在園中は、自然に囲まれた環境の中で四季を感じながら様々な体験をさせていただき、子どもにとっても、保護者である私にとっても非常に充実した3年間を過ごすことができました。先生方も親身に子どもたちに接して下さり、子どもたちが安心して通える環境が整っていたことに心から感謝しております。 しかし、卒園直後に多くの先生方が異動され、園の雰囲気が大きく変わってしまったと聞き、大変残念に感じております。現在在園している子どもたちの中には、「幼稚園に行きたくない」「楽しくない」と感じているという声も耳にしています。 教育方針や組織運営について様々な事情があることは理解しようと努めておりますが、何よりも優先されるべきは子どもたちの安心と成長ではないでしょうか。 再編や人事異動を行う必要がある場合でも、在園している子どもたちへの影響を最小限に抑える配慮が必要だと感じます。例えば、在園児が卒園するまでは大きな環境変化を避けるなど、段階的な移行も一つの方法ではないでしょうか。 現在の急激な変化は、子どもたちや保護者にとって受け入れがたいものであり、戸惑いや不安が広がっています。これまでの園の良さが失われてしまうことを強く懸念しております。 子どもたちが安心して楽しく通える環境を守るためにも、今一度、現場の声に耳を傾けていただき、より良い形での運営を検討していただけますようお願い申し上げます。	人事に関しては、当検討委員会では関与しておりません。	人事異動
73	2	「幼稚園において、幼児は多数の同年代の幼児と関わり（中略）主体性や社会的態度を身に付けていく」	今回の幼稚園再編は、後ろのページに記載されている通り、幼稚園を広域的に再編させることを前提に作られています。その情勢の概要が「はじめに」に記載されていますが、この文書の認識事態市民の理解を得られるものでありません。再編ありきで構成されています。 特に、「学校教育法第 2 3 条における幼稚園教育の目標を達成するための多数の同年代の幼児と関わり」の文語ですが、これを達成させるためが本当に子どもたちに必要なのか、検討をし直してほしい。少人数のグループでも子どもの成長発達には保障されるのでないか。 またこどもの保護者との関係も再編した幼稚園で対応しきれなのか、ご教示お願いしたい。 まず、この幼稚園再編計画には、反対である。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
74	4	表 2 小学校区別の就学前児童の人口推移	本票において、大津市全体の就学前の子どもの人口が減少しているのは理解できます。全体の人口が増加し子どもの数が増えないのは、大津市が子どもために住みよい街でないことの表れだとないか。子育てしやすい街になるようにするのが本来の行政の役割ではないか。 特定の学区以外減少していることは表のとおりですが、まずどの学区の子どもたちが通園できる保育園数や幼稚園数が公立私立問わずあるのでしょうか。通園できる施設にあるにもかかわらず、単純に幼稚園などを再編する必要はないと思います。 地域の施設を活用することが大切だと思いますが、いかがでしょうか	全国的に少子化が進んでおり、大津市も同様であります。ご意見については、今後の参考とさせていただき、市担当所属とも共有します。 なお、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものです。	検討の目的
75	12	図10特別な配慮を必要とする子どもの推移	「（5）運営費の状況」に、拝領の必要な子どものことを入れるのは、人権に違反するものである。そもそも、就学前の子どものためには費用を増やすべきであり、この再編計画の中でそのコストを記すのは、予算ありきととらえるものである。それ自体も問題であるにもかかわらず、配慮の必要な子どもは教諭の人数的に施設面にも費用のかかるものである。それをこの項でのみ記すのは問題である。 この欄を削除すべきである。	ご指摘のコスト面については本市の状況を記載したところであり、12ページには、コスト面のみでは幼稚園教育を評価できない旨を記載しております。 また、特別な配慮を必要とする子どもの数についても、本市の現状を示すものであり、かつ、30ページに記載の市立幼稚園が今後担っていくべき役割としての根拠資料にもなるため、原案のとおりとします。特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	予算削減・効率化 特別な配慮
76	16、33	（1）適正規模について	1学級の園児数4歳児20人以上、5歳児25人以上で、各学年2学級以上の基準がありますが、ある程度的人数がアイル施設での基準であって、一人一人の保育や教育に当たっては検討すべき基準ではありません。どの人数でも子どもに合わせて保育を集団的に個別に行うべきです。それが教諭の仕事であり、自己確立が行えるものです。 よって、人数に合わせた、再編を行うものではありません。 本再編計画の撤回を求めます。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	適正規模
77	49	品の教育・保育施設の配置について	図20市内の主な就学前施設一図において、幼稚園関連及び公立施設のみ記載されているが、子どもの就学前施設全体を記載すべきである。民間保育園や一時保育所なども記入して、それで子どもたちの発達の権利が保障されるかをビジュアル化すべきである。 これでは、再編ありきの図となっている。	市立幼稚園に通われている子どもは「1号認定子ども」であることから、図20には1号認定子どもが入園できる施設を図示したものであり、原案のとおりとします。 なお、市立保育園や市立中学校については、関連性を加味し記載しました。	検討経過

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
78	52	南郷幼稚園再編	南郷幼稚園卒園生で、在園児の父でもあります。南郷幼稚園は自然あふれる素晴らしい園です。春には桜が咲き、夏にはセミが止まり、秋には芋ほりをしたり焼き芋をしたりできます。近隣の住民の方にもご理解をいただける行事ばかりです。いわば田舎だからできる素晴らしい体験ではないでしょうか。学区内に幼稚園が有る・無いではこれから移り住まれる方への配慮でもあると考えます。確かに入園される方の数は減少傾向であることは重々理解できますが、「少ないから無くす」というのは合理的である一方で、地域住民への理解が得れないのではないのでしょうか。また、幼稚園の再編により、教員の雇用減少にも影響があると考えます。子供の遊び場が減り、地域のコミュニティが狭まりつつあるのが現状ではないのでしょうか。子供は日本の宝です。大人が大人の事情(合理性)でその子供たちの遊び学ぶ場を減らすことはいかなるものでしょうか。 共働き世帯が増え、こども園の需要が高まっていることは承知の通りですが、需要が減少しているから幼稚園を減らすは安直な考えだと考えます。 上記内容から25ページに挙げられている市立幼稚園がはたしてきた役割の(2)幼稚園と小学校の滑らかな接続(3)地域の特色を生かした幼稚園教育の推進(4)地域の子育て支援の推進(5)平等に教育の機会を提供し誰もが学び成長できる環境の保障、の維持継続はできないと考えます。 27ページ就学前教育・保育のあり方のビジョンにある「保育環境の充実」「就学前の子供の育ちの場を確保するとともに、～～」に反するのではないかと感じます。 「大津市立幼稚園の再編等について」を拝読いたしましたが、これは一体誰のための物か？と感じております。子供のため、地域のための文書ではなく、あくまでも財政のためという意図が見え隠れする内容と感じている次第です。 上部でも記載いたしましたが、子供は日本の宝です。宝から大人の都合により学ぶ場を削減することは、目先の小利を負い未来の大利を逃すことかと考えます。 そのため議案の再考を意見いたします。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、合理化を図るための検討ではありません。 なお、ご指摘の市立幼稚園が果たしてきた役割については、再編を実施したとしても継承していきたいと考えておりますが、「地域」の考え方としては、これまでの小学校区よりも広域なものとして捉えていただきたいと考えております。	予算削減・効率化
79			子どもたちは、地域の大人たちに見守られ、地域の子どもたちとつながりながら育つことが望ましい。そして、子どもたちは大人の都合で分けられることなく、それぞれのニーズに応じた保育を受けることができるように、環境が整えられるべきである。 公立幼稚園の再編は、上記を基本にして、望ましい園児数を確保しながら進めるべきである。いたずらに財政的見地や効率的観点から統合が進めることがあっては断じてならない。子育ては未来社会を作るための営みであり、子育て予算は最も有効な建設投資であることを銘記すべきである。	ご意見として承ります。 33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、財政的見地や効率的観点から再編を検討しているものではありません。 また、市の予算の投資先についての検討を行ったものでもありませんので、ご意見のとおり明記を行うことについては差し控えさせていただきます。	予算削減・効率化
80			そのような見地から、公立幼稚園と公立保育園を統合した公立の認定こども園を各小学校区に設置し、それを核として、学童保育所、児童館、子ども図書館などを併設した「こどもセンター」を建設することを提案する。日本の子どもたちは明治以来長年にわたり、親の働き方によって分けられてきた。親が働く子どもは保育園に、働かない子どもは幼稚園にと分けられた。しかし、この分断を解消する「保育一元化」への歩みは遅々としながらも前進してきた。そして「認定こども園」として幼保の統合が大きく進んでいる。大津市の場合、長く「一小学校区一幼稚園」を基本に公立幼稚園が配置されてきた。これは、身近な地域で子育てを進めるための優れた施策であった。ところが近年、園児数の減少が著しい園の統廃合が行われてきた。これは将来ビジョンのない安易な統合であり、誠に残念な施策というほかない。さらに、大幅な統廃合を伴う再編が企図されていることは由々しき事態である。「中学校区に一幼稚園」に留まらず、「二つの中学校区に一幼稚園」の地域がいくつも含まれている。このような広範囲な地域を園区とすると、車でなければ通園が困難な家庭が続出する。これが強行されたら、さらなる幼稚園児の減少を招くことは避けられない。そして、将来的には公立幼稚園の全面廃園につながりかねない。絶対に避けるべき方策である。大津の子どもたちを健やかに育てるためには、もっと子育てに予算を注ぐべきである。 子どもセンターを全学区に設置するためには相当額の予算を必要とするだろうが、それを惜しんではならない。どんな子どもの地域で遊び、学べ、集える場を作ることには有効かつ不可欠である。 今、大津市は「連続待機児童日本一」の汚名を着せられている。これは、公立園が大幅な定員割れを生じているためであり、保育士を適正に確保すれば容易に解決できることである。前市長時代に公立保育園の保育士を極端なまでに削減した後遺症は、急いで克服しなければならない。子育てにカネをかけない市政を繰り返してはならない。	ご提案の「こどもセンター」については、今後の施策の参考とするため、市の担当所属に共有させていただきます。 子育て支援全般については、ご意見として承ります。	子育て支援全般 待機児童

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
81		全体を通して	全国でもめずらしく子どもが増えている恵まれた大津市にもかかわらず、幼稚園再編は待機児童を解消させ保育園を増やすことしか考えていない安直な計画としか思えず、激しい憤りを感じます。 地域から長年支えられ息づいてきた、歴史ある幼稚園を廃園させるということは、その地域に住む方々の思いや希望を奪うことです。地域の繋がり、活性化が大切な時代に逆行した計画です。 幼稚園は教育です。実際に私の子供も通わせましたが、幼児教育に対する先生の意識の高さ、熱心さに感じし、親子共に大変な時期も励まされ本当に心強く、心から通わせてよかったと感じています。これからの時代を担う子ども達に必要な教育現場です。 そんな幼稚園教諭の待遇も、この給与が上げられている時代に逆行しており、幼稚園が減るだけでなく待遇まで疎かにされ、教諭の尊厳が無視された考えられないものです。 とはいえ幼稚園児の人数が減少しているのは事実です。 私はこの転換期をもっと前向きに考えていただきたいと思います。 ネガティブな統廃合ではなく、今あるこの素晴らしい公立幼稚園を、宅配給食の導入や延長保育で働いていても通えるということ(ご存知ない方が多すぎます)を大津市から全面的に広報してほしいと思います。 その期間を経て、それでも幼稚園の人数が増えず保育園の待機児童が出てしまうのであれば、例えば就業時間の少ない家庭は保育園の希望園を提出する際、幼稚園を1つ希望選択肢に加える制度に変更するなど、廃園の前に出来ることは色々あると思います。それを何もせず、いきなり廃園というのは断じて納得いきません。 公立幼稚園の統廃合をしないでください。統廃合したら、もう全ての幼稚園が無くなると思います。近々どうなるか分からない幼稚園に我が子を行かせたいと思いますか？ お願いします、もう一度考え直してください。我が子の大好きな園を廃園にしないでください。どうかよろしく願ひいたします。	大津市全域で考えると、全国の傾向と同様、少子化は進んでいる状況です。 また、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、待機児童対策を目的としたものではありません。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	待機児童 預かり保育の拡大 給食
82		全体を通して	このような計画は統合対象となる幼稚園の地域住民と十分に協議し、合意を得てから統合する幼稚園名の公表や年次計画を発表すべきであり、すべてが決定済みであるかのような今回の案は検討の順番が間違っているとしか評価できない。 また、諮問案の段階で統合される幼稚園名まで挙げられていることで、今後の園児募集の実質的弊害となりうる見過ごすことのできない危険な発表である。 これらを考慮するとこの諮問案は一旦撤回し、丁寧な進め方を再度行うべきである。	検討委員会において意見の取りまとめを行った計画（案）について、パブリックコメントにより意見を聴く段階にあり、決定したものではありません。 今後、パブリックコメントの結果を踏まえ、市に対して答申を行います。 計画の策定に当たっては、答申の内容を踏まえ、市が検討を行います。	進め方
83	36、44	統合の人数基準と統計	第1段階の統合は「3歳児の園児数が「10人を下回る」場合」となっているが、44ページの統計によれば大津幼稚園が10人を下回るのは令和6年度だけである。この点について和邇文化センターでの説明会で質問したところ担当の課長から「1年下回っているので第1段階です。」との回答があった。つまり1年でも下回っていればその後の動向など考慮する必要もなく自動的に統合の対象にするという、統合を進めるための検討にしか評価できない。 説明会では、数だけではないとの説明があったが、統合ありきで数字のみを一人歩きさせているとしか思えない。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けています。ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行いました。が、明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。 また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と概要について」の部分で検討を行っておりますので、その旨を追記します。	再編基準
84			説明会において様々な質問が出たが、担当の課長の回答は質問者が聞きたい内容に対して、「配慮する」「丁寧に進めていく」「しっかり対応する」などに終始しており質問者の疑問や不安に対する回答になっていなかった。このような状況では市として十分な検討ができているとは思えない。	検討委員会において意見の取りまとめを行った内容について、パブリックコメントにより意見を聴く段階であること、説明会の目的はパブリックコメントの内容をご説明することであるため、ご意見にあるとおりの回答になっています。	その他
85	25、43 他	地域とのかかわり	計画では、地域との関係を考慮したようになっているが、それは近隣に保育所があるといった物理的地理的な検討に限られており、公教育にとって重要な観点である「地域とのかかわり」「地域の中での位置づけ」といった要素が全く考慮されていない。 これは公教育の危機である。市は一体公教育の使命をどう考えているのか疑問である。	幼稚園等における就学前教育については、幼稚園教育要領等に基づき実施されていることから、官民幼保問わず、本市の就学前施設で実施されているものと考えております。 なお、33ページに記載のとおり、市立幼稚園がこれまで培ってきた幼稚園教育を継承していけるよう求めています。	地域との関わり
86	24他	園児数の推移	計画には園児数の推移（現象していること）が示されているが、その分析が不十分である。 保育ニーズの高まりは大きな要因であろうが、市立幼稚園の園児数の減少はそのことのみが要因ではない。 他の大きな要因として、市立幼稚園では給食が無いこと、またそのため帰宅時間が早いこと等により保護者の負担感が大きいことが挙げられる。 単に園児数が減ったから統合するという方針は、公教育を司る市としてあまりに浅慮のそりを免れない。	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものです。 なお、園児数の推移の原因分析について、保育園等への申込は0歳児から2歳児で約76%を占め、3歳児での申込は約17%（新規申込に限定すると、約10%）に留まっていることを追記します。	預かり保育の拡大

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
87	24他	園児数の推移	潜在的なニーズを掘り起こすための方策を真剣に検討すべきである。例えば付属幼稚園ではデリバリー方式による給食を実施しているが、同様の措置は比較的経費負担も少なく実現できるものであり、公教育として真剣にニーズの掘り起こしを検討すべきである。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
88	25、29	架け橋プログラム（大津幼稚園）	大津幼稚園と隣接する中央小学校の間では、教員の共同研修などによる交流や5 5 交流を始めとする児童・幼児の交流が活発に行われており、住民から見て理想的な幼小連携が図られている。 また、近隣の私立施設とも活発な交流を行っている。 そのため、小1 プロブレム、小1 の壁といった問題は見受けられず、架け橋プログラムの成果は十分に達成されている。 このような各園における教育内容の評価は具体的にされているのか？ 答申案ではその部分は見当たらず、検討内容に不足があると思えない。	架け橋プログラム等は、市立幼稚園が中心となって取り組んでおりますが、市立小学校と市立幼稚園だけの取組ではありません。 今後も、子ども達が、小学校での学びや新しい環境に適応する力を養い、前向きな気持ちで次のステージへ進む準備を整えることができるよう、市立幼稚園が中心的役割を担いながら、地域の就学前施設と小学校との連携を図り、架け橋期の教育の推進に取り組んでいくことを求めています。 小1プロブレムについても、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。 なお、小1の壁は、主に保護者の就労形態に関わる課題と認識しており、今回の検討内容とは関連がないものと考えます。	幼小連携
89			大津幼稚園は自主通園であるが、そのため、幼児の心配事や園での様子等は通園時（降園時）に保護者と教員が直接目を合わせる形で共有でき、子供の日々の成長にとって即応性の確かな指導の適時性が担保されている。統合されるとこの密接な関係は望めず的確な判断・指導が損なわれる恐れがある。	再編される地域についても、保護者と教員の密接な関係を構築し、的確な判断・指導ができるように、これまで再編を実施した園での取組を参考に検討する必要があります。	通園支援
90	25他	地域との関係（大津幼稚園）	大津幼稚園は、地域の先人たちによって地域で設立された歴史的な意味を有する園である。 今年で創立1 3 8 年の歴史を誇り、日本の幼児教育の先駆的存在であり、その長年にわたる実績は大津市が誇るべき教育資産である。 また、地域の祭りであり、ユネスコ無形文化遺産に登録されている大津祭を積極的に教育に取り入れており、伝統の継承と発展に大きく寄与する大津市としても誇るべきものである。市長も登録決定時には「本市の誇る歴史文化遺産を関係者の皆様と力を合わせて後世に受け継いでいくとともに、文化財の活用による地域活性化に力を尽くしてまいります。」と述べており、幼児教育においてその継承に取り組んでいる大津幼稚園の取り組みを軽んじることはできない。	大津幼稚園が、最初の市立幼稚園であるという歴史については検討委員会でも意見が出されたところです。その上で、子どもの育ちの場、集団規模を確保することを第一として検討しております。 また、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	園の特徴 地域との関わり
91			前述のように大津幼稚園は大津市として誇りうる成果を挙げている。これは常に幼稚園教育に先頭に立ってきた伝統と先取の気性に基づくものであり、だからこそ園長の交代等の変化に関わらず引き継いでこられたものである。 しかしながら一方で、現在大津幼稚園の園児数が減少していることは事実であり、何らかの方策が必要であることも否めない。 そこで、ここまで述べてきた大津幼稚園の教育実績を活かし、引き継いでいくため、大津幼稚園を認定こども園化し、その教育資産を受け継ぎ発展させていくべきであるとする。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
92	50	表16再編等の方向性一覧	中学校区を基準として、再編することに関しては賛成であります。そこに現在、小中学校に導入されている学校選択制を取り入れていただきたいと考えています。 例を挙げて選択制の必要性を述べます。 大石に在住の方は再編後、石山幼稚園に通園することになります。大石から石山幼稚園に通園するには、手段は自家用車または公共交通機関のバスになると考えられます。しかし、隣の中学校区にあたる田上幼稚園に通園できるとなれば、地理的に自転車を利用しての通園も可能となります。つまり再編によって、通園範囲が広域になるので、各家庭の自家用車の有無や保有台数によって、通園しやすい幼稚園の場所が家庭によって異なってくると考えられます。 このような点から、幼稚園にも選択制の導入が必要ではないかと、私は考えています。	市立幼稚園における学校選択制については、現在も実施しておりますが、いただきましたご意見を参考に、より充実した利用しやすい制度となるように、市担当所属とも共有します。	再編容認 通園支援

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
93	37(1)、52㌥	エリアについて	南郷中学校区（南郷・大石幼稚園）と石山区（石山幼稚園）の3園による再編に反対 ・再編の基本方針について、基準については園児数とし、エリアは中学校区が基本とされている。 南郷中学校区の南郷・大石幼稚園については、園児数の基準から統合されることについては致し方ないと思うが、南郷・大石幼稚園が統合されればこの3年間の実績でも令和12年度までの推計園児数でも15人以上の規模となり、再編の対象となる「3年連続して15人を下回る場合」を外れるはずである。それに関わらず、現状でも再編の検討外の規模である石山幼稚園と3園併せての再編を考える理由は何か。3園での再編ではなく南郷中学区内の南郷・大石幼稚園の統合で十分であるし、基本方針にも沿うのではないか。 それでもなお南郷中学校区（南郷・大石幼稚園）と石山中学校区（石山幼稚園）の3園による再編が強行されるのであれば、幼稚園再編の実績による幼稚園職員の削減や中学校の統廃合まで見越しているのではないかという強い懸念がある。 ・同じ中学校区の大石幼稚園と統合すると園児の数は15人以上になります。安心、安全で自然豊かな子どもたちの教育環境を考えると南郷幼稚園を残すべきだと思います。石山幼稚園への統合は反対です。	3園での再編ではなく、南郷中学区内の南郷・大石幼稚園の統合で十分という点については、ご意見として承ります。 一方で、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。	再編基準
94	42(3)	地域性等の考慮について	石山幼稚園 ・園門すぐ、交通量の多い車道。車の出入りのため、ガードレールもない。歩道の縁石がなく、白線が引いてあり、所々にガードレールがあるのみ。 ・隣に送電鉄塔がある。 ・園門が開いていると園児の飛び出すリスクがある。 ・園門が閉められていると、スムーズな入庫ができず、道路渋滞の原因が予想される。 ・駐車場が少ないため、近隣の路駐や、近隣店舗への路駐問題が予測される。 幼稚園前にバス停があり、上記問題があれば、バスの運行にも支障をきたす可能性がある ・園児数が増える割に園庭が狭く、十分な活動ができない。運動会等も保護者は側で見守れず、園舎からの見学をしている。 ・遊戯室が二階にある 南郷幼稚園 ・保育園や小学校、中学校との交流がある。 ・園内駐車場に加え、イベントの時には京都両洋高校のグラウンドや駐車場をお借りしている ・幼稚園前の道路の交通量は石山幼稚園ほど多くない。 ・縁石のある広い歩道がある。 ・近くに広い南郷公園があり、交通ルールを学びながら徒歩で移動し、公園で遊ぶ機会がある ・遊戯室が一階にある ・広い園庭(3園の中でも一番)があり、3クラスとも園庭に面していて交流を持ちやすい。 ・園舎も園庭も広く、統合し園児数が増えた場合でも伸び伸び過ごせる ・園庭には虫もたくさんいて生き物と触れ合える。砂場の別に畑で、お米や野菜を育てる機会がある ・石山幼稚園、南郷幼稚園、大石幼稚園の3カ所の地理的に中央に位置するため南郷幼稚園への集約を望む。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 再編の方向性については、ご意見として承ります。	検討経過
95	13(6)	保護者ニーズ	・統合のメリットがわからない。学区内に預けられる所もほばないのに、園を減らすのは大人の事情の押し付けに思う ・大津市の待機児童数は全国的に見て多いにも関わらず園児数が少ないという理由だけで、公立幼稚園を減らそうと直近でこのような検討が進むことに憤りを感じます。そもそも保育園数は増えていますか？目に見えた実感が市民にないのにこの取り組み自体反対です。ますます待機児童増えます。のびのびとした南郷幼稚園をなくさないでください。 ・統合する事で通園が遠くなる	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。 なお、待機児童の95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	検討の目的 待機児童

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
96		その他	私はもと大津市民で現在は他市在住ですが、大津市の幼稚園の統廃合案があると娘から話を聞いて筆をとりました。 確かに今の大津幼稚園は子どもの人数が少ないですが、統合されて平野幼稚園まで行くとなると通園距離に大きな違いが出てきます。 大津幼稚園は中央小学校のすぐ隣にあり小学校との連携も図ることができて卒園から入学へと子どもも親も安心して移行することができます。 また伝統ある大津祭とも深い関わりがあり、恥ずかしながら大津に二十年以上住んでいて一度も行ったことのなかった大津祭の山に孫が乗って太鼓をたたかせてもらっている姿を見て感動しました。 これは大津幼稚園だけの特権だと聞きましたが、このような伝統ある文化に幼い頃から触れることは素晴らしいと思いました。お祭りで近隣住民の方とも顔なじみになって挨拶を交わしたり、敬老の日のイベントで歌を歌ったりと地域の関わりを大切にされていると感じました。 近頃はほとんどの家庭が核家族なのでお年寄りに優しい子どもに成長したり、お年寄りの方はかわいい子ども達から元気をもらったり、高齢者と小さな子どもの交流は双方にとってもいい影響を与えることは医療現場でも認められています。 一方小さい子どもを育てる世代は仕事をする母親が多い中、やはり自分の手で子育てしたいという母親もおられます。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
97		その他	そこで大津幼稚園の保育時間を延長してこども園にしていだけないでしょうか。 そうすれば保育園の待機児童もなくなり、大津幼稚園の園児も増えることは間違いないと思います。 小学校の隣にあり伝統文化、地域住民との交流を大切にする大津幼稚園がなくなるのは大変もったいないと思います。 どうか大津幼稚園に通わせている保護者の意見や近隣住民の方の意見も聞いてもらえませんか。 よろしくお願いいたします。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。 なお、本検討委員会では、待機児童対策については議論しておりません。	認定こども園 待機児童
98			今回、子どもや周りの保護者から多数の方々から声がありメールさせていただきます。 現在、上田上幼稚園の年中組に息子が通っています。 昨年度は、とても楽しく通えていて私も私の親も嬉しく思っていました。 そして、この4月。今年度の人事異動で息子の好きだった、先生は異動になりました。それはよくある話ですが、今回の異動で上田上幼稚園の先生が10人中、7人の異動がありどう考えても異常な移動率です。 このような思い切った人事異動になった経緯はどこにあるのでしょうか。幼稚園が大好き、先生が大好き、友だちと遊ぶことが大好きだった我が子が幼稚園が楽しくないと言っています。 私も4月、幼稚園を訪れた際、知らない先生だらけで別の幼稚園に来たような気持ちになりました。明らかに今回の人事異動に不信感が募ります。7割の職員が入れ替わったことを知り合いや教職に詳しい方などに尋ねても驚かれたような反応ばかりです。今更、異動された先生を動かすことは難しいと承知してます。しかし、現在上田上幼稚園に勤めてる先生方に今一度促すことはできると思います。 もっと子どもたち1人ひとり大事にできる先生であってほしい。	人事に関しては、当検討委員会では関与しておりません。	人事異動
99	42	(3) 地域性などの考慮について	第7回議事録P5「本当は多い方がいいのだけれども、小さいからといってよくない保育をしてきたわけではなく…」を受けて、まさにその通りであると思う。人口自体が少ない学区では、他所にはない密度の濃い自治に根差した教育環境の元で、小規模であること自体が幼稚園の取り組みの特色や強みとなっていた。しかしながら、現在、地域性に関わらず多くの園が少人数になっており、そのことを特色としてすべての市立幼稚園が取り組んでいくことには無理があると感じる。 よって今回の再編案は大津市立幼稚園の在り方として必然性があり一歩踏み出したと思うのと同時に、地域性と小規模の良さとが整合する園については、園児数の適正規模で一律に進めるのではなく、小規模特例園として機能させることも大津市教育行政のアピールポイントの一つになるのではないかと考える。	小規模特例園について、貴重なご意見として承ります。	再編容認

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
100	55	1 実行計画の策定について	これまでの市立幼稚園の実践や取り組み、果たしてきた役割について明確に示され市民に広く周知されたことで、単なる早期教育や経営主義的な保育に陥ることなく、子どもにとって本当に質の高い幼児教育が継承されていくことを強く願う。 また、実行計画を進めるにあたり、是非統廃合後の園舎園庭の活用についても積極的に検討を進めてほしい。子育てに悩む保護者は多く、また孤立しており、子育てを支える方策はなかなか困難である。そこで園の跡地を、親子が安心して過ごせる場として他機関と機能を融合させるなど有効に活用できるとよいのではないかと考える。また昨今では、保護者自身の生きにくさや子どもの発達の課題など複合的なしんどさを抱えているケースも大変多い。行政と就学前教育の現場、そして子どもに関わる専門職とが共に夢と希望のある施策を打ち出し、今回の再編案が統廃合することに留まらず、大津市では魅力的で革新的な就学前教育の取り組みが打ち出された、という発信となるように願っている。	これまで市立幼稚園が培ってきた幼稚園教育を、今後も継続して、大津市の全ての子ども達に提供できるよう検討を行っているものです。 跡地利用及び子育て支援全般については、ご意見として承ります。	子育て支援全般

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
101		その他	我が子が上田上幼稚園に通園している保護者です。 上田上幼稚園は、自然豊かな環境の中で子どもたちがのびのびと過ごせるだけでなく、地域の方々とのつながりも深く、他にはなかなかない価値を持つ園であると感じております。この環境に魅力を感じ、選択している家庭も少なくありません。 以前、市長が上田上幼稚園を訪問された際、「少人数であることが良さである」と評価されていたと認識しております。そのように評価されていた園が、今回の再編案では統合対象とされていることについて、方針の一貫性に疑問を感じております。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、効率化を目的としたものではありません。	適正規模
102		その他	また、園舎整備が行われてからまだ数年程度であるにもかかわらず統合を前提とした議論が進められている点についても、これまでの投資との関係性を含め、納得できる説明が必要だと考えます。 現在、大津市では待機児童問題が依然として課題となっている中で、市立幼稚園の預かり保育時間が拡充されたのはごく最近のことです。この制度が十分に周知され、利用者の選択肢として定着するには一定の期間が必要であり、導入から約1年という短期間でその効果を判断し、幼稚園の統合・縮小に進むことには疑問があります。幼稚園という選択肢を広げることが、結果的に保育需要の分散につながる可能性もあるのではないのでしょうか。 また、統合先として田上幼稚園が想定されていますが、通園距離や利便性の観点から、保護者の負担は確実に増加しますし、上田上幼稚園の環境を理由に通園している家庭が多く、統合を機に保育園等へ進路変更を検討するとの声も複数聞いております。結果として、待機児童の増加につながる可能性も否定できません。 さらに、統合場所の選定についても疑問があります。上田上・田上・青山の3地域を対象とするのであれば、地理的な位置関係や施設環境を踏まえ、上田上幼稚園を拠点とする選択肢も十分に検討されるべきではないでしょうか。上田上幼稚園は各学年の教室に加えホールを有し、天然芝の園庭や近隣の駐車場など、受け入れ環境としても一定の条住を備えていると考えます。また、実態として上田上幼稚園には田上・青山地域から通園している家庭も多く見られる一方で、その逆はほとんど見られません。このような現状を踏まえると、統合先の選定については、より実態に即した検討が必要ではないのでしょうか。 各園には、それぞれの環境や教育方針に共感し、意図を持って選択している保護者がいます。単なる効率性や規樽の観点だけでなく、子どもたちの育ちや地域との関係性、保護者の実情を踏まえた上で、再編のあり方について再検討していただくことを強く求めます。	園舎整備については、平成28年度の検討において、園児数を増やす取り組みとして、「3年保育の実施」が提案されたことを受けて整備したのですが、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて再編に係る検討を行っているものです。 同じく、預かり保育についても、平成28年度の検討において、園児数を増やす取組として拡充を行ってきたところです。23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。 また、再編の方向性について、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	預かり保育の拡大 待機児童 検討経過
103			現在大津幼稚園に通っている子供がいます。 下の子は2年後の入園になりますが大津幼稚園に通わせようと思っていましたが、再編等の話を聞いてとても不安な気持ちでいっぱいです。 平野幼稚園との統廃合の案を見ました。 一番思ったことは、遠くて通うのが大変ということです。 平野幼稚園までは大人の足で約30分かかります。それを入園してまもない子供と一緒にとなると1時間近くかかってしまいます。 それを毎日通わせるのは正直しんどいです。 もしこのままの案で進もうとされるのなら園バスを導入していただきたいです。 それも難しいようであれば定期券購入の補助金などお願いしたいです。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
104			公立幼稚園を選ばない理由としてお弁当を負担に思っている方は多いです。 統廃合をする前に給食導入していただきたいです。それでどれだけ園児数が獲得できるのか見てからでも良いかと思います。それでも園児数があまり増えない場合は統廃合を受け入れるしかないなと思えます。 市長はお弁当を推奨されています。もちろんお弁当は素敵です。ただお弁当を作る側の意見を言わせていただきます。レパートリーがかなり少ないです。子供の好き嫌いなど考えると毎日同じようなお弁当になってしまいます。 給食だと家では出てこないような食材、料理に触れることができます。そしてお友達と一緒にのものを同じ時間に食べるだけで嫌いなものも不思議と食べれたりもします。家では嫌いなもの食べないけど給食では食べるというのをよく耳にします。これらのことから給食導入も視野にいれていただきたいです。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
105			そして幼稚園には広々とした園庭があります。 これは保育園ではあんまりなく、私的にはすごく良い所だと思います。大津幼稚園に通っている子達はマンション住まいが多いです。広々とした園庭で目一杯身体を動かせることは本当に感謝しています。マンションだと騒音問題やスペース的に狭いというもありあまり身体を動かせないのが本当に助かっています。 こんな素敵な園庭があるのに廃園になってしまうのは非常にもったいないです。廃園になった場合今の園はどうなるのかも気になります。 また大津幼稚園は地域の方たちとの関わりが非常に密です。特に大津祭りでは湯立山に乗せてもらうという貴重な体験をさせていただいております。もし平野幼稚園と統合されるのならこのような伝統的なお祭りに触れる機会もなくなってしまいます。息子は湯立山に乗ることを毎年楽しみにしています。こんな貴重な体験できる幼稚園は他にないのではないかとと思っています。そのような機会から地域の方と直接触れて、顔見知りになると見守られてる感じもして親としても安心できます。 そして何より在園児の保護者として一番不安なのは、無事今の園で卒園できるかどうかです。 途中から別の幼稚園に転園になってしまうと環境の変化で子どもにとってはとてつもないストレスになります。大人の都合に振り回されるのは子どもたちです。本当に子どもたちのことを一番に考えての行動なのか疑問に感じます。 実際いつから統廃合をはじめるのか具体的な時期も教えていただきたいです。 コスト面、大人の都合よりもまずは子どもたちのことを一番に考えていただきたいです。よろしくお願いします。 小学校の中に併設されてる幼稚園です。小学校とも連携をとって下さっています。休み時間に卒園して小学校に行ってる子達が先生に会いに来たりもしています。一年生にとっては特にそれだけでも安心できるのではないのでしょうか。卒園してからでも安心して小学校に送り出せる素敵な場所です。 どうか残せるなら残してほしいです。 そして下の子も大津幼稚園卒園させたいです。 どうかよろしくお願いします。	平成28年度には、最も大きな要望として、「3年保育の実施」、次いで大きな要望として「預かり保育の充実」が提案され、順次実施してきたところですが、その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて再編に係る検討を行っているものです。 跡地利用についてはご意見として承ります。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。 また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。 なお、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	子育て支援全般 地域との関わり 進め方 幼小連携

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
106		その他	瀬田幼稚園の保護者です。子は2人おり、上の子は私立保育園卒、下の子が現在幼稚園に通園中です。下の子は未就園児の頃から発達の関係で大津市の制度にお世話になってきました。大津市の未就学児の支援はありがたいと感じて子育てをしております。大津市の公立の赤ちゃんや幼児に関わるお仕事をされている方々は皆さん温かい方ばかりで、大津市独特の雰囲気をみなさんお持ちだと感じています。私立保育園が全て悪いとは言いませんが、子供にとって本当に良い環境かどうか考えると大津市の幼稚園は私立に比べてはるかに優れているとはっきり感じます。未就学児の段階で詰め込み教育を行ったり、ただ預かっているだけの様な保育、園庭が狭い、先生とのコミュニケーションが全くない、園が保護者に対して閉鎖的、子を『預かってあげている』というスタンス、『なるべく自宅保育』という先生の気持ちが透けて見える様な保護者に寄り添いのない対応、などを私立保育園で感じました。大津市のレベルの高い先生方がこのままではどんどん潰されて、しょうもない保育園が増えて大津市の未就学児の環境レベルが下がってしまうのは本当に悲しいです。 大津市は『希望する者がいない』と切り捨ててのではなく、希望する人が増える対策をとって欲しいです。大津市に幼稚園が誕生して150年以上と聞きましたが、その歴史を大事に大津の子供たちの為に努力されてきた先生方がもっと輝けるようにしてはいただけないのでしょうか？今のやり方では、利益が無いから切り捨ててるだけにしか見えないですし、お金を使う所を大津市は完全に間違ってます。草津に人が流れて近い将来大津市過疎化するんじゃないかって心配です。	民間保育園等を含めて、全ての就学前施設が大切な施設であると考えており、どの施設を選ばれても、より良い教育環境が得られるようにする必要がありますと考えております。 23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものです。これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 また、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、財政的見地から再編を検討しているものではありません。	預かり保育の拡大 予算削減・効率化
107			4月19日のパブリックコメント説明会に出席いたしました。 コスト面についての質問をさせていただいた者です。 再編、統廃合に賛成です。 該当頁48ページを拝見すると、築年数がかなり経っている園も多く、その修繕やメンテナンスもかなり費用が必要かと思います。 耐震面でも不安です。 市立保育園と統合して認定こども園にする。 大津市立にこだわることなく民営化していくことも検討されてはいかがでしょうか。 公立幼稚園、公立保育園を民営化していくのは世の流れです。 自治体は補助金を出す形で携わっていくのが良いと思います。 大津市民として極々わずかではありますが住民税を納めている者として、税金を有意義に使っていただきたいと思います。 幼児教育の大切さ、保護者支援の大切さはよくわかります。 しかし限られた財源の中でどうやりくりしていくのかは、大津市民全員にとって非常に大切なことです。 最後に私は他県ではありますが30年近くに渡り、幼児教育、保育の現場に携わってきた者であることをお伝えしておきます。	認定こども園化及び民営化については、貴重なご意見として承ります。	再編容認 認定こども園 予算削減・効率化
108	23	（８）市立幼稚園における就労している保護者に対する支援拡大の取組について	「令和7年度から預かり保育の時間を延長し、…～広く周知しました。」とありますが、本当に広く周知活動に努められたのでしょうか。実際の所、幼稚園に転園を検討するまで預かり保育の存在は知りませんでしたし、令和7年からの実施でやっと1年経ったばかりなのに、効果検証の期間が不十分すぎると思われます。もう少し効果検証を経てからの再編案としてほしいものです。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
109	32	3地域の実情に応じた通園支援の方法を検討していく	「原則「徒歩による通園」としてはいますが…～通園方法の見直しを行う必要があります。」とありますが、現在うちの子供は富士見幼稚園に通っております。それが再編案にある様に膳所幼稚園への統合となると、車通りの多い大通りをわざわざ歩かせることになるのではないのでしょうか。自転車で渡るにしても危ないですし、車で通園としたら膳所幼稚園は駐車場が3台分しかなく、朝の通園が困難を極めることが想定されております。バス通園にしても膳所幼稚園の前の道は狭く、大変難しく思われます。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
110	32	4より良い教育・保育環境を大津市の全ての子ども達に提供できるように検討していく	「…～施設の老朽化への対応など、大規模修繕を含めた施設整備の計画的な推進について検討していきます。一方で、施設整備のためには莫大な経費が必要となってくることから、再編等の検討と併せて、設備投資先の選定についても検討を行います。」とありますが、うちの子が通っている富士見幼稚園は、10年前に大幅な改装が行われており、建屋はピカピカでとても新しく感じております。ところが反対に、統合予定先の膳所幼稚園は改修されたのは37年前で、「増築時に改修」とあります。富士見幼稚園の様に改修したてで、ピカピカの幼稚園を古い建屋の幼稚園に統合するのは、いかがなものかと思われます。しかも膳所幼稚園の改修にもお金がかかりますし、もっと幼稚園再編の他に費用削減できる部分があるのではないのでしょうか。	再編の方向性は、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過
111	25	第1章 4 市立幼稚園が果たしてきた役割	○大津市立幼稚園の再編について 各中学校区毎に公立幼稚園を一つの園に再編していくという計画は、これまで大津市立幼稚園が培ってきた「子どもの主体性を育て、一人一人を大切にする教育」を継承していくためには有効な一つの方法であるとは考えます。しかし実際に統廃合された際に、現在公立幼稚園に通われている親子がどの程度公立を選ばれるかと考えた時、さらなる園児減少を引き起こさないか心配です。 これまで大津市の公立幼稚園は各小学校区に設置され、自宅から歩いて通える範囲内にあったことも通いやすさから選ばれる大きな要因であったと思われます。現小学校区から離れた学区に通いやすくするためには再編に伴う通園バスや駐車場の整備が必須になるとと思われます。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
112	25	第1章 4 市立幼稚園が果たしてきた役割	またもう一つ公立離れを引き起こしている大きな要因は給食の有無と考えられ、保護者負担を軽減するためにも是非給食も導入していただき、公立幼稚園へのハードルを下げていただければと思います。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
113	25	第1章 4 市立幼稚園が果たしてきた役割	さらに現在の保育時間ではフルタイムで働く保護者のニーズには応えられず、待機児童の解消という意味でも預かり保育の保育時間を拡大することが求められています。 以上の要件を満たす為に必要であるならば幼保連携型認定こども園への移行も視野に入れ、未来を担う子ども達のために大津市立幼稚園が一番大切に継承を望んでいる教育・保育内容で園を選んでいただけるような環境整備をどうぞよろしくお願いいたします。	預かり保育の時間延長については、今後の施策の参考とさせていただきます。 今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。 認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	預かり保育の拡大 待機児童 認定こども園
114	27	第2章 1 就学前教育・保育のあり方について 3 基本的な方針について 5 再編等の方向性検討について	○大津幼稚園の再編について ・大津市立大津幼稚園の創立と歴史は大津市立幼稚園の中でも特別なものであり、教育遺産として残していく価値のあるものであるということ。 ・中央小学校の敷地内にあり、今日の教育に求められている密な幼小連携を可能とする理想的な立地条件にあり、これまでも実践を重ねてきたこと。 ・大津祭などの伝統行事に触れ、保育にも取り入れる等、常に地域の中の幼稚園として地域の活性化にとっても必要な園として存在してきたこと。 ・小規模園のよさを生かし支援の必要な親子にとっても安心できる一人一人に丁寧に寄り添う保育を実践してきたこと。 以上のような特色を生かし、大津幼稚園を大津市の一つの財産として大切に残しながら、さらに質の高い幼児教育を目指していけるよう、認定こども園もしくは幼小一貫校等のモデル園として整備し存続させることは不可能でしょうか？ 数による平野幼稚園との統廃合でその希少な価値をなきものとしてしてよいのか、是非再度ご一考いただければと思います。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。 なお、検討委員会では、幼小一貫校についての意見も出ておりますが、集団規模の確保という目的を達することができないことから、計画案には含めておりません。 また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	認定こども園 幼小連携
115			大津市が示している幼稚園再編成について、以下の理由から反対いたします。 1.地域の子育て環境が大きく損なわれる 大津幼稚園は、地域の子どもたちが身近な環境で安心して通える重要な教育拠点です。統廃合により通園距離が伸びることで、保護者の負担が増えるだけでなく、地域で子どもを見守る環境が弱まり、子育てしやすいまちづくりの理念にも反します。 2.子どもの安全確保への懸念 遠距離通園は、交通事故リスクの増加や、悪天候時の移動負担など、子どもの安全面で大きな不安があります。現時点で安全対策の具体的な計画が示されておらず、安心して子どもを預けられる環境が維持できるとは言えません。	ご意見として承ります。 通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	地域との関わり 通園支援
116			3.再編の必要性や効果が十分に説明されていない 再編の根拠となる園児数の推計や財政的な理由について、詳細なデータが示されていません。また、統廃合以外の選択肢（既存園の改善、複合施設化、地域連携の強化など）についての検討状況も不透明です。住民が納得できるだけの説明と対話が不足しています。	教育の質については、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	予算削減・効率化 再編基準

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
117			4.教育の質の低下が懸念される 統合により園児数が増加した場合、きめ細かな教育・保育が維持できるのか疑問です。教職員の配置や施設整備の計画が不十分なまま再編を進めることは、子どもたちの教育環境に悪影響を及ぼす可能性があります。 以上の理由から、現行の再編成案には賛同できません。地域の実情を踏まえ、子どもと家庭にとって最善の環境を守るためにも、拙速な統廃合ではなく、より丁寧で開かれた議論を求めます。	33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
118	52	「カ打出中学校校区大津幼稚園の再編について」	意見：大津幼稚園の再編について反対です。 ・徒歩圏内で幼稚園があるため子どもを3人連れての送迎が救われている現状である。遠くなるとその分の労力が必要になる。 ・小学生との交流ができる環境であるため、進学した時に安心して通学ができる。 ・幼稚園だけでは厳しいと言うのであれば、幼稚園と保育園がりっせつする子ども園をつくってほしい。 たくさんのご意見があると思いますが、ご検討をよろしくお願いします。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
119	5 15		子どもが大津市立の公立幼稚園に通園しています。私は長時間パートを週5日しているので、預かり保育事業はとてもありがたいです。しかし、周囲の未就園児をもつママからは「幼稚園でも働くことができるの」や「預かり保育があるの」など幼稚園の預かり保育事業を知らない人が多い。「働いていても幼稚園」をもっと周知すべきである。共働きでも幼稚園に通えることを周知してもらいたいです。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。	預かり保育の拡大
120	5 15		今年度は、幼稚園教諭の異動が多いと感じた。ひどい人事です。質の高い幼児教育を求めて幼稚園をえらんでいるのに、教諭の余裕がないと、保育の質の低下につながると思う。実際、園での様子をみても、先生たちはとても大変そうです。園庭開放があっても、親と子どもの様子を話すことはあまりなく、すぐ職員室で事務をしている。悲しい。	人事に関しては、当検討委員会では関与しておりません。	人事異動
121	5 15		子ども園や保育園にもそれぞれ特色があるように幼稚園にもそれぞれ特色がある。例えば、自然豊かな環境であるんだり、虫とりやお花つみをしたり、地域の方々との交流など。こども園や保育園は子どもを預けるための場所だが、幼稚園は教育の場だと思っている。子どもにとって最初に経験する小さな社会です。 園児数はたしかに減少傾向だと思いますが、大津市はアピール不足だと思う。「駐車場があるから統合先はあの園」ではなく、子どもの教育にとってふさわしい園を統合先にするべき。遠すぎる園では、統合されたとしても選択制を利用して通う人がいなくなっていく。 選択制について知らない親が多い。市のアピール不足です。 とにかく幼稚園の統合には反対です。幼稚園をなくさないで。	選択制の周知については、担当所属に共有します。	その他
122	52	「カ打出中学校校区大津幼稚園の再編について」	1. はじめに 本市における少子化の進行、保護者の就労状況の変化、保育ニーズの高まり等により、市立幼稚園を取り巻く環境が大きく変化していることについては十分理解しております。 また、子どもたちにとってより良い教育・保育環境を確保するため、市全体として持続可能な体制を構築する必要があることについても異論はありません。 その上で、本計画において大津幼稚園が第1段階の再編対象として位置付けられている点については、判断根拠および評価プロセスの観点から重要な疑義があるため、慎重な再検討を要望いたします。 2. 再編段階区分の妥当性に関する疑義 本計画では、再編の時間軸として第1段階（令和8年度～令和12年度）および第2段階（令和13年度～令和17年度）が設定され、その区分基準として「園児数が10人を下回るか否か」が示されています。 しかしながら、資料中の園児数推移（表12）によれば、大津幼稚園は令和6年度において一時的に10人を下回る（8人）ものの、その後は再び10人以上の水準（10～12人程度）で推移する見込みとなっています。すなわち、継続的に10人未満の状態にあるとは言えないにもかかわらず、第1段階に区分されている点については、その判断の妥当性に疑義があります。 短期的な変動ではなく中長期的な傾向に基づいて評価すべきであり、一時的な数値の下振れをもって早期再編の対象とする場合には、その判断基準および考え方を明確に示す必要があります。しかしながら、現行資料からはその説明が十分に読み取れず、基準と運用の整合性および判断過程の透明性に課題があると考えます。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けています。ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行いました。が、明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。 また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と概要について」の部分で検討を行っておりますので、その旨を追記します。	再編基準

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
123	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	3. 園児数減少要因の構造的分析の必要性 本計画では園児数減少の主因として少子化および保育ニーズの高まりが挙げられていますが、資料の内容からは以下の構造が読み取れます。 ●保護者の就労状況により利用希望施設が大きく異なること ●保育所・認定こども園の利用が増加する一方、幼稚園のみが減少していること ●預かり保育の利用が年々増加していること これらは、幼稚園需要そのものの消失ではなく、共働き世帯において幼稚園が選択肢として十分認識されていないことによる構造的な選択制約の存在を示唆しています。	ご意見として承ります。 ご指摘の内容を「保育ニーズの高まり」と呼んでいます。	人口推計・園児数推計
124	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	4. 制度改善と需要回復の可能性 本市では令和7年度より、預かり保育時間の延長（8:30～17:30）等、働く世帯にも対応可能な制度整備が進められています。 また、預かり保育の利用割合が増加していることから、一定の潜在需要の存在が確認できます。しかしながら、これらの施策は令和7年度開始と比較的最近の取組であり、その効果については十分な検証がなされていません。 したがって、現在の園児数減少は制度移行期における一時的な状況である可能性があり、制度の認知向上および利用環境の改善により、需要が回復する余地があると考えます。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
125	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	5. 大津駅周辺における地域特性の考慮 市全体では就学前児童数が減少傾向にある一方で、大津駅周辺においては近年マンション開発が進み、子育て世帯の流入が見られます。 このような地域においては、 ●将来的な児童数増加の可能性 ●駅近立地による通園利便性 ●小学校併設による教育環境の連続性 といった固有の価値が存在しており、全市的な平均値のみで判断することは適切ではありません。	人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。 なお、「駅近立地による通園利便性」及び「小学校併設による教育環境の連続性」については、これまでから変わらない条件であることから、過去の園児数の推移の傾向に反映されているものと認識しております。	人口推計・園児数推計
126	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	6. 大津幼稚園の教育的・地域的価値 大津幼稚園は、 ●公立園としての安定した教育環境 ●小学校との円滑な接続 ●伝統が育んできた地域との継続的な関係性 といった、単なる園児数では測れない重要な価値を有しています。これらは地域に根差した教育資源であり、将来的にも維持・活用されるべきものです。	ご意見として承ります。	園の特徴
127	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	7. 結論および要望 以上を踏まえ、以下の点について強く要望いたします。 1.再編段階の区分について、中長期的傾向に基づく評価および基準との整合性を明確に示すこと	ご意見として承ります。	再編基準
128	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	2.将来推計や地域要因を含めた評価プロセスの透明化を図ること	ご意見として承ります。	検討経過
129	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	3.令和7年度開始の施策（預かり保育等）について、十分な検証期間を設けること	3点目については、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。	預かり保育の拡大
130	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	4.大津駅周辺の地域特性を踏まえた個別評価を実施すること	4点目については、ご意見として承ります。	人口推計・園児数推計
131	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	5.上記検証および説明が尽くされるまで、大津幼稚園の第1段階での再編判断を留保すること 再編は一度実施されると元に戻すことが困難である一方、需要は施策により回復可能な性質を有しています。 将来世代にとって最適な教育環境を確保するためにも、拙速な判断を避け、慎重かつ透明性の高い検討を行っていただくことを強く求めます。	5点目については、ご意見として承ります。	その他

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
132	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	反対です。 主な理由は以下の3つです。 ①様々な理由から大津幼稚園が大好きなこと ②統廃合により幼稚園が遠くなる ③2024年から2年連続待機児童全国最多の大津市がなぜ市立幼稚園統廃合し子どもの居場所を減らすのか。 ①様々な理由から大津幼稚園が大好きなこと 様々な理由については ・小学校と同じ敷地内、『5・5交流』があること 自分が小学校1年生だった時の、6年生との思い出はありますか？私自身は覚えていません。しかし3月、1年生の息子は「6年生さんのことを忘れたくない。僕のことを忘れないで欲しい。卒業しないでほしい。」と話していました。 昨年このような記事がありました。 こども園と小学校が同じ敷地に鳥取県米子市に幼保小連携型施設完成(朝日新聞2025年4月10日) 同じ敷地内に認定こども園と小学校を設けて保育と小学校教育の連携を図る「幼保小連携型施設」が今月、鳥取県米子市内に完成した。市内では初めての施設で、園児が小学生と交流することにより、小学校にすぐになじめない「小1ギャップ」の解決などを目指す。 7日にあった完成式典で、伊木隆司市長は「『小1ギャップ』は課題で、環境の変化に適応出来ない子もいるが、ここでは入園からあたかも小学校に来たかのような雰囲気でも過ごすことが出来る」と意義を強調した。 まるで大津幼稚園と中央小学校のことかと思いました。 朝日新聞さんが取り上げるくらい画期的なことを長きにわたり行っている大津幼稚園を大津市長はもっとアピールするべきではないでしょうか。	ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携
133		132の続き	大津幼稚園には同じ敷地内だからこそできる『5・5交流』があります。年長5歳児と中央小5年生が1年間定期的に交流します。 息子にとって5・5交流があったことが、小学校生活最初の1年間でどれだけ心強いものにしてくれたことか。 現在2年生になる息子は入学式翌日の初登校日には手先が冷たくなり、歩き方もロボットのようになるほど緊張していました。 しかし帰って来た息子は笑顔で「〇〇ちゃんに会えた！！」と5・5交流で出会い大好きになった6年生さんのことを話してくれました。それ以降も1年生の給食や掃除には6年生が補助で付いてくれるそうですが、そこに毎日知っている6年生の誰かが来るから楽しみ。自分の名前を呼んでくれる。頭を撫でてくれる。休み時間6年生と鬼ごっこした。 『5:5交流』があったからこそ、息子はすぐに小学校の仲間入りが出来たように感じます。私も息子も6年生さんが大好きでした。 また、現在年中の息子がまだ0歳の時、当時の5歳児さんから「また5・5交流で5年後会おうね！」と声をかけてもらいまし	ご意見として承ります。	幼小連携
134		133の続き	・地元の思い出 大津幼稚園は長い歴史があり地域の方との交流も盛んです。 大津市ホームページに掲載されている、「大津祭の曳山行事」のユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」への記載を受けての大津市長コメントでも、「このたび「大津祭の曳山行事」が、ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」へ追加記載されることが正式に決定しましたことを大変喜ばしく思います。400年という長い年月にわたって大津祭を守り伝えてこられた先人をはじめ天孫神社、大津祭保存会、特定非営利活動法人大津祭曳山連盟、各曳山町など関係者に心からの敬意を表する次第です。今も大津祭は、湖国三大祭の一つとして多くの市民に親しまれ、本市を代表する観光資源になっております。また、国指定重要無形民俗文化財に指定されるとともに、それぞれの曳山は大津市指定有形民俗文化財でもあります。	ご意見として承ります。	地域との関わり

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
135		134の続き	本市においては、平成6年（1994年）、比叡山延暦寺が世界文化遺産「古都京都の文化財」に、令和5年（2023年）に園城寺（三井寺）の「智証大師円珍関係文書典籍－日本・中国の文化交流史－」が「世界の記憶」に登録されましたが、今回、「大津祭の曳山行事」が無形文化遺産となったことによりまして、ユネスコに関連する文化財は3件を数えることとなりました。引き続き、本市の誇る歴史文化遺産を関係者の皆様と力を合わせて後世に受け継いでいくとともに、文化財の活用による地域活性化に力を尽くしてまいります。」とありますが、最も関わりの深い大津幼稚園を無くすことは、このコメント内容に反しているのではないのでしょうか。 大津幼稚園は中央学区内にある天孫神社にお散歩も行くし、曳山展示館に親子遠足に行くし、曳山湯立山さんに乗山体験もさせていただいていますし。これぞ大津市長のコメントにある「後世に受け継いでいく」「文化財による地域活性化」ではないのでしょうか。 親として、息子たちが大津幼稚園時代に、地元の歴史や伝統に触れる機会が多くあることが、とても嬉しく思います。それは、事情があり私自身が幼少期を過ごした「地元」の土地に入ることが出来ないことも理由の一つです。地元の小さなお祭りやお神輿、毎日遊んだ公園や幼稚園、死ぬまでもう一度食べたい地元のレストランのハンバーグ。何年も経つのに、夢に見ます。それは戻れない寂しさではなく、楽しかった思い出として、です。仕事でうまくいかない時、育児で心が折れそうな時、自分にも「楽しかった子ども時代があった」その地元の思い出がふとよみがえり、小さな癒しになる瞬間があります。しかし私はそこに戻れないし、息子たちを連れていってやることも出来ません。いつか息子たちが今後の人生の中で何かにつまづき自分を見失いそうになった時、ふと思い出してクスツと笑ったりあんなことあったな、と懐かしんで笑顔になったり、そしてまた頑張ろうと思うきっかけになる。そんな小さな支えが『生まれ育った地元で過ごす今』かもしれません。 私は、家から離れたたくさんの人数のお友達と過ごす幼稚園環境よりも、今こうして家から近い地元の幼稚園で地元色の濃い園生活を送ってくれることを強く願います。 園児数が多いにこしたことはないし、家からの近さだけで良い悪いを決めたりはしていませんが、とにかく大津幼稚園は楽しい園です。それを伝えたい。 ②統廃合により幼稚園が遠くなる ・ワンオペ育児の救い 子どもがつなげてくれた縁に、親の私が救われています。 私は息子が生まれ、大津幼稚園の「すずめクラブ（0～3歳児親子通園事業、現在の名称はたんぼクラブ）」と「ことりクラブ（2～3歳児親子通園行事）」に行くまでは、孤独でした。 引っ越し後の知り合いのいない土地での妊娠出産となり、夫は休みのない仕事、お互いの実家には頼れない環境で里帰りせず初めての育児が始まりました。 0歳の息子を抱っこ紐して散歩をしながら「こんなとこに幼稚園があるんだ」と思っていた程度でしたが、たまたま子育て総合支援センターゆめっこを利用中に出会ったママから大津幼稚園の親子通園行事の存在を覚えてもらう機会があり、ドキドキしながら初めてすずめクラブに行った日を覚えています。いつも親子で過ごしていた私にとって、毎週すずめクラブに行けることはとても楽しみで、子どもの刺激になることはもちろん、いつかこの子も幼稚園に行く日が来るのかと子育てのイメージが膨らんだり、先輩ママから情報をもらったり、とんでもない安心感をもらいました。『中央学区で子育てをしている』ことが心強く、あの日適当に引っ越し先のマンションを決めた自分を褒めまくりました。「大津に引っ越してきてよかった」「大津で子育てができてよかった」と思えたことは大津幼稚園と、そこで出会えた方々のおかげです。子どもが繋げてくれた縁に支えられて私は今充実した毎日を送っています。 ・徒歩圏内に幼稚園があること 診断は受けていませんが、私は産後うつだったと思います。育児ノイローゼにもなりかけていた(なっていたかも)と思います。それだけ孤独な育児は死をイメージしてしまうほど辛く暗く終わりのない世界でした。今こうして笑っていただけるのも、PTA役員に立候補したいと思ったのも、大津幼稚園が好きだからです。大津幼稚園に救われたあの時の私のように、苦しんでるママパパがいるなら役に立ちたいと思えるからです。もし、あの時大津幼稚園がなかったら…なんて怖くて考えたくありません。 在園児にとっては、通園距離はバスなどで解決できるのかもしれませんが。 しかし、自宅から徒歩圏内に、赤ちゃんを連れてお散歩できる距離に「幼稚園」がある、それだけで救われた命がここにあります。	ご意見として承ります。	地域との関わり
136		135の続き		子育て支援全般については、ご意見として承ります。	子育て支援全般

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
137		136の続き	③2024年から2年連続待機児童全国最多の大津市がなぜ市立幼稚園統廃合し子どもの居場所を減らすのか。 ・街に暮らす子どもは増えているのに、なぜ幼稚園を減らすのか。 こども家庭庁が2025年8月29日に発表した全国の待機児童調査で、2025年4月1日時点の待機児童数が多い上位10自治体に、大津、草津、近江八幡の滋賀県内3市が含まれました。大津市は132人で、2年連続の全国最多。すべきことは逆ではないでしょうか。 園児数の減少は子どもの数が少ないことが原因ではなく、共働きなどで幼稚園を選択できる家庭が減っていることにあるのではないかと思います。 私が大津に住み始めた9年前から現在まで中央学区内だけでも、ファミリー向け分譲マンションが8棟建設され、現在建設途中が2棟あり、中央学区に暮らす子どもが増えているのは明らかです。子どもが少ないのではなく、幼稚園を選択できる家庭が減っているのであって、園児数を確保する術は統廃合だけではないはず。幼稚園の教育力を最大限にアピールしたり、共働きの家庭も幼稚園を選択できる様々な可能性を提示したり、そうした幼稚園の魅力を発信することが園児数増加につながるのではないのでしょうか。 以上の点から、大津市幼稚園再編計画には反対です。	待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。 なお、就学前児童の人口推移は4ページに記載のとおり、一部の小学校区を除き減少傾向にあります。	待機児童
138	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	大津市の幼稚園再編について、反対いたします。理由は大きく二つあります。 【1つ目】 学区内の未就園児家庭、特に母親にとってのセーフティーネットとしての役割があるためです。 現在の議論では在園児にとっての課題が中心となっており、未就園児家庭への影響についての検討が十分とは言えない点に、強い懸念を抱いています。 私は、子どもの健康上の問題で、1年以上にわたり外出や他者との交流をほとんど持てない状況にありました。相談できる相手も限られ、精神的に非常に不安定な状態に陥った経験があります。 そのような中で、学区内の幼稚園による少人数の親子登園事業(ことりクラブ)に参加できたことは、子どもの発達面だけでなく、保護者である私自身の精神的な安定にも大きく寄与しました。 ずっと自宅保育で何もしてやれていない、と責め続けていましたが、「お母さん、この子は2歳なのに、もう3歳で身につける力を習得していますよ。大切に育ててくれたんですね」と先生方に言って頂いた時、どんなにホッとしたか、今思い出しても涙が出ます。保育のプロの言葉は絶大で、やっと味方ができたと思いました。 このように、未就園児家庭は状況によって簡単に孤立し得る存在です。学区内から幼稚園がなくなることは、こうした家庭の支えを失うことにつながり、見過ごすことのできない問題であると考えます。 一方で、「明日都のゆめっこがあるため代替可能ではないか」との意見も想定されますが、実際には役割が大きく異なります。 児童館は自由利用が中心であり、日によって利用者数が変動するため、精神的に不安定な状況にある保護者にとっては利用のハードルが高い側面があります。 これに対し、幼稚園の親子登園は登録制で人数が把握されており、安心して参加できる環境が整っています。1時間半程度の短時間で構成されており、通いやすい工夫がされています。また、教職員が主体的に関わることで、子どもの成長を実感できると同時に、保護者自身の自己肯定感の回復にもつながります。同年代の子どもとのびのびと遊ぶ子供を見て「私のしてきたことは間違っていなかったんだ」と自信になりました。 精神的に余裕のない状況にある家庭にとって、生活圏外の施設へ通うことは大きな負担となります。 負担どころか、選択肢としてなくなる可能性があります。そのため、学区内に幼稚園が存在する意義は極めて大きいと考えます。私自身、この仕組みによって救われたという実感がありますが、同様の状況に置かれる家庭は少なくないと考えます。	1つ目については、子育て支援に係る市全体に対する意見として承ります。	子育て支援全般
139	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	【2つ目】 大津小学校との就学前交流が失われ、小学校に隣接して運営されている意義が大きく損なわれるためです。 現在、当該幼稚園では小学校高学年との継続的な交流が行われており、就学前の子どもたちにとって貴重な学びの機会となっています。異年齢との関わりを通じて、社会性や協調性、他者への思いやりを自然に育むことができる点は、大きな教育的価値を持つものです。こうした環境は、兄弟姉妹の有無に関わらず、すべての子どもにとって重要な意味を持ちます。 我が家では「一人っ子のつもりだが、きょうだいがいないと大切な社会性が身につかないんじゃないか…」と心配していましたが、この交流の存在は、子どもの成長環境に対する不安を軽減し、入園を決める要因の一つとなりました。 しかしながら、統合により小学校との物理的・日常的な距離が生じることで、このような密接な交流の継続は困難になることが想定されます。それは単に一つの行事が失われるということではなく、「地域の中で子どもが育つ」という環境そのものの魅力を低下させることにつながります。 以上の点から、再編には反対いたします。 一方で、園児数の減少等により再編が避けられない事情があることも理解しております。 その場合においては、単なる統合ではなく、大津幼稚園の認定こども園化などを含め、現在の施設が持つ子育て支援機能を維持・発展させる方策を検討していただくことを強く望みます。 本地域においては、保育ニーズと幼稚園教育双方のニーズが依然として存在しており、それらを両立させる視点が不可欠です。地域の実情に即した柔軟な制度設計により、子どもたちと保護者にとって最適な環境を維持していただくことを求めま	2つ目について、本検討の内容は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであります。 また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。 なお、認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	幼小連携 認定こども園

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
140	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	以下の点から反対です ①通園方法 ・雨の日の安全性、4月から自転車の規制も厳しくなり事故、事件通園距離の増加と安全面の不安 ・通園距離が長くなり、送り迎えの負担が大きくなるまた、保護者の就労状況によっては送迎が困難になるケースも考えられる	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
141	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	②小学校との交流が減り進学への不安 ・子どもたちが進学前に環境に慣れる機会が減ることで、小学校生活への不安が大きくなることへの懸念（避難訓練で体育館へ行ってきましたが、交流だけでなく、実際に行くだけでも慣れに繋がる）	小学校との連携については、29ページに記載のとおり、架け橋期の教育の推進を図ることを求めています。	幼小連携
142	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	③少人数保育の良さが失われる可能性 ・異年齢での交流が豊富であり、年中年長になれば下の子供たちを思いやる姿がみられる ・進学すれば知っているお兄ちゃんお姉ちゃんがいることで、不安が減るのではないかと	園の規模については、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
143	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	④兄弟姉妹がいるか家庭への負担 ・小学校と幼稚園に兄弟姉妹が在籍している場合幼稚園が遠くなることで送迎の負担が大きくなる ・緊急時や行事の対応もどうなるのか影響が懸念される	④については、今後の参考とさせていただきます。	通園支援 その他
144	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	⑤統廃合ではなくこども園化して待機児童解消	⑤の認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
145	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	〔反対です〕 大津幼稚園と中央小学校が同じ敷地内に有り、子ども同士の交流が持てることはもちろんのこと、今後も連携を整えていくと聞いています。 我が家は他学区から転入してきました。この幼稚園と小学校が近くにあると言うのも引っ越しを決めた理由の一つであり、この魅力的な施設が再編対象となっていることが信じられません。 しかしながら園児数の減少は否めないもので、立地を活かしたこども園化は有りかと思います。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
146	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	反対です。 私が今感じる懸念点を(歴史や伝統には詳しくないので、実情ベースで)挙げてみました。 【懸念点】 ①通園方法について ・園までの距離が遠くなる家庭が増え、送迎や子供の負担が大きくなる ・通園バスの有無、運行範囲、安全面の配慮は？(通園バスや登下校中の事故もよく聞くので) ・雨天時や災害時などの対応が心配	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
147	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	②小学校への進学について ・近隣小学校との交流機会が減り、就学時の環境の変化に適応しにくくなるのでは？	小学校との連携については、29ページに記載のとおり、架け橋期の教育の推進を図ることを求めています。	幼小連携
148	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	③規模について ・子供達ひとりひとりに寄り添ったきめ細やかな教育ができるのか ・園舎、園庭、トイレなどの施設や設備の整備は？	園の規模については、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。 なお、施設や設備の整備については、計画策定後、個別に検討を進めていくこととなります。	適正規模 その他
149			大津市立幼稚園の再編について、反対の意見をお伝えしたくご連絡いたしました。 今回の再編により、通園距離が長くなり、日々の送迎や子どもの負担が大きくなることを懸念しております。特に小さな子どもにとっては、通園時間の増加や環境の変化は大きなストレスになりかねません。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
150			また、学区の変更により進学先の小学校が変わる可能性がある点にも不安を感じています。地域のつながりの中で築かれてきた友人関係や見守り体制が分断されてしまうことは、子どもにとっても保護者にとっても大きな影響があります。	小学校との連携については、29ページに記載のとおり、架け橋期の教育の推進を図ることを求めています。	幼小連携

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
151			さらに、園児数の増加により、一人ひとりに目が行き届きにくくなるのではないかという点も心配しております。現在のようなきめ細やかな保育環境が維持されるのか疑問です。 加えて、長年地域に根ざしてきた幼稚園がなくなることは、地域の活気や安心感の面でも大きな損失だと感じています。	園の規模については、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模 地域との関わり
152			また、保育園利用者の増加を理由に幼稚園を縮小・廃止するのではなく、幼稚園を利用しやすくする取り組み（預かり保育の充実や利用時間の柔軟化など）によって、幼稚園という選択肢を広げていくことも検討すべきではないでしょうか。 以上の理由から、幼稚園の再編・統合については再検討していただくよう強く要望いたします。少なくとも、保護者や地域住民への十分な説明と意見反映の機会を設けていただきたいと思います。	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
153	19	検討経緯	平成28年度からの議論は承知しているが、令和3年に一旦凍結したと理解している。 「再編基準の見直し」に沿って令和6年から検討を開始したというのであれば、そこが議論のスタート。 「3年連続して5人を下回った場合」以外は、「再編する」のではなく「検討をしていく」という理解で良いか？	35～36ページに記載のとおり、再編基準としては、第1段階又は第2段階で再編等を行うとしています。 なお、再編基準以外の要素については、51ページ以降に記載のとおり、別途検討を行っています。	再編基準
154	説明会	議論の進め方	パブコメの前に地元の意見を聞くべきであり、住民感情を無視した再編方針は決して受け入れられるものではない。 特定の幼稚園が5年後に廃園になることを印象付ける報道がなされた本案は一旦撤回して丁寧に議論していくのが筋。そもそも大津幼稚園では昨年度の卒園者は20名おり、36頁のイには該当しない。（増加に転じる推計）	色々な立ち場の委員により検討を行い、意見を取りまとめた結果に対してパブリックコメントを実施しているものであり、計画として策定されたものではありません。 なお、36ページのイについては、卒園児ではなく3歳児を基準としたものです。	検討経過 再編基準
155	25	地域との関係	地域コミュニティの重要な拠点のひとつであり、日ごろの挨拶等はもちろんのこと、作品展や音楽会等を通じて、老人を中心とした住民と、園児、保護者が一体となって健全な子どもを育成しており、集団規模よりはるかに重要であると感じている。 地域住民の心のよりどころであり、健康で明るい生活につとめるためにも、大津幼稚園は大きな要素である。	地域との関わりについてはご意見のとおり検討委員会でも議論がありましたが、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討しています。	地域との関わり
156	25	大津祭との関係	30年前から園児を曳山に乗山体験をさせるなど、ユネスコ無形文化遺産大津祭の魅力を体感できる幼稚園教育で、将来の大津祭の担い手を育てている。乗山体験をした子どもたちは大津祭に大きな興味をもち、作品展でも多くの園児が曳山に関する作品を造っている。豊かな文化財の一つである大津祭の将来のためにも大津幼稚園卒園児（大津祭ファン）の存在は極めて大きい。	ご意見として承ります。	地域との関わり
157	19	将来性	マンション建設により、町の様相は大きく変わったが、その結果今後大津幼稚園の必要性は高まるはずである。 よって、上段の枠組みの①には該当しない。	人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。また、再編の方向性については、その他総合的に判断して検討しております。	人口推計・園児数推計
158	説明会	歴史・伝統	設立経緯、歴史、1万人を超える卒園者、大津幼稚園は大津の幼稚園のルーツ的な幼稚園であり、80歳を超える卒園者が懐かしく訪問されるなど、その歴史や伝統を考えると極めて特殊な幼稚園である。 大津幼稚園を設立し存続させた先人の苦労や功績を思うと、軽々しく「廃園」など言うべきではない。	地域との関わりについてはご意見のとおり検討委員会でも議論がありましたが、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討しています。	園の特徴
159	説明会	特別な配慮を必要とする子	特別な配慮を必要とする子に対しては、地域全体で支援する必要があり、中央学区では実践できている。 あたたかい目で子どもたちを見守ることができるのは、わが地域の大きな誇りのひとつである。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
160	33	集団規模について	集団規模が最優先との説明だったが、地域で大切に育てた大津幼稚園卒園児が、小学校に入学後「集団に溶け込めない」「社会性・協調性が劣る」等の問題点が実際にあったのか？ 私の知る限りでは、そのような事例はないと思うし、一般論だけで地域の重要な教育の場を破壊すべきではない。	適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。	適正規模
161	23	集団規模について	「過去に10人を下回った年があることを理由に第一段階で再編する」と言うのは全くの愚行であり、「園児が少ないから統合」という思考は短絡的にすぎる。「どうすれば園児が増える」という建設的思考のために行政はあるのではないのか。	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
162	23	集団規模について	認定こども園化等、住民の思いに合致した施策を遂行することが行政の役割であり、住民感情と乖離した「再編」などに労力を使うべきではない。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
163	説明会	集団規模について	早朝、大津の中心部にバスが来て、京都の幼稚園に子供を連れていく。 京都の幼稚園はそんなに魅力があるのか？大津の幼稚園では何故だめなのか？この実態を大津市はどのように考えているのか？	市立幼稚園を否定するものではなく、保護者ニーズが多様化している中において、ご家庭のニーズに合った選択をした結果であると考えています。	市外の施設に関すること
164	説明会	特徴・地域性	「各園の特徴や地域性などを総合的に勘案し」と言っているが、大津幼稚園の特徴や地域性を誰がどのように勘案したのか？大津幼稚園の特徴をどのように理解しているのか？地元の思いをしっかりと聞いたのか？魅力ある市立幼稚園を存続させるために官民一体となって知恵を出し合いましょう。	検討委員会でも大津幼稚園やその地域についての意見は多く出ておりますが、それも踏まえた上での検討結果としてパブリックコメントを実施しております。	園の特徴
165		1.通園環境の激変による就労継続への影響について	本再編案による園の統合・編入は、保護者の就労環境に深刻な支障をきたします。現在、私の妻は「幼稚園に子供を送り届けてから仕事に向かう」という生活リズムを確立していますが、立地条件が変更されることで、物理的にこのスタイルの維持が不可能となります。 教育環境の適正化を掲げる一方で、行政の施策が原因で「退園」や「離職」という選択を迫られることは本末転倒です。保護者の就労実態と幼児教育の継続性を軽視した再編には強く反対します。	実際に検討を進める際には、54ページに記載のとおり、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことが必要であるとしています。	子育て支援全般
166		2.子育て支援施策の方向性と逆行する市政への疑義	先日、NHKの報道でも指摘されていた通り、大津市は子育て世代の流入が多い一方で、待機児童問題がいまだ解消されていない自治体（全国ワースト1位）として全国に知られるところとなっています。このような状況下で、子育て関連のリソースを削減・縮小する方針は、市民の期待を裏切る行為であり、到底理解を得られるものではありません。 また、先日の幼稚園教諭の給与削減案に対しても、テレビ報道やYouTubeなどのネットメディアでも大きく取り上げられ、待機児童数ワースト1の汚名と合わせて、「保育を大切にしない自治体」として全国的にネガティブな形で話題になっています。5万件以上もの反対署名が集まった事実は、市民のみならず社会全体がこの方針に強い拒絶反応を示している証拠です。国を挙げて子育て支援を強化すべき局面において、なぜ大津市だけが時代に逆行し、市のブランドイメージを自ら失墜させるような施策を強行するのか到底理解できず、「子育て支援の切り捨て」を行うことに対し、強い憤りを感じます。	待機児童対策及び職員の処遇に関することについては、当検討委員会では検討しておりません。	待機児童 処遇
167		3.大津幼稚園における独自の教育的価値の継承について	現行の大津幼稚園では、中央小学校との円滑な連携や、子供同士の深い交流・活動が実現されており、これは全国的に見ても非常に優れた教育モデルであると認識しています。小学校へのスムーズな接続（アプローチカリキュラム）や、地域に根ざした活動は、子供たちの社会性や安心感を育む上で欠かせない要素です。物理的な効率化だけを優先し、これまで築き上げてきた質の高い教育環境を破壊することは、大津市の教育的損失と言わざるを得ません。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであり、効率化を目的としたものではありません。	園の特徴
168			以上の理由から、現在の再編案をそのまま進めるのではなく、保護者の就労実態、待機児童問題の深刻さ、そして既存の優れた教育環境の価値を十分に再考し、白紙撤回を含めた慎重な議論を継続することを強く求めます。	ご意見として承ります。	その他
169	34～37	再編基準	再編を検討する場合、数値基準を設定すること自体は否定しないが、目安とすべきであり、地域事情等の個別事情を考慮に入れず機械的に判断するのは、市立幼稚園の数を減らすことありきの乱暴な進め方であり、住民本位の行政とは思えない愚行である。地域住民の声に耳を傾け、地域ニーズ・保護者ニーズに沿った幼稚園・保育園のあり方を検討すべきである。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過
170	2552	市立幼稚園が果たしてきた役割 打出中学校区	「市立幼稚園が果たしてきた役割」に記載の5点は、大津市において今後とも堅持されるべき重要な役割であり、大津幼稚園は、まさにその先駆けとして、長年、同じ敷地内にある中央小学校と密に連携しながら教育活動を展開されている。また、地域の祭りであり、ユネスコ無形文化遺産に登録された大津祭を積極的に教育に取り入れられており、子どもが地域への愛着や感謝の気持ち、誇り、憧れを抱く貴重な機会となっており、保護者も含め地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしている。これは大津幼稚園が現在地に存続してこそ継続される価値である。平野幼稚園に再編されては実現しえないものであり、廃園となっては地域にとつての損失は計り知れない。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
171	219～21	総則 認定こども園への移行の検討	保育ニーズの高まりを受け、大津市立幼稚園の園児数は毎年減少を続けている。一方で、令和7年4月1日の大津市の保育所等待機児童数は132人となっており、令和6年度から52人減っているものの依然全国的に見ても高い数字である。 「大津市立幼稚園の再編等について」が示されたが、市立幼稚園の再編だけではなく、保育所等待機児童対策も合わせて検討されるべきであり、再編の対象とされる幼稚園については、認定こども園への移行も含めた検討を行い、それを再編案として示すべきである。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。 今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。 なお、待機児童の95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	待機児童 認定こども園

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
172	4 1 1 1 6 4 6	就学前児童人口推移 大津幼稚園児数推移 幼保一元化の取組 再編等の方向性	中央学区の就学前児童人口は増加傾向にあるが、大津幼稚園の園児数は減少傾向にある。一方、「大津市立幼稚園・保育園のあり方方針」では、「幼保一元化の取組」として「園児数が少ない地域を中心として、認定こども園への移行などの取組の促進」が明記されている。保育ニーズの高まりがあることを考慮すると、大津幼稚園を「幼保連携型認定こども園」として存続させることは、中央学区住民の保護者ニーズにも応える対応であり、是非とも前向きに検討していただきたい。 大津市立幼稚園の配置について、小学校区から中学校区に広げて再編という案の提示は、事実上の大津幼稚園の廃園と受け止められ、断じて容認できるものではない。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
173			大津幼稚園や逢坂幼稚園について、安易な統廃合ではなく、こども園への再編を望みます。 学区内に幼稚園がなくなることは、隣接する小学校との幼少連携・就学前教育の柱を失うことになる。平野幼稚園への安易な統廃合は永年培われた地域の教育力の低下に繋がり、大津まつりなど地域文化の伝承が困難になる。 息子達は滋賀県で就労している子育て世代であるが、待機児童数全国ワースト1の大津市を避け、草津市と栗東市に住居を構えた。大津市は子育て世代から魅力がなく、生産年齢人口の激減が危惧されるが、こども園への再編によって改善されるのではないのでしょうか。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
174			大津市の幼稚園再編案について、少子化が進む中で、教育環境の質を維持・向上させるためには、一定の集約や効率化は必要だと考えます。 園児数が適正規模になることで、より充実した教育や集団活動が期待できます。一方で、通園距離の増加や保護者の負担には十分な配慮が求められます。給食の提供、送迎支援や預かり保育の充実など、安心して利用できる環境整備を進めながら、丁寧に再編を進めていただきたいと思います。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。	通園支援 給食 預かり保育の拡大
175			先日説明会に参加致しましたが再編の方向での説明質疑応答では検討します。はっきりした返答はなし。園児数が減少しているのは大津市がもっと積極的に幼稚園の良い所を宣伝するとか何か方法があるはず。歴史ある大津幼稚園を統廃合すべきではない。認定型保育園として存続させることを提案します。	検討委員会において意見の取りまとめを行った内容について、パブリックコメントにより意見を聴く段階であること、説明会の目的はパブリックコメントの内容をご説明することであるため、ご意見にあるとおりの回答になっています。 なお、認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園 その他
176			■ はじめに 現在0歳児を育てている母で、子どもは保育園に通っています。 出産を機に初めて保育園や幼稚園について調べ、今後の選択肢として幼稚園も検討したいと考えています。 また、本検討が平成26年から続いていることを知り、市が長期的な視点で取り組まれている点には関心と意義を感じました。一方で、今まさに対象となる保護者にとっては、私のようにこれまで自分ごととして捉える機会が少なかったのではないかと感じています。 ■ 感じている矛盾 幼稚園を利用しやすくする施策（働いていても幼稚園！）と、幼稚園を減らす施策（今回の再編案）が同時に進められている点に、矛盾を感じています。 ■ 背景にある実態 ・認識の問題 働いていたら保育園、専業主婦なら幼稚園という認識は、今も多くの人の中に残っていると感じます。私自身も出産するまでそう考えており、育休復帰時は自然と保育園を選ぶ流れになりました。 ・グレーゾーンの実態 【5・6頁母親の就労状況と家庭類型区分の考え方に対する意見】 資料では「フルタイム」と「パート・アルバイト」という区分がありますが、実態とは必ずしも一致していないと感じます。私は正社員でありながら短時間勤務制度を利用していますが、子どもは結果的に長時間保育を利用しています。また、中小企業で働く環境においては、時短制度自体がない、あるいは期限付きである場合も少なくありません。「パート・アルバイト」短時間勤務は家庭に余裕がある状態ではなく、将来を見据えて保護者の就労を調整している状況だと感じています。 ・本音と建前 調査では長時間保育のニーズがあるように見えますが、本音としては、子どもと過ごす時間をもう少し確保したいと感じている保護者が多いのではないのでしょうか。実際には、仕事や経済的な事情により、そうせざるを得ない状況にあると感じています。私自身がそうです。これは大津市に対する意見というより、社会全体の気運だと思いますが…（働き手不足の言葉にあらわれるような）	子育て世代の貴重なご意見として承ります。 また、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 なお、今回の検討については、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が順次実施されているにも関わらず、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものです。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
177		176の続き	・通園の現実 【14・15頁保護者ニーズの変化に対する意見】 「自宅の近く」は減少傾向にあるとありますが、全体の割合を占める1位であることに変わりはありません。このデータだけでは、納得は得づらいと思います。 もし自宅近くの幼稚園で長時間預かりが利用できるのであれば、保育園を転園し、幼稚園も現実的な選択肢になると感じます。しかし再編によって、通園に車で10～20分かかる、あるいはバスの時間に縛られる状況になると、現実的に利用は難しくなり、結果として保育園を選ばざるを得なくなると感じます。 ■懸念されること 「働いていても幼稚園」という取り組みはとても良いものだと思いますが、周知や理解が十分に進む前に幼稚園の再編が進むことで、かえって幼稚園を選びにくくなってしまわないかと懸念しています。また、幼稚園は単なる預け先ではなく、今後の働き方や子育てのあり方を考える上での選択肢の一つであり、場合によっては転職や働き方の見直しを後押しする存在にもなり得ると感じています。（大津に住みながら京都大阪で働いている人が、大津市内で働く選択をとる等のメリット。） その意味で、幼稚園は子育て世帯にとっての「最後の砦」や、生活を支える「インフラ」の一つとも言えるのではないのでしょうか。そうした存在が利用しにくくなる方向に進んでしまうことに、不安を感じています。	子育て世代の貴重なご意見として承ります。 23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
178		177の続き	■提案 ・時間をかけた周知と検証 新たな取り組みについては、周知や理解、実際の利用に至るまで時間がかかると感じます。まずは一定期間、効果の検証や周知を丁寧に行うことが必要ではないでしょうか。 ・保護者が関われる仕組みの検討 3歳未満児については保育料を負担していますが、3歳児以降についても、例えば月5,000円～1万円程度であれば負担してもよいと感じる保護者も一定数いるのではないかと思います。 そのような形で子育て世代自身が支える仕組みや、寄付・応援金のような形で保護者が関われる仕組みについても、一つの選択肢として検討できないでしょうか。（一度無償化されたものをもう一度…というのはとても難しいことで突飛な意見であると思います。ただ保育給付を受ける保護者としては、今まで払っていたものが軽減されるのはうれしい反面、3歳児以降も皆が少しづつ払いつづけることは可能だと思います。その収入がきっちり保育園・幼稚園の運営に反映されるしくみと実績が明示できれば、理解も深まると思い、意見させていただきました。） 4/17（金）の生涯学習センターのパブリックコメントに参加させていただきました。地域の方や、幼稚園に携わってこられた方の熱のこもった意見に圧倒されました。一番、自分事としてとらえないといけない世代の人は少なく（平日だったからかもしれませんが…）市としても様々な意見を取りまとめるのは、現実的に難しいのだと目の当たりにしました。実際、市民の方の意見の中でも、対極的な部分もあったと思いますし、私もすべては賛成できませんでした。ちょうど1歳になった息子を連れて行き、静かな空間の中で大きな声を出したり泣いたりしてしまいました。後ろのほうにおられた、男性の方（議員さんでしょうか？）が気にかけてくださったり、帰り際も手助けくださりありがたかったです。改めて御礼申し上げます。こんなに親切的な空間なのであれば、子連れでも、気楽に来ていいんだよということがもう少し周知されたら良いと思います。	子育て世代の貴重なご意見として承ります。 23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大 その他
179	23	就労している保護者への支援の拡大について	私は現在、大津市立幼稚園に通う子どもの保護者です。預かり保育が実施されていることは、私が幼稚園を選択した大きな理由の一つです。私は以前から、子どもには幼稚園における質の高い教育を受けさせたいと考えていましたが、就労との両立を考えると、現実的には難しいとも感じていました。預かり保育があることで、働きながらでも幼稚園に通わせることが可能となり、大変ありがたく感じています。 その一方で、現在の預かり保育の時間帯である8時30分から17時30分まででは対応が難しい家庭もあること、また、お弁当やおやつの準備にかかる保護者の負担も小さくないことは事実です。今後、こうした支援がさらに拡充されれば、共働き家庭であっても「幼稚園に通わせたい」と考える保護者が、より安心して幼稚園を選択できるようになると思います。	ご意見として承ります。 給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承りません。 また、預かり保育拡大のご意見については、今後の参考とさせていただきます。	預かり保育の拡大 給食

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
180	31	幼稚園のこれからの在り方について	私は大津市立幼稚園に通う子どもの保護者であると同時に、保育者養成に携わる大学教員としての立場から、本案について意見を述べさせていただきます。私は、大津市立幼稚園は保育・教育の質が高く、環境を通した教育や、子ども一人ひとりの思いを大切にした丁寧な実践が行われていると感じております。先生方も熱意と専門性をもって子どもに関わっておられ、このような幼稚園教育は大変貴重だと考えます。 そのため、今回の再編案が幼稚園を縮小する方向に重きを置いていることについて、本当に子どもにとって最善なのか、疑問を抱いています。少子化や共働き世帯の増加といった社会的背景については理解しておりますが、だからこそ単純に幼稚園を減らす方向ではなく、質の高い幼稚園教育をどのように今後も維持・発展させていくのかという視点が必要ではないでしょうか。 また、本案においては「集団の適正化」や「施設の老朽化」が再編の理由とされているのは理解しております。一定規模の集団の中で子どもが育つことの意義や、安全な施設環境は重要なことです。しかしながら、園児の減少については、幼稚園教育のニーズが低下しているというよりも、共働き世帯の増加に伴い、就労しながら利用するには制度上の制約が多く、結果として選択されにくくなっている側面もあるのではないかと考えます。多様な保育施設が存在する中で、公立幼稚園が果たしている役割は大きく、質の高い幼稚園教育が将来にわたって維持されていくことを望みます。 現在、全国的にも少子化や共働き世帯の増加を背景に、幼稚園から認定こども園への移行が進んでいます。こうした実態を踏まえるならば、大津市立幼稚園についても、幼保連携型認定こども園への移行という方向性も、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。 子どもたちにとってよりよい育ちの場を守りつつ、保護者にとっても利用しやすい仕組みを整えていく視点から、慎重なご検討をお願い申し上げます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
181	34 35	(2) 再編基準（基準とする年齢及び人数） (3) 再編基準に則った検討の進め方について (4) 再編基準について	再編の基本方針について、基準については園児数とし、エリアは中学校区が基本とされている。 南郷中学校区の南郷・大石幼稚園については、園児数の基準から統合されることについては致し方ないと思うが、南郷・大石幼稚園が統合されればこの3年間の実績でも令和12年度までの推計園児数でも15人以上の規模となり、再編の対象となる「3年連続して15人を下回る場合」を外れるはずである。それに関わらず、現状でも再編の検討外の規模である石山幼稚園と3園併せての再編を考える理由は何か。3園での再編ではなく南郷中学区内の南郷・大石幼稚園の統合で十分であるし、基本方針にも沿うのではないか。 それでもなお南郷中学校区（南郷・大石幼稚園）と石山中学校区（石山幼稚園）の3園による再編が強行されるのであれば、幼稚園再編の実績による幼稚園職員の削減や中学校の統廃合まで見越しているのではないかという強い懸念がある。	ご意見として承ります。 なお、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。 なお、再編基準以外の要素については、51ページ以降に記載のとおり、別途検討を行っています。	再編基準 検討経過
182	42	(3) 地域性等の考慮について	(ア) 園庭の広さ 南郷幼稚園→1962㎡に 石山幼稚園右→700㎡ (イ) 築年数 南郷幼稚園→41年 石山幼稚園→49年 (ウ) 駐車場の有無や台数、周辺道路の台数 南郷幼稚園→駐車台数7台 石山幼稚園→駐車台数3台 周辺道路についても南郷幼稚園は道路に面していないのに対し、石山幼稚園は道路に直接面しており交通量も多い。 (エ) 園舎について、石山幼稚園はコの字型に園舎が立っており遊戯室は2階にあり園庭を見渡すときに死角になって目が行き届きにくくなる。 対して南郷幼稚園は園舎自体はコの字型になっているが3学年が横並びとなっており、遊戯室も一階で遊戯室で遊びながらも園庭が見渡せ、安心で、園庭自体も広く自然も豊かで子供たちがのびのび遊べる。 また周辺の交通量が多い立地であることから日常の園生活における安全面にも不安を感じる。 交通環境の違いが事故のリスクになる可能性も否定できない。 以上の点からなぜ石山幼稚園への合併が検討されているか疑問である。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 再編の方向性については、ご意見として承ります。 なお、再編基準以外の要素については、51ページ以降に記載のとおり、別途検討を行っています。	再編基準 検討経過
183	51 52	検討経過と概要について 石山中学校区・南郷中学校区	南郷幼稚園及び大石幼稚園ともに園児数が少ないことから、子供達の育ちの環境を考慮し、石山幼稚園に再編を行うことにする。 とあるが、石山幼稚園に再編する前に、南郷幼稚園と大石幼稚園が再編をすれば1クラス15人以上という数字はクリアする。石山幼稚園に再編する必要はない。 以上の点を踏まえて、3つの園の統合を進めるのではなく、まずは南郷幼稚園と大石幼稚園の2つの園を統合を求め、石山幼稚園への再編を反対します。 対象の幼稚園のいる保護者や先生方の意見にしっかり耳を傾けて頂きたいです。 また子供たちの安全と成長環境を最優先に慎重な検討を求めます。	ご意見として承ります。 なお、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。	再編基準 検討経過
184	52	カ打出中学校区 大津幼稚園の再編について	☆大津幼稚園と平野幼稚園の統廃合に強く反対します!! 大津幼稚園は、同敷地内で公立小学校と隣接する数少ない幼稚園であり、幼小連携がとりやすく、接続期のこども達とその保護者にとって理想的な立地の保育施設であると考えます。 しかしながら、共働き世帯が子どもを預けるには条件が合わず、『選択肢に入れられない』というのが現状です。 現在大津幼稚園に通園中の家庭は、隣接する中央小学校にきょうだいがいる家庭も多く、行事の際や学期始めと学期終わり等、午前保育と半日授業で上の子の下校時間と下の子のお迎え時間が重なる時期も、この立地だからこそ上の子にも負担をかけずに対応できています。 また、3年間通う道がそのまま通学路となること、合同の避難訓練や沢山の幼小連携カリキュラムのおかげで、小1へのスムーズな接続が可能となっています。 検討されている平野幼稚園との統合は、中央学区の親子にとって決して望ましいものではありません。 通園保障においても、徒歩通園を希望して近隣幼稚園を選んでいる母子にとっては毎日の電車通園は負担であり、バス通園も事故が心配です。加えて、平野幼稚園の園舎の劣化も気がかりです。	小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。 再編の方向性については、ご意見として承ります。	幼小連携 検討経過
185	52	カ打出中学校区 大津幼稚園の再編について	通園保障においても、徒歩通園を希望して近隣幼稚園を選んでいる母子にとっては毎日の電車通園は負担であり、バス通園も事故が心配です。加えて、平野幼稚園の園舎の劣化も気がかりです。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
186		幼稚園の園児減少について(要因)	公立幼稚園が選ばれない主な理由は2つあり、1つはお弁当作り、もう1つは保育時間の短さにあると考えます。	ご意見として承ります。 給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
187		幼稚園の園児減少について(要因)	数年前に比べれば延長保育拡大により、預けられる時間が少し長くはなりましたが、それはアルバイト・パート向けの託児時間であり、共働き世帯を呼び込む施策としては、保育園と同レベルの託児時間を設ける必要があると考えます。 『働きながら幼稚園』というキャッチフレーズはとても魅力的ですが、実際に子どもを通わせながら職探しをすると、現状の保育開始時間では選べる職種が限られており、母親の社会復帰を後押しするにはまだまだ不十分であるという現実には直面しています。	預かり保育拡大のご意見については、今後の参考とさせていただきます。	預かり保育の拡大
188		歴史ある大津幼稚園の存続を熱望!!	大津幼稚園の存続を強く希望します!! 学区内において中央小学校へのスムーズな接続においては唯一無二の園です。 創立140周年を目前に控え、歴史がある大津幼稚園ですが、大規模修繕がされ、園舎はとてもきれいです。 周辺にはマンションもたくさん建設され、今後も子育て世帯の流入が一定数見込まれると推測できます。 我が子が入学予定の小学校と隣接する大津幼稚園は、中央学区の未就園児の保護者にとっても魅力的な幼稚園です。	ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携
189		歴史ある大津幼稚園の存続を熱望!!	多くの母が負担と感じる毎日のお弁当作りが無くなるだけでも今後の入園園児数は変わってくると思います。 給食開始や保育時間の延長、また、3歳児からの幼児園・こども園化で2歳児クラス修了時に保育園からの転入を呼びかけるなど、この立地を変えることなく、中央学区の親子が地元で通える保育施設を残す方法を再検討頂きますようよろしくお願いします。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。 また、預かり保育拡大のご意見については、今後の参考とさせていただきます。	給食 預かり保育の拡大 認定こども園 その他
190		統廃合が避けられない場合の周知期間について	保護者は大切な我が子を預ける先をたくさんたくさん悩んで選んでいます。 どうしても統廃合が避けられないとするなら、せめて入園前の幼稚園選択の際に周知すべきであると考えます。 やっと慣れ親しんだ幼稚園を途中で変わることは子どもにとっても母にとっても負担になります。 学区外である平野幼稚園との統合が事前にわかっていれば他の選択肢も考えます。 園児数を増やす為の施策(給食と保育時間の延長)を熱望しますが、大津幼稚園の存続が叶わないのであれば、現在通っている園児たちは他園との交流を増やすなどでサポートしつつ、卒園まで園が存続できるようにご配慮いただきたいです。	できる限り早く周知を行うため、市全体として検討を行っているものです。 なお、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	進め方 給食 預かり保育の拡大
191	52	カ打出中学校区大津幼稚園の再編について	本再編案は、少子化を前提とした合理化施策として一定の理解はできるものの、以下の点で重大な問題を有している。 第一に、人口動態の地域差を考慮しておらず、将来的な児童増加への不可逆的な対応不能リスクを孕んでいる点。	1つ目について、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	人口推計・園児数推計
192	52	カ打出中学校区大津幼稚園の再編について	第二に、保育需要増加を理由とした幼稚園削減は短絡的であり、本来は機能転換による対応が検討されるべきである点。	2つ目について、認定こども園化のご提案と考えられますが、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
193	52	カ打出中学校区大津幼稚園の再編について	第三に、小規模園の教育的価値を過小評価し、多様な教育環境の確保という観点が欠落している点。（現在は、多様な発達レベルに応じた教育を可能としているが全ての均質的な教育への移行は短絡的）	3つ目について、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
194	52	カ打出中学校区大津幼稚園の再編について	第四に、通園距離の増加による安全性および保護者負担への影響が軽視されている点。（共働きの時代に通園距離は非常に重要であり、子育て世代の負担を軽減し、子育てに魅力的な街づくりにより多くのファミリー層を取り込むことが大津市にとって重要である中で政策が逆行しており、短絡的）	4つ目の通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
195	52	カ打出中学校区大津幼稚園の再編について	第五に、歴史的資産である園の廃止が地域コミュニティに与える影響への配慮が不足している点。	5つ目について、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、地域としてご協力をお願いしたいと考えています。	園の特徴

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
196	52	カ打出中学校区大津幼稚園の再編について	第六に、再編基準の適用に一貫性が見られず、政策決定過程の透明性に疑義がある点。（大津幼稚園は、園児が一時的に10人を下回った時期はあるものの基本的に10人以上の園児を有している）以上より、本計画は拙速であり、再検討を強く求める。	6つ目について、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けています。ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行いました。明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と概要について」の部分で検討を行っておりますので、その旨を追記します。	再編基準
197	52	打出中学校区大津幼稚園の再編について	反対です。大津駅前という絶好の立地にあり、歴史ある幼稚園をなくすのは大きな価値の損失です。保育園の待機児童が増えている問題を解決しながら、幼稚園を存続させるために、「子ども園化」をして大津幼稚園を残すことを望みます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。なお、本検討委員会では、待機児童対策については議論しておりません。	認定こども園
198			大津市立幼稚園の再編等について私は反対いたします。 広報おおつの佐藤市長による夢まち通信vol.25や親和会の議会だより2026.3vol.28にも書かれていましたが、確かに幼稚園の園児が減っていることは実感しております。 ですが、いきなり再編とする選択ではなく、幼稚園＝フルタイムで働いてはいられない…そもそのイメージ・体制を変えることはできないものなのでしょうか。 自身の子は現在小学校3年生、大津幼稚園出身です。 専業主婦ではありますが、大津幼稚園を選んだ理由はこうです。 こどもがまだ3歳の誕生日を迎える前に、突然決まった夫の異動。初めての土地・情報も少ない中でいずれかの園への入園を数日で決めないといけな状況でした。そんな中、最初に出身園を訪れ、年少から年長まで縦のつながりがあり、歴史文化や自然に触れあえ、学びのカリキュラムも充実し、適度な広さの園庭で、身体を動かせる、のびのびと過ごせる園に惹かれました。そして、すぐに入園を決めました。 毎日お迎え時には、保護者の方にもお会いでき、知り合いがいな中でお話しができることはとてもありがたい環境でした。通り慣れた通園路がそのまま、小学校の通学路になることも今ではとても強みになっています。実際に臍肩目なしに、新一年生の下校ボランティアで、こどもたちの様子を見ていても、同じ幼稚園出身のこどもたちは、しっかりといて、どこなく気持ちに余裕があります。 5.5交流という、小学校5年生と幼稚園の5歳児が1年を通して交流するという取り組みももっと強みとして広まればいいのと思います。小学校やお兄さんお姉さんと接し、小学校に通うことへの準備・憧れ・期待などが持てるのではないのでしょうか。実際に自身の子も楽しかった・手作りの〇〇をもらえたなど嬉しそうに語っていたのを今でも覚えています。 子も親も大好きな園です。 大津市としての考えもあることは十分承知ですが、大人だけで決めるのではなく出身の園がなくなってほしくないこどもたちの思いも汲み取ってもらえたら幸いです。	ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携
199	52	カ 打出中学校区大津幼稚園の再編について	本案について、保護者の立場から以下の点に強い懸念を抱いております。 第一に、統合による通園距離が増加する児童が発生します。日常的な送迎負担を大きくし、子どもおよび保護者双方にとって通園にくい環境を生みます。移動時間の増加や交通量の多い経路の利用は、交通事故等のリスク増大にも直結する問題であり、安全面への影響を軽視すべきではありません。	1つ目の通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
200	52	カ 打出中学校区大津幼稚園の再編について	第二に、地域との関係性の希薄化が懸念されます。大津幼稚園は135年以上にわたる長い歴史を持ち、大津祭等、地域行事への参加を通じて、子どもが地域社会の一員として育つ重要な拠点となっています。統合により生活圏と園の結びつきが弱まれば、地域文化や伝統の継承にも影響が及ぶ可能性があります。大津市総合計画の第3期実行計画を拝見したところ、基本方針の1つとして、「自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創ります」とあります。大阪府や京都府などで勤務する人々のベッドタウンとして機能している昨今、新たに引っ越してきた親世代並びに子どもたちが、大津市の貴重な文化に触れる機会が減少することは損失であると考えます。	2つ目について、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
201	52	カ 打出中学校区大津幼稚園の再編について	第三に、幼稚園は教育施設であると同時に、地域におけるセーフティーネットとして機能しています。児童の病気や家庭の事情により保育園を利用できない世帯や、待機児童問題により入園できなかった家庭にとって、未就園児教室やプレ参加は社会とのつながりを維持できる極めて重要な機会です。孤立を防ぐ役割を担う場を縮小することは、子育て支援政策の方向性とも整合しません。さらに、大津市では保育園の待機児童問題が深刻化している状況にあります。そのような中で、地域の受け皿となり得る幼稚園を減少させることは、長期的な需給見通しの観点からも慎重であるべきと考えます。加えて、現在は隣接する小学校との日常的な交流により、子どもが自然に就学環境へ適応できる仕組みが形成されています。学区を越えた統合が行われた場合、小学校進学時に再度環境変化を経験することとなり、子どもの心理的負担や適応上の課題が生じる可能性があります。以上を踏まえ、単純な統合・廃園のみを前提とするのではなく、幼稚園と保育園の機能を統合した認定こども園化など、多様な選択肢を十分に検討していただくことを強く要望いたします。地域の実情と子ども・保護者双方の生活実態に即した、持続可能な教育・保育環境の維持を望みます。	3つ目について、子育て支援に係る市全体に対する意見として承ります。 また、認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。 なお、待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	待機児童 認定こども園 子育て支援全般

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
202			反対します。 理由 中央小学校2年生と大津幼稚園年中の孫がいます。娘夫婦に頼まれ、孫の送迎で幾度も大津幼稚園を訪れました。 近隣住民でない私にとっては、徒歩で行けるこの距離だから大切な孫を預かれました。 人も場所も良い環境にあることは娘家族を見ていて分かっていましたが、送迎をするうちにそれは実感として安心感と、時に感動もさせてもらえました。 少し早めに園庭に着いた年度始めのこと、小学校の敷地内にあることで、幼稚園よりも早く終わって小学校から出てきた子供達が幼稚園前を通るときに皆が幼稚園を眺めています。 先生方に手を振る子供に、気をつけて！と応える先生。その様子を幼稚園児達は、無意識にも肌を感じ心強い思いを抱くと思わせてくれる温かい雰囲気がありました。 また孫との行き帰りに地元の方達が声を掛けてくださいます。 おかえり、今日はおばあちゃんとか？等、私まで見守られているようで、孫を預かる緊張感に勇気をいただきました。 孫にとって地元の方とのなごないかわりは、素晴らしい道德教育だなと感じていました。 このような日々はこの地に大津幼稚園があるからです。 どうか大津幼稚園をなくさないでください。	ご意見として承ります。	地域との関わり
203			前段の総則及び基本的な方針・考え方についてこれまでの幼稚園教育について丁寧に記述されており、子どもたちにとって一定規模の集団を確保することが、様々な育ちにおいて重要であることが理解できます。検討を重ねる中で3年保育が実現したことは、大きな成果であると評価します。一方で、社会の変化は非常に速く、より低年齢からの長時間保育を求めるニーズは急速に増加しています。このような状況と比較すると、市の対応はやや緩やかであり、さらなる対応の加速を求めます。そこで、 1. 給食の実施について 「働いても幼稚園！」を推進する上で、給食の実施は不可欠であると考えます。ニーズ調査においても高い要望が示されていることから、すべての園において給食を実施することを要望します。	1つ目について、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
204			2. 再編に伴う通園支援について 再編により、遠方への送迎を余儀なくされる保護者も増えると考えられます。徒歩圏を前提としてきたこれまでの環境から大きく変化する以上、駐車場整備や通園バスの導入等は「配慮」ではなく「前提条件」として位置づけ、公立としての公平性確保の観点からも、具体策を明示する必要があると思います。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
205			3. 地域性を踏まえた再編について これまで各園が地域の特色を生かしながら築いてきた教育実践は、園と地域の双方に活力をもたらし、子どもたちにとっても貴重な体験となっています。再編にあたっては、単なる数値の効率性を優先するのではなく、丁寧な説明と対話を重ねながら進めていただきたいと思います。	3つ目について、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
206			4. 地域性の具体例と提案 晴嵐学区では、2010年から5歳児交流の取り組みを継続し、18年目を迎えています。地域を基盤とし、公民問わずすべての就学前施設が参加する交流事業であり、年間複数回の交流や作品展を通して、子ども・保護者・地域住民にとって貴重な機会となっています。また、教職員にとっても重要な学びの場となっており、公立園が中心的役割を担ってきました。施設や教材が充実した幼稚園が会場となるなど、公立園の存在意義も大きいと感じています。こうした実績を踏まえ、再編にあたっては「就学前教育・保育の学びの拠点（センター機能）」としての役割を担う園の設置についても検討していただきたいと思います。	4つ目について、ご意見として承ります。	地域との関わり 子育て支援全般 その他
207			5. 保育園との一体的な検討について 再編方針において、「別途、市立保育園のあり方を検討する必要がある」と記載されていますが、就学前施設として一体的に検討すべきではないでしょうか。段階的に分けるのではなく、認定こども園への移行を含めた包括的な再編についてよりスピード感を持った総合的な議論が必要であると考えます。特に隣接する園同士においては、幼保連携型認定こども園への移行を進めることで、多様化する保護者ニーズへの対応や待機児童対策にも寄与できると考えます。	5つ目の認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
208			6. 専門性の相互尊重について これまでの経緯から幼稚園教諭は特に教育の分野、保育士は養護と発達支援の分野においてそれぞれが高い専門性を有していることを前提に、互いの知見を惜しみなく共有し、幼保共通カリキュラムを更新しながら学び合い、質の高い教育・保育の実現につながることを強く願います。	6つ目について、ご意見として承ります。	その他

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
209			7. 質の高い幼児教育を支える研修について これまで「質の高い幼児教育」が実現されてきた背景には、市立幼稚園教諭が教育公務員特例法に基づく研修を通じて専門性を高めてきたことが大きいと考えます。今後は、就学前教育・保育に携わる職員の教育、養護に関わる研修体制のさらなる充実と学びの機会の確保が重要になると考えます。これからの就学前教育・保育の充実に向けて期待しています。	7つ目について、29ページに記載のとおり、教師の資質・能力の向上を図ることを求めています。	その他
210	47	教育環境	上田上幼稚園の芝生の園庭は市内の他園ではみられない環境で、裸足で外遊びをすることでこどもたちの身体的な成長につながっている。また菜の花畑、たけのご堀り、大戸川あそび、源内峠越え、里山あそび等、他学区にはないこの地域ならではの特色を活かした保育がなされており、豊かな自然に囲まれた環境と地域の方々のおかげで子どもたちがしなやかに強く逞しく成長していると実感している。これらの体験は大変貴重で、子どもたちの創作や表現などにも存分に発揮されており、また小学校以降の子どもたちの育ちにも多大な影響を与えている。そして幼稚園があることで地域に活性化がみられ、また地域の方々との交流が子どもたちにとっても貴重な機会となっている。幼稚園が地域からなくなれば当然学区の小学校にも影響が及び、地域の衰退を招くこととなる。	園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	園の特徴 地域との関わり
211	37	エリアの考え方	上田上幼稚園や青山幼稚園が田上幼稚園に統合されるとなると、車で送迎が必須となる上に通園時間が延びることによる親子の負担が増大する。特に保育中に体調を崩した際の送迎や災害時における緊急時の対応などに困難が生じる。青山学区に至っては中学校区でもない田上幼稚園を選択する利点がなく、地域の交流も盛んではないため、学区内の1号認定の子どもの実現的な幼稚園の選択肢がなくなり、この事態は公立幼稚園としての機能を果たしていると言い難い。また、現在は多くの公立幼稚園が未就園児活動を実施しているが、遠方まで未就園児を連れていくのは困難であることから未就園児親子の孤立につながりかねない。未就園児活動が就園に繋がっていくことを考えると、これは悪循環であるといえる。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
212	33	適正規模について	1学級の園児数は4歳児で20人以上、2学級数以上が望ましいとあるが、一律の基準がないとも記述されている。1人の教師が子ども達一人一人に十分に関わり、信頼関係が築ける規模として20人は多すぎないか。上田上幼稚園での経験から、十数人の規模は先生と子どもたちの関わりにおいて適正だと実感している。 また、複数級にすることでこどもたちの関係性を変えることができ、人と関わる力が高まるとあるが、幼児期の子どもたちにとってクラス替えが必要であるという根拠が乏しい。特に新学期はクラス替えによる心的ストレスを抱える子どもも多いため、その経験は小学校に上がってからでも遅くないのではないか。逆に単級であるメリットとして、複数年かけて子どもたちがクラスメイトとより深い関係性を築くことができるという点が挙げられる。また、同級生とのかかわりが大切なのは言うまでもないが、縦割りの関係性も大変重要である。各学年が単級であることで、5歳児は下の子たちの面倒をみてあげる、3歳児は上の子たちの行動に憧れを抱くなど、身近な異年齢の子どもたちが互いに与える影響は計り知れないものがある。このような関わり合いは少人数の園だからこそ実現可能だと実感している。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。 また、異年齢との交流による教育的効果はご意見のとおりですが、29ページに記載のとおり、「同年齢の集団」と「異年齢の集団」とでは得られるものが異なる点を考慮した教育を展開することを求めています。	適正規模
213	30	特別な配慮を必要とする子への指導	再編により公立幼稚園数が大幅に減ることは、特別な配慮を必要とする子どもの受け皿が減少することを意味する。統廃合の動きは、「一人一人の発達の特性に応じた幼稚園教育」や「個々の子どもの実態に応じ、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする」という大津市の教育理念とは乖離した政策であるといえる。実際に上田上幼稚園の約半数が学区外の園児であり、瀬田・瀬田東学区などの保育施設が飽和状態にある近隣地域から選択制制度を利用して通っている現状がある。その大半がこの少人数保育や自然環境に魅力を感じ、この園でしかできない保育を求めている。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。 なお、学校選択制で通園されていることは把握しておりますが、他学区の市立幼稚園も定員に満たない園児数であることから、保育施設が飽和状態にあることとの関係性はないと考えております。	特別な配慮
214	23	幼稚園の就労している家庭に対する支援拡大	就労世帯への預かり保育時間の延長制度はまだ開始して間もなく、効果検証がこれから行われる事項である。また、周知も不十分であるため、「働いていても幼稚園」の概念が浸透しているとはいえない。待機児童解消に向けて、4か月検診や10か月検診などで未満児の保護者にも「働いていても幼稚園」という選択肢があることを市からもっとアピールすることで幼稚園を選択する家庭が増えるのではないか。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 なお、待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	預かり保育の拡大

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
215			現在長男が逢坂幼稚園に在園してます。長女も逢坂幼稚園出身です。 逢坂幼稚園は園児数は少ないですが、3学年合同保育をしていて、他の学年のお友だちからも沢山刺激を受けながら園生活を送れています。 地域の方との交流もあり、広い園庭や畑で野菜を育てたり、裏山（ひみつの森と園では呼んでいます）へたけのご掘りへ出かけたり、自然とふれあったりしてのびのびと子どもたちが遊んでいます。 小学校と隣接しているので、小学生との交流や、去年は校長先生が書き初めを教えに来ていただけたり、自然の現象で疑問に思ったことを理科の先生に質問するお手紙を書く幼稚園に来てくださって解説してもらえたりして、小学校との連携も出来ています。小学校の参観へも登園後すぐに行けるので、とても助かっています。園児数が少なくても、近隣の園とよく交流会をして一緒に遊んだりもしています。私は普段の園生活では少人数の良さをすごく感じていて、先生方が一人一人に丁寧に関わってくれて、とても安心して子どもを預けられています。用事がある時などは預かり保育も利用させていただいて、親もリフレッシュする時間を頂けてとても助かっています。統合する事で園児数が増えてしまうと、先生に関わってもらえる時間も減りそうだし、今まで気楽に利用できていた預かり保育が定員オーバーなどで利用したい時に利用できなくなるかもしれないと思うと、そういう面でも不安です。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
216			送り迎えの面でも、未就園児を連れてるので天候が悪い時は車で行くことも多く、駐車場があるのでとても助かっています。統合したら、通園バスのお話もあるかもしれませんが、ニュースでバス内に取り残される事故などを見ると、心配です。幼稚園の送り迎えは大変な事もありますが、個人的に自分で送り迎えの方が安心感もあります。保護者同士の会話も送り迎えの時に出来て、個人的には好きな時間でもあります。それから、逢坂幼稚園は未就園児活動も毎日してくれていて、よく次男と一緒に利用してます。降園後に園庭開放もあります。駅の周辺は小さい子どもが安全に遊べる公園がありませんので、広い園庭や室内でも自由にのびのびと遊ばせる事ができ、とてもありがたいです。長女もたまに迎えに着いてくるのですが、大好きだった幼稚園で先生たちと会えて、心のエネルギーを充電できている気がします。 次男も逢坂幼稚園に通えたら嬉しいなと思うので、園が存続する事を願います。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
217			保護者です。 2026年度現在、4歳児男児が逢坂幼稚園に在園しており、かつ、2030年度に双子の男児、女児が入園する予定です。我が子が通っている大好きな園が無くなることに強く反対します。以下の3点が理由です。（順不同。） ①交通の利便性 通わせている理由の一つに、利便性があります。車送迎を前提とした距離の遠い園になると、平野幼稚園のように駐車場もないところに通わせることは不可能です。下の子たちについて、利便性を鑑みると、保育園も選択肢に入れなければならなくなります。しかし主人の仕事が自営業かつ私が専業主婦なので保育園は合格率が大変低く、長期にわたり待機児童にならざるを得ません。（現在、専業主婦ですが三児の子育てがあり、働きに出ることは難しいです。）	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
218			②地域教育 自分たちが住んでいる逢坂の地域ならではの良さがあると思って通わせています。幼稚園側も、地域の子として育っていくことを願って教育してくださっています。我が子は逢坂幼稚園が大好きです。父親である主人も逢坂幼稚園出身です。同じクラスの保護者の方も同郷の方が多く、みんな生まれ育った地域を愛しています。長期の居住やリターンも多い、魅力ある逢坂の地域。そこで育ってきた人たちが、さらに親になり、その子たちがさらに未来を紡いでいく…。そんな尊い地域教育を、目先の予算を理由に廃止する理由が見当たりません。今まで、たくさんの人たちがこの地域で、大切に、大切に育んできたものは、何だったのでしょうか。	2点目について、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。また、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、予算削減を目的としたものではありません。	地域との関わり 予算削減・効率化
219			③逢坂幼稚園の良さ 自然が豊かで、園庭が広い逢坂幼稚園の環境は、恵まれています。裏山が近く、我が子は、探検やたけのご掘りを楽しんでいます。日当たりの良い、広い園庭で、泥だらけになりながらお友だちと思いっきり身体を動かしながら遊んで楽しんでいます。市の都合で統合して、子どもたちを無理矢理、一箇所に押し込めばいいのではありません。関わる全員にとって、のびのびと過ごせる安心感や学習の機会が失われてしまいます。長くなってしまいましたが、当該地域の子どもや保護者の、公教育への信頼を著しく損ねるような統廃合は、強く反対します。また、日々、子どもたちに向き合い全力で頑張ってくださいている現場の先生方に、今以上の負担がいくことのないよう願います。	3点目について、検討委員会では、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。	園の特徴

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
220	5	母親の就労状況	表からもわかるように母親の就労ニーズは高まっている。働く親にとって1番ネックとなっているのは、お弁当である。家の近くに幼稚園があっても、給食がないということで選択肢から除外されてしまうことが多い。週1の宅配給食など試みではスピード感がなく、他市・他府県と比べて見劣りする。給食にすることで、預かり保育を利用しずれば働くことができる母親は多くいると考える。	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76％を占め、3歳児での申込は約17％（新規申込に限定すると、約10％）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。 また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
221	11	図1-1 ニーズ調査、アンケート調査結果	第3位に給食があるとしっかり結果が出て、年々ニーズが増していることが図からわかる。それなのに、なぜもっと注目して検討を進めないのか。給食がないことにより、幼稚園より遠くの保育園に通っているケースもある。幼稚園で給食化することで、そういった世帯を幼稚園へ誘致することが可能であると考える。	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76％を占め、3歳児での申込は約17％（新規申込に限定すると、約10％）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。 また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
222	23	（8）市立幼稚園における就労している保護者に対する支援拡大の取組について	令和7年度から、8時30分から9時00分、保育終了後から17時30分まで利用できるよう、預かり保育の時間が延長されたことは一定評価できる。しかし、時間を延長してもお弁当がネックになっていることには、変わりはない。他市こども園では毎日宅配給食で、自園調理していない園もある。再編をするよりも先に、給食化を実現し、働く世帯を幼稚園にきてもらうように促すこのほうが重要と考える。「働いていても幼稚園！」のキャッチフレーズのするのであれば、給食が必須である。これが実現できると、待機児童の問題も解消につながると思料する。	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76％を占め、3歳児での申込は約17％（新規申込に限定すると、約10％）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。 また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。 なお、待機児童については、95％以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	給食 待機児童
223	30	特別な配慮を必要とする子ども達への指導	市の勧めで上田上幼稚園へ通うことにされた方もいる。特別な配慮が必要な子供が増える中、自然の中でのびのびと生活できる、上田上幼稚園を統合することは理解に苦しむ。	ご意見として承ります。 特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
224	36	（3）再編基準に則った検討の進め方について	「再編等を進める際には、時代に応じた市立幼稚園のあり方の検討が常に求められること」とあるが、働いている親としては、時代に応じた市立幼稚園のあり方が考えられていないと思う。本当に再編が1番の得策でしょうか。もっと幼稚園に来てもらえるように、まずはお弁当から給食に変えてみて、効果を検証するべきではないでしょうか。	保育園等への申込数は、0～2歳児で約76％を占め、3歳児での申込は約17％（新規申込に限定すると、約10％）に留まっていることから、就労要件のある保護者は子どもが0～2歳児の時に保育園等に入園希望される傾向にあることを追記します。 また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
225	53	（3）検討経過と概要について ケ田上中学校区・青山中学校区	田上幼稚園に統合されることには反対である。田上・上田上・青山を1つにするのであれば、地理的には中間の上田上に統合するべきではないだろうか。青山から田上は遠すぎるため、草津の私立幼稚園に流れてしまうことも懸念される。働いている親としては、通園時間を短縮するため、近くの園を選んでいるのに統合されて遠くなったら意味がない。上田上は小学校と隣接しており、近隣駐車場を借用して、車での送迎が可能である。現在も、田上・青山学区から上田上を選択して、通園されている方が多く、上田上幼稚園の特色にニーズがあることがわかる。園庭は芝生であり、地域民の協力で成り立っている、自然の中での学びが多くある。例えば、大戸川遊び、荀堀り、菜の花植え、里山体験、他に、これが実現できる幼稚園はあるだろうか。【めざす子ども像】わくわくのびのびいきいき健やかでたくましい子ども心豊かに人と関わる子ども夢中になって遊び、よく考える子どもにびつたりの幼稚園だと実感している。この地域密着型の上田上幼稚園が田上幼稚園に統合されると、地域とのかかわりはほとんどなくなってしまうように思料する。なぜ田上幼稚園に統合されるのか、田上幼稚園が選ばれた理由を詳細に知りたい。	検討委員会においては、地理的に中心に位置する上田上幼稚園を再編先とする案も議論されましたが、園舎や園庭の規模や特徴、幼稚園の敷地内の駐車場の有無などを考慮して田上幼稚園に再編する案となったものであり、原案のとおりとします。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	検討経過 園の特徴 地域との関わり
226	54	4 全体スケジュールについて	幼稚園に入園した初日に再編のお手紙をもらい、上田上幼稚園に通わせたいと思い入園させた親としては、複雑な心境である。入園初日から不安な思いが募っている。今後5年以内に統合、子供が在園中に統合されたら、環境が変わりまた一からになる。子供にとって環境の変化がどれほど大きいのか理解しているのか、問いたい。スケジュールが抽象すぎて、在園時の親としては混乱するし、幼稚園を選択したことを後悔する人もいると思う。少子高齢化で子供の人数が減っていることは理解しているが、市として少子高齢化を食い止めるため、子供を産んで育てやすい、子供を預けて働きやすい環境を整えるべきではないか。	なるべく早く情報を提供できるようにするため、市全体について検討を行っているものであり、個々の園のスケジュールについては、54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
227	54	4 全体スケジュールについて	何度も申し上げるが、今の子育て世代のニーズをくみ取り、「働いていても幼稚園！」を実現するため、再編よりも給食化を強く要望する。これが実現できれば、パートや時短の親は、幼稚園に預けることのハードルがかなり低くなる。 大津私立幼稚園の再編等について（案）については、反対であり再検討を要望する。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
228		第1章1はじめに2行目	良好な環境の整備とあるが、石山幼稚園への統合で園庭が狭い場所に園児を集中させるのが良い環境なのか	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、原案のとおりとします。	適正規模

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
229		第 1 章1はじめに19行目	園児数の減少を記載しているが、園児数の増の見込みは考慮しているのか？ 石山駅前の「BIWARLYHILLSプロジェクト」完成後の流入による園児数の増加は考慮されているのか？	44ページに記載のとおり園児数の推計となっております。 なお、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	人口推計・園児数推計
230		第 1 章2本市の現状12行目	マンション開発のことにもふれているが微増の例であげているのは 堅田や日吉中学であり石山幼稚園への統合に関しては関係性が薄い(「BIWARLYHILLSプロジェクト」を考慮すべき)	44ページに記載のとおり園児数の推計となっております。 なお、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	人口推計・園児数推計
231		第 1 章2本市の現状(4)表5	●石山・南郷・大石を仮に統合した場合約 1 0 0 人の園児数が想定される。その場合他学年との密な交流はなくなるのでは？ ●人数に見合う教員数の確保ができるのか？ ●人数増に伴い園児同士のトラブルやケガなどが起こりやすくなるのでは？ ●多様性で様々な園児が通うとなった場合教育の質は担保されるのか？	1点目について、検討委員会において、同年齢で集団規模を確保できることが望ましいとされています。 2点目について、当然適切な人員配置が必要であり、市担当所属とも共有します。 3点目について、子ども同士の関りの中で発生することはあり得ると思います。 4点目について、多様な個性が集まることで、遊びの最小単位が複数構成されることが望ましいと考えております。	適正規模 その他
232		第 1 章3これまでの取り組み(2)【めざす子ども像】	「わくわくのびのびいきいき」とあるが集約された園児数を考えた園庭の広さはあるかなど各園の視察はおこなったのか？	検討委員会として視察は行っていませんが、現場を知っている委員も参画して検討を行っています。	検討経過
233		第 1 章(6)これまでに再編を実施した園とその学区の状況について	1 つでも市立幼稚園を減らしその跡地に民間こども園の開設を目指すとしているだけではないか？	33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、民間こども園の開設を目指す検討は行っておりません。	検討の目的 予算削減・効率化
234		第 1 章(6)これまでに再編を実施した園とその学区の状況について	市立幼稚園の魅力を市と各園とが連携をして入園希望者を募るべきではないのか？	33ページに記載のとおり、各幼稚園の現場を中心に、魅力向上に向けた取組を行う必要があることを求めています。	その他
235	32	第2章3基本的な方針について3地域の実績に応じた通園支援の方法を検討していく	自転車による通園であっても交通量の多い場所に園を集約して安全性の確保はどうなるのか？ 自転車置き場の数の確保だけでは事故を未然に防ぐことはできないと考える。現時点で自転車に対する法整備が変わる中、園内の整備だけでなく近隣の通園路となるところまで市として安全を保障できる整備改修を責任をもっておこなってもらえるのか疑問である。通園方法の見直しだけでは納得がいかない。またバスの通園と仮になってもそのバス代はどうする？ 家庭の負担が増えるだけでは物価高が今後も見込まれる中負担をさせる＝こどもに何か我慢させるにつながるとは考えられないか？ 園での教育が教育の質で全てではないと考える。家庭での教育もあってこそではないか？	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
236	32	第2章(2)再編基準ア～ウ	3年連続で18人を下回った場合について、石山幼稚園への第1段階で全て統合ではなく、大石幼稚園を南郷幼稚園に第1段階で統合する形で進められないのか？ その間に石山幼稚園の近隣土地からの園庭拡大敷地の確保や駐車場・駐輪場・施設老朽の改修・近隣道路の安全確保のための整備などを行えないのか？ また第2段階に向けて第1段階時点での園児数の増減を考慮し存続も含めた統廃合の期間を再検討していけないのか？	再編の方向性については、ご意見として承ります。 一方で、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。 なお、36ページには中間見直しについても記載しております。	検討経過
237		第3章表12石山/南郷幼稚園/大石幼稚園	R8～R12の南郷幼稚園と大石幼稚園の園児数を合算した人数が石山幼稚園の人数とほぼ同数となるため園庭の広さや築年数などを考慮すれば大石幼稚園を南郷幼稚園へ第1位段階で統合する案は出ないのか？ 中学校区が南郷幼稚園と大石幼稚園が一緒であることも上記理由である。	再編の方向性については、ご意見として承ります。 一方で、今回の検討は、15人を上回る規模にすることを目的としているのではなく、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることを目的としています。 併せて、近年、規模の縮小が急速に進んでいる現状を鑑み、ある程度の規模の確保が必要という意見があったことから、原案のとおりとします。	検討経過

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
238			今回の大津市立幼稚園の再編等の案を拝見し、元大津市立幼稚園の園長として、そして大津幼稚園に勤務していたものとして、意見を書かせていただきます。 大津幼稚園を平野幼稚園へ編成する方向は、いかがなものかと考えます。 大津幼稚園は、ご存知の通り大津市立幼稚園では初めての幼稚園で 1 3 8 年の歴史と伝統があります。地域の方も大津幼稚園を守り、誇りに思っておられることは、その地域で勤務していたので、身に染みるほど感じています。今まで行ってきた幼稚園教育の質をそのままいかしつつ、大津幼稚園は認定こども園へ転換していく方向を望みます。こども園になることで、給食、時間の延長、何よりも対象年齢の拡大が可能になります。近年中央学区はマンションも増え、小さい子どもをもった保護者が増えています。こども園になることで、今まで以上の就園率が期待されると信じています。 一人の意見として、受け入れていただければ幸いです。 今後ともよろしく願い申し上げます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
239			少子化の進行、共働き世帯の増加などによる保育ニーズの高まりで、大津市立幼稚園園児数は毎年減少を続けていますが、大津市は【大津市幼児教育・保育の基本理念】の下、小学校の接続期までを見通した、等しく質の高い教育・保育を一体的に提供されてきたことに敬意を表します。 とくに市立幼稚園では 1 園あたり約 1 0 人の特別な配慮を必要とする子どもを受け入れておられ、これは民間園の 2 倍以上で公立幼稚園が果たすべき大きな役割でした。その成果として、小学校へ入学後に様々の不応を起こす子どもたちに対して幼稚園、小学校がうまく連携して適切な対応が行なわれてきたと思います。これは 1 小学校区 1 幼稚園が近接している環境を生かし、子ども同士の直接的な交流活動や、教師同士の意見交換が常日頃からできていたからではないでしょうか。統廃合が進むことで小学校と幼稚園の連携が後退しないよう、きめ細やかな仕組みづくりを求めます。	ご意見として承ります。 特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となっており、取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	特別な配慮 幼小連携
240			また、幼稚園と小学校は地域に開かれた教育活動の展開や、交流行事、園外保育等の機会を通じて地域の子育て支援や地域の活性化やまちづくりにも貢献してきました。幼稚園統廃合は教育行政の枠を越えて広範囲に影響を与えたいと思います。その辺りを十分に評価し単に数字合わせではなく、地域の特性や利用する保護者、そこに暮らす住人の影響を十分に考慮し、総合的に判断していただきたいと思います。	ご意見として承ります。	地域との関わり
241			本題と少しずれるかも知れませんが、関連して申し上げます。 現在、大津市は保育所待機児童数が全国ワーストと聞きます。様々な要因が重なったことと思います。大津市は保育士確保を始め、新規園の設置など対策を急がれておられますが、個人的には今がピークの真只中でいつまでも続くとは考えられません。 市立幼稚園においては預かり保育が年々増加され、入園後に就労を始める利用者等の需要に対応されてきました。保育所利用には保護者の就労要件が必要です。地域の保育需要を考慮し、要件に満たない利用希望者（待機児童）の受け皿として市立保育園との統合により認定こども園へ移行すれば、2・3号認定の園児数を受入れることが可能です。これらは現状に即した幼稚園の姿であり、待機児童解消の一策と考えます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	待機児童 認定こども園
242	14 37		大津市には 1 小学校区に 1 公立幼稚園があり、地域で子どもを育てる拠点になる素晴らしい役割だと思っています。 P14に給食提供のニーズが高いとあります。公立幼稚園で給食実施ができれば、延長保育の利用と合わせて働く家庭でも幼稚園を選択することができるはずで。給食があるならという声が多くあるのに、その点が重要視されていないのは残念でなりません。	ご意見として承ります。	給食
243	14 37		P37エリアの考え方について 最初に述べたように大津市では小学校の近くに公立園があり交流もでき、その通園路で通学もできるのは安心です。少子化の今こそ地域全体で取り組んでいく問題だと思います。 適正規模というくりだけでの再編は違うのではないかと思います。	ご意見として承ります。	地域との関わり
244	14	図11ニーズ調査、アンケート調査結果	就労している保護者に対する支援の拡充について、さらなる取り組みが必要であると考えられる。 保護者のニーズを踏まえつつ、園の現状とのバランスを考慮しながら可能なことから段階的に対応していくことが求められる。 例)車送迎の実施、給食の提供など	平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	預かり保育の拡大 給食 その他

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
245	23	一方で、預かり保育の拡大を実施してから1年を経過しておらず、効果検証が十分にできないことから、引き続き周知活動に努めるとともに、効果検証を行いながら、より良い制度となるように取り組んでいくことが必要と考えます。	大津市立幼稚園の入園児数の確保に向けた取り組みについて、子どもを確保するという点における十分な意識や積極性が、現時点では保護者や地域住民に十分に伝わっていないように感じられる。 預かり保育時間の延長が実施され、引き続き周知活動を行うとあるが、どのような方法で周知され、その周知方法が適切であったのか伺いたい。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
246	25	4.市立幼稚園が果たしてきた役割	大津市立幼稚園の強みや特色については、より積極的に発信していく必要があると考える。 現状では、保護者がそれらの情報を知る機会が十分とは言えず、結果として民間施設にはない強みが十分に伝わっていない可能性がある。 →今後は、大津市立幼稚園ならではの魅力を明確にし、それを保護者に対して分かりやすく発信していく取り組みが求められる。	広報についての課題は、検討委員会でも意見が出されているところです。	その他
247	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	【意見】 私は、大津幼稚園と平野幼稚園の統合案に反対致します。 ①P44各市立幼稚園の園児数推移(表12)を見ても分かるように、大津幼稚園は一時的に10人を下回る年度があるものの、R12までの推計値は10人を超える見込みとなっています。継続して10人を下回っているわけではないに関わらず再編対象となることに疑問を感じます。	1点目について、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けています。ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行いました。明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。 また、令和8年度以降の推移については、51ページ以降に記載の「検討経過と概要について」の部分で検討を行っておりますので、その旨を追記します。	再編基準
248	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	②一人の教師が一人一人の子どもたちと十分に関わることができる規模として、今の大津幼稚園は最適規模であると感じています。大津幼稚園は、担任だけでなく全ての教職員が園児を見守ってくれています。実際、担任以外の先生から子供の様子を教えてもらうことも多くあり、子供ひとりひとりを園全体でしっかり見守っていることにとても安心しています。再編を行い園の規模が大きくなることで、子供たち一人一人へのケアが十分に行き渡らなくなるのではないかと懸念します。	2点目について、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。	適正規模
249	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	③大津幼稚園では、近隣の平野幼稚園や逢坂幼稚園、レイモンドみらい園と定期的な交流を行うことで、普段とは違うお友達と関わりながら様々な経験が得られるような取り組みも行われています。 このことを踏まえてみても、園児数が少ないからといって子どもにとって望ましい教育や保育環境を得られないということにはならないと思っています。	3点目について、市立幼稚園では、「幼児期の生活にふさわしい環境」の観点から、適正な集団規模や教育の質を確保し、小規模な環境では得られない経験などが得られることや、普段の集団とは別の集団と接する機会を確保することを目的として交流保育を実施しております。 検討委員会には、交流保育の成果と課題等として、出会いの機会をもつことが目的の中心となりやすく、日常的な交流ではないことから、多様な個性に触れながらの自分づくりや、集団として互いに育ち合うことを求めるためには、更なる工夫が必要であるという資料が提供されております。 この内容について、「これまでの取組」として追記を行います。	園の特徴
250	52	「カ打出中学校区大津幼稚園の再編について」	④通園距離が延びることによる子どもと保護者への負担増加を懸念しています。幼稚園は毎日通う場所です。 災害時の迅速なお迎えや雨天時を考えても、安全な通園を行うために幼稚園が徒歩圏内に位置していることはとても重要だと考えます。園バスに関しては、近年様々な事故が起きていることもあり利用することに不安もあります。	4点目の通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されるところから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
251	52	250の続き	⑤一時預かり事業の拡大に伴い、働いている家庭でも幼稚園を利用しやすくなっています。近隣のマンション開発も活発化している中で、今後園児が増えていくことも想定できます。待機児童も多い中で、いま園をなくすことが最適とは思えません。 大津幼稚園では、未就園児の親子通園事業も行われています。近隣に住む親子の遊び場でもあり、中央学区で子育てをしている保護者さんたちがリフレッシュしたり、気軽に子育てを相談できる環境でもあります。私自身もそうですが、核家族の増加、移住等の理由で孤独に子育てをしている親もたくさんいます。そんな中で、このような場所が学区内に存在していることはとても大切であると思っています。	5点目について、44ページに記載のとおりの園児数の推計となっております。 なお、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。 また、待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	人口推計・園児数推計 待機児童

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
252	52	251の続き	⑥大津幼稚園は小学校と同じ敷地内にあることから「合同避難訓練」や「5.5交流」など日常的に幼小の交流が行われています。幼稚園時代から小学校の雰囲気を感じたり、小学生たちと出会い、交流をすることで安心して進学することができます。現在小学生の娘は、5.5交流で一緒に遊んでいたお兄さんお姉さんが次の年6年生になって小学校で待ってくれていたおかげで、不安を感じることなく小学校へ進むことが出来ました。このことから、小学校の学区内に幼稚園が存在することは子どもたちにとって、とても大切であると感じると同時に小学校区を無視して中学校区で統合を行うことに疑問を感じます。	6点目について、集団規模の確保を目的としており、小学校区のみでは検討が出来ません。 また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携
253	52	252の続き	【要望】 以上の点から再編案に反対しますが、今後園児数減少の進行により再編が避けられなくなる可能性があることも理解できます。 その場合、以下二点の配慮を求めます。 1.学区外での統合ではなく、学区内でこども園化の検討	展望に記載の1点目の認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
254	52	253の続き	2.統廃合を行う場合、園バスの導入や定期の負担などもしっかりと検討した上で統廃合を決定する。	展望に記載の2点目の通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
255	52	254の続き	【おわりに】 大津幼稚園は大津市初の幼稚園であり、長い歴史のある大切な場所です。 大津幼稚園に通う園児たちは「曳山展示館」に行ったり、大津祭の際に「曳山乗山体験」をさせてもらうなど、地域の方々から多くの歴史と伝統を学びます。 大津で育つ子どもたちが、自分の住んでいる町を知り、歴史と伝統を受け継ぎ後世に繋げていくためにも、この園を大切に残していってほしいと思います。	ご意見として承ります。	地域との関わり

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
256	23	保護者に対する支援拡大	幼稚園における給食の未整備は、保護者にとって大きな負担となっています。日々の弁当準備は時間的・心理的負担が大きく、就労の有無にかかわらず通園のハードルとなっています。したがって、公立幼稚園においても配達方式による給食の導入を早期に実現すべきです。既存の給食センターや民間事業者の活用により、比較的迅速かつ効率的な導入は十分可能と考えます。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
257	27	2 幼稚園教育のありかた	幼児教育の質は、施設再編だけで確保されるものではありません。人手不足、特別な支援を要する子どもへの対応、事務負担、送迎対応、安全管理など、現場の実態をふまえた人的配置と運営体制の整備が不可欠です。再編後の施設で教育の質と安全がどう担保されるのか、教職員配置、支援員体制、事務補助体制などを含めて具体的に示してください。	54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
258	32	3 通園方法の支援	通園方法の見直しや通園バスの検討に言及していますが、検討にとどまっており、保護者負担軽減策としては不十分です。再編により、通園距離や送迎時間が増加する家庭への対応として、通園バスの導入可否、運行対象、費用負担、運行ルートの方考え方、駐車場整備、送迎支援策などを、実行計画の前段階から明示してください。	54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	通園支援
259	32	4 より良い教育・保育環境	幼児教育は、幼稚園だけでなく、保育園、認定こども園を含むすべての就学前施設において等しく充実されるべきです。どの施設にも通う子どもに質の高い幼児教育を保障する制度として再構成されなければなりません。大津市として、共通カリキュラムの実施だけでなく、教育内容、職員体制、支援体制、環境整備を含めた具体的な質保障を示してください。幼稚園・保育園・認定子ども園のそれぞれの標準職務表を作成してください。	ご意見として承り、担当所属に共有させていただきます。	その他
260	37	5 方向性検討	計画策定後も継続的に当事者の意見を反映してください。保護者、地域住民、現場教職員との意見交換を継続的にを行い、出された意見に対して、市がどのように検討し、何を反映し、何を反映しないのかを、ていねいに示してください。説明責任を尽くさないまま再編を進めることは、行政への信頼を損なうものであります。	36ページに記載のとおり、再編等を進める際には、時代に応じた市立幼稚園のあり方の検討が常に求められることから、就学前施設を取り巻く社会情勢等の変化を十分に考慮して検討を行うよう求めています。	進め方
261	39	検討フローについて	地域の実情やニーズを踏まえ、1号から3号認定までを一体的に受け入れる認定こども園の設置を推進すべきです。幼稚園と保育所の機能を統合することにより、保護者の就労状況に左右されない柔軟な利用が可能となるだけでなく、乳幼児期から就学前までの一貫した教育・保育を通じて、子どもの発達や学びの連続性を確保することができます。これは教育の質の向上にも大きく寄与すると考えます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
262	42	（3）地域性等の考慮	園児数や定員充足率のみを基準に機械的に判断するのではなく、施設周辺の交通事情、通園時の安全性（通園路の交通郎、歩道整備の有無）、園舎の状態、園庭の広さ、駐車場・駐輪場の確保状況（送迎時の混雑）、防災上の条件（災害時の避難動線など）、地域における施設の役割等を総合的に検討し、客観的な評価項目を設定し公表してください。	施設の情報等については、48ページに記載のとおりです。	検討経過
263	42	（3）地域性等の考慮	また、費用面においても課題があります。保育所においては給食費が実質的に無償化されている一方で、公立幼稚園ではお弁当持参など保護者負担となっている現状は、同年齢の子どもを持つ家庭間で不公平を生じさせています。この格差については早急に是正すべきです。	保育所についても、給食費は実費負担をいただいております。	給食
264			市立幼稚園児数が減っていることにまず驚きました。平野小学校の児童数は多いので、入学前はどこの園へいつているのでしょうか。就労する母親が増えて保育園へいつている子も多くなったでしょう。就労していない母親のお子さんも保育園型認定こども園に（9～16時まで給食があるのは魅力だと思う）。京都の私立幼稚園はバスで送迎しています。学区内の市立は本来近くに通いやすい園のはずですが他へいつているということは、市立に魅力がないからではないでしょうか。子どもが減ったから統合しましうではなく、どうすれば市立に入ってくれるのか何が足りないのかを考えてほしいです。一学年が少ないよりもやはり2クラスはあってそういう中で育てほしいとは思いますが、遠いところから通うのは負担です。 逢坂と大津は平野へということですが、市職員の方、逢坂の一番はしから平野幼稚園まで子どもを連れて一度歩いてみてください。電動自転車や車の送迎がOKなら駐車場が必要です。50年くらい前になるでしょうか。乳幼児健診の大津方式ができて子育てしやすい大津市と言われていたはずです。今は草津市、守山市のほうが子育てに良いと言われてます。もう一度、やっぱり大津がいいよねと言われる市にしてほしい。他の都道府県市町村に誇れる大津市にしてください。	33ページに記載のとおり、各幼稚園の現場を中心に、魅力向上に向けた取組を行う必要があることを求めています。 なお、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	市外の施設に関すること 通園支援 その他

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
265			中央学区民として意見を述べさせていただきます。 子どもがまだ３才のころ、幼児濃教育の後援会に参加し、中央学区に住んでいることを話したら、当時高齢の大学の先生が「あの有名な由緒ある中央小学校、大津幼稚園の近くにお住まいなんですね」と言われ、歴史ある地域で全国的に有名な学校なんだと知らされました。ところが、年々子どもの数が減りマンションが建ちだして人口が増えかけたかと思ったら、京都の幼稚園のお迎え車が続々、マンションの入口で止まり、次々と子どもを乗せていく姿が。市立幼稚園の人数は減っていくのは当然です。京都の幼稚園を選ぶメリットは①送り迎えしてくれる②給食がある③園独自の特色があるプログラム④保育時間が長い、が挙げられると思います。 大津幼稚園が平野と合併されるとききますが、少人数のメリットを有効に活用してほしいです。大人数より少人数で預かってほしい家庭のためや縦割り方式で保育活動をすすめるなど、今の現状で生き残る方法を園で考えていただき、大津幼稚園を残してほしいです。市立幼稚園が統一したやり方でなく、園独自のカリキュラムを考え、市民に公開していけば、市立幼稚園を選ばれるのではないのでしょうか。 この住所の住民はこの幼稚園という決め方でなく、仕事場に近い幼稚園が選べたり、このカリキュラムが気に入ったから少々遠くてもこの幼稚園という、選択の幅を広げてもらえたらと思います。認定こども園にするという意見もあるようです。 以上とりとめのない意見を綴りまして申し訳ありません。一つの意見として読んでいただけたら幸いです。	市立幼稚園が提供する幼稚園教育としては、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであります。	適正規模 認定こども園
266			適正規模は「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり様々な感情体験の機会が得られることに加え、遊びの最小単位が複数構成できることが望ましい」とされていますが、「多くの」や「切磋琢磨」が特にひっかかります。特に３歳児にとってそれほど重要とは思えないからです。	検討委員会では、３歳児であっても仲の良いお友達としての集団ができると意見が出ています。加えて、３歳児から４歳児、４歳児から５歳児にかけてはあまり園児数が増えない現状も報告されたことから、３歳児から一定の集団規模の確保が必要となったものです。	適正規模
267			園児数の推移により再現は必要かもしれませんが、地域の園に通うことが、園児だけでなく保護者にとっても大切なことだと思います。働く人が多いので一概には言えませんが、親子で手をつないで地域の人とふれあいながらの通園は貴重な時間です。 徒歩では通えない幼稚園へは、現実的にどのような手段で通園するのでしょうか。車のない方、バスに乗ることが嫌な子ども、経費問題など、問題は山積みです。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
268	35	再編基準に則った検討の進め方について	大津市立の幼稚園に２人の子どもが計６年間通っておりまして。 息子は発達遅延疑いにて特別支援対象児として通っておりまして。 入園前より自分の思いを言葉で表現できず、感情のコントロールも難しいこと、興奮すると大声を出し、周囲の状況が分からなくなるなど、息子にとっての「生きづらさ」がありましたが、通園中の３年間、幼稚園の先生方による丁寧な対応にて、息子は楽しく成長していきました。幼稚園修了時には「生きづらさ」は格段と減り、現在は特別支援対象から外れ、楽しく小学校へ通っております。就学前教育、幼児教育の大切さを感じた６年間でした。息子のような発達などに不安がある子ども達、「生きづらさ」を感じている子ども達のケアがしっかりできるために、子ども達一人ひとりをしっかり見るためにも、幼稚園は必要だと思いました。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
269	35	再編基準に則った検討の進め方について	今回の発案の根本的な原因は大津市の待機児童の多さ、保育士の人員不足だと思いますが、そもそもどうして保育士は不足しているのでしょうか？不足しているから幼稚園から補うのではなく、保育士が「大津市で働きたい!」と思うような保育園の改革は果たして大津市として行っているのでしょうか？幼稚園も就労などの要件を満たせば８：３０～１７：３０まで入れること大津市として(保育園に入れなかった方に入所担当の方が伝えるなど)アピールしていますか？幼稚園入園希望者が少ないからすぐに統合するのではなく、入園希望者が少ない理由(駐車場の確保や給食、こども園への考慮など)に対応して、改善してからではいけないでしょうか？結構な数の幼稚園が統合される計画が今後の大津市の幼児教育にして、とても不安に感じます。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであり、待機児童対策や保育士不足を起因としたものではありません。 なお、23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	待機児童 預かり保育の拡大
270	35	再編基準に則った検討の進め方について	今回の発案の根本的な原因は大津市の待機児童の多さ、保育士の人員不足だと思いますが、そもそもどうして保育士は不足しているのでしょうか？不足しているから幼稚園から補うのではなく、保育士が「大津市で働きたい!」と思うような保育園の改革は果たして大津市として行っているのでしょうか？	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであり、待機児童対策や保育士不足を起因としたものではありません。	待機児童

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
271	35	再編基準に則った検討の進め方について	幼稚園も就労などの要件を満たせば8：3 0～1 7：3 0まで入れること大津市として(保育園に入れなかった方に入所担当の方が伝えるなど)アピールしていますか?幼稚園入園希望者が少ないからすぐに統合するのではなく、入園希望者が少ない理由(駐車場の確保や給食、こども園への考慮など)に対応して、改善してからではないでしょうか?結構な数の幼稚園が統合される計画が今後の大津市の幼児教育にして、とても不安に感じます。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
272	25 52	全般 再編基準 大津市政の問題点	再編の考え方の根本問題 大津幼稚園は地域住民にとって「心のふるさと、地域のランドマーク」です。再編（＝廃園）はこれを消し去ろうとする暴挙です。 事は、幼稚園再編問題に止まらず、大津市政が地域の歴史、社会、住民をどの様に見ているかを示すものです。そこには、江戸時代から続く住民自治への理解が不足しており、幼児教育については、寺子屋から続く大津町人の心意気への共感ありません。中央の子どもは、住民から常に温かいまなざしのもとで育ち、その親も地域からの支援や励ましで安心して暮らすことができます。忘れていけないことは、住民も子どもの動き回る姿を見て、地域に暮らす喜びを感じ、元気をもらっているのです。これが「わが大津幼稚園」、これが100年以上続く中央の伝統なのです。 したがって再編は、上記の地域の歴史文化伝統を覆す恐れのある重大な変動であるとして、慎重のうえにも慎重に検討を加えるべきです。 ところが再編（案）をみると、「大津幼稚園」と地域の伝統・文化、地域と園との交流にふれた記述が少しあるものの、それは再編基準の前にはお飾りの位置付けです。ひたすら園児数の減少を分析予測して、幼稚園運営が成り立たなくなる日を数えているだけです。これは「幼稚園統廃合原理主義、再編基準至上主義」に他なりません。 大津市政は、いつの間に地域住民の心情、町の成り立ちを見て見ぬふりをする行政に戻ったのでしょうか。いつの間に、かつての暴走市長の手法に戻ってしまったのでしょうか。まだ、引き返せます。再編（案）のマスコミへの情報リークにより、すでに風評被害が出ていますが、これからの幼児教育のあるべき姿を住民と共に模索する作業を始めれば、必ずやそれは達成できます。幼稚園数のカウントばかりを取る行政から、地域の中で幼児も大人も穏やかに暮らし、学び、育つまちを目指す行政への転換そこが今求められているのです。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
273		272の続き	エピソード1 園長が近所の住民に叱られた 運動会の練習が始まるにあたり、新任の園長が近所の住民に「園児の声でご迷惑をおかけします」とあいさつに行ったところ「子どもは元気な声を出すのは当たり前。こちらは子どもの声で元気をもらっている」と叱られたとか。「大津幼稚園はものすごいところですね」とその園長は感激したそうです。 エピソード2 園舎前の歩道 落ち葉のシーズンには、園舎や隣接の小学校の前の歩道の落ち葉を黙ってそうじする住民がいます。住民はさりげなく。職員は深い感謝の気持ちを抱いて。	ご意見として承ります。	地域との関わり

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
274	43 55	手順 再編等の実行計画	再編の進め方に重大な問題 再編の考え方に重大な欠陥ありと上記で指摘しましたが、ここでは再編の進め方について、重大な問題のあることを指摘します。 なぜ、関係者（検討委員）は地元に来ないのでしょうか。なぜ、地元民のあずかり知らないところで事が進められようとしているのでしょうか。 再編（案）は、「該当園の関係者（保護者や地域の方など）に対して、説明を行っていく必要があります」として、町を支えてきた住民をお客さん扱いしています。 地域密接施設の最たる幼稚園、それも130年間にわたり、地元民が手塩にかけて守りをしてきた幼稚園の存続を検討協議する際にその地元民を無視して何をしようとしているのか、真っ先に幼稚園にやって来て、住民を含む関係者が車座になって議論する、明日の幼児教育、明日の中央の町のあり方を議論する。取るべき対応を地元民と共に研究し、検討し、討論する、このことがなぜできないのか、そのことをすっ飛ばして何をしようとしているのでしょうか。これが進め方の重大な問題点、欠陥なのです。今、中央学区民は天津市政に対する憤りを隠すことはできません。	ご意見として承ります。	地域との関わり
275		274の続き	エピソード3 店の前が通園路の御旅所 マンションに程近いある店の前は、園から帰ってきた園児と保護者の姿が絶えません。子どもは店の中を興味深くのぞいています。保護者は明るくおしゃべりをしています。子ども好きの店主も話題の中に入っています。 エピソード4 みんな知っている 近所のスーパーに買い物に出かけた家族の話。幼稚園児と小学生の 姉妹が親より先に家を出ました。あとを追いかけた親に果物屋の店員さんがニコ顔で「今、〇〇ちゃんとお姉ちゃんが通らはったよ」と。親は「ああ、この子らは守られているんだな」と思ったそうです。 大津市立幼稚園の再編等について（案）は、以上の理由で反対です。白紙撤回してください。そして、主権者たる地域住民と行政が手を携えて、汗をかいて、子どもが輝き大人も元気な地域社会を作り上げようではありませんか。そのための行動を直ちに起こそうではありませんか。	ご意見として承ります。	地域との関わり
276		再編等の方向性検討の結果について	旧志賀町の北部4学区では、5年後10年後には、全廃の可能性もあると示していると理解される。 入園者が減少すれば運営上統廃合はやむを得ないことは理解するが、自宅から遠方に通園することは保護者にとっては負担である。 私事ではあるが、志賀町時代に、長男は、小野幼稚園に通園させ、家庭事情で次男は保育園に通園させた。この時は、和邇保育園は待機児童が多くやむなく比良保育園の通園となった。送迎のため、毎日、職場とは逆方向へ送迎したが、通勤時間にプラスして毎日2時間必要であり結構な負担となった。近くには私立幼稚園もあったが、金銭的負担も多くその選択肢はなかった。 近くの保育園、民間の施設に通園すればよいとの考えかもしれないが、経験上統廃合により選択肢がなくなることは保護者にとって大きな負担である。 小野学区では、小野幼稚園は志賀南幼稚園へ統合されたことで、就学前児童への環境が悪化した。つまり、子育て世帯にとって、子どもの通園通学距離が自宅から近く、風紀的にも健全でかつ安全な地域であることが、居住対象地域となっている。加えて行政的な支援があれば更に良い環境と言える。子育て世代が増えなければ、地域としても大津市としても、過疎化高齢化による将来のない地域になっていくのではないか。	51ページに記載のとおり、第2段階での再編を行わないとしているため、全廃の可能性は示しておりません。	検討経過
277		276の続き	このため、 1幼稚園教育と保育園教育が違うのか一緒にするのか。 幼稚園は、教育中心、保育園は保育中心と理解されていると思うが、幼稚園と保育園を一緒にした運営ができないのか。住民にとって、地域から幼稚園、保育園の選択肢をなくさないための努力と、意見聴取と説明を丁寧にするべきである。	1点目について、認定こども園化についての貴重なご意見として承ります。	認定こども園

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
278		277の続き	2保育園についてはどうしていくのか（待機児童問題）。幼稚園同様保育園についてもどうしていくのか。併せた検討が必要であり、幼稚園問題と同時に意見聴取と説明をすべきである。小野学区では、以前小学校の問題で同様の対応をされ、その時も、住民から猛反発をしたことがあった。今回もその時と同様の対応である。地域における教育環境がなくなることは、たちまち地域の過疎化を招くことになる重要な問題である。今回の件については、行政として住民に対する説明の順番と（報道から先に火がついた）住民に対する時間をかけた丁寧な説明の欠如であったと思われる。住民からは決定事項と捉えられる内容である。「国民の三大義務」教育・勤労・納税と「三大権利」生存権・教育を受ける権利・参政権である民主国家の基盤となる責任と権利に関わることとして認識し、慎重かつ丁寧な議論と説明が必要であったものであり、このことを踏まえて少なくとも該当学区に対しては順序を追った再度の説明が必要と考える。	2点目について、本検討委員会では、保育園のあり方や待機児童対策については議論しておりません。	待機児童
279	19	（4）計画の見直しと市立幼稚園のあり方の再検討	再編の結果、幼稚園を残すのか、こども園として整備して行くのかははっきりしないと感じます。私は大阪府高槻市で公立の保育士、滋賀県草津市で公立の保育教諭をして今は大津市で民間の保育士をしております。勤めていた頃は高槻市は幼稚園の子どもの人数が減ってきたことなどから幼稚園と保育所を一つの施設としてこども園化するなど再編をしており、働く側も不安がありましたが人事異動で幼保の交流もしていました。草津市でも勤めたこども園が最後まで幼稚園として残ってこども園としてスタートした年でした。公立の幼稚園はなく、そもそも幼稚園自体少なくなっていました。幼稚園、保育所、それぞれ守ってきた文化がありそれ残したいと思う市民の声もちろんあるだろうし、反対意見もあるかと思いますが、子どもにとって一番良い方法をぜひ進めてほしいです。一番影響を受けるのは大人ではなく子どもたちです。先行している他の市町村のやり方や背景も参考に進めてほしいです。拙い意見で申し訳ありません。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
280			私は77年前に大津幼稚園を卒園しました。それ以来ずっと近くの玉屋町に住まいしております。玉屋町には大津祭の湯立山があり、30年前から園児には曳山に乗ってもらい、大津祭に親しんでもらうことにより、将来の大津祭の担い手として育んでいます。また、地域の文化祭や敬老会等その繋がりも大きなものがあります。周辺地域はマンションも増え幼児も増えていますが、京都からバスが迎えにきたりしております。これはどういう状態なのでしょう。それに指を食えていて良いのでしょうか。魅力いっぱいの大津幼稚園に何が不足しているのでしょうか。例えば給食の問題なのでしょう。時間の問題なのでしょう。これらの解決方法はどうすればよいのか、大津市と地域とで充分協議をする必要があるのではないのでしょうか。取り敢えず大津幼稚園が再編（廃園）されることには絶対反対します。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。京都の就学前施設に通われている現状については、大津市立幼稚園を否定するものではなく、保護者ニーズが多様化している中において、ご家庭のニーズに合った選択をされた結果であると考えています。既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	地域との関わり 給食 預かり保育の拡大
281			園児数が判断材料の一つになることは理解するが、この指標だけで統廃合を決定することに疑問がある。地域のニーズや事情に則した形で、判断することが求められるため配慮することを求める。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過
282			幼稚園の制度自体がダブルラインカムを前提としておらず、情勢に則していない事実はあると考える。一方、幼稚園の形態を維持することを前提としており、ニーズに則した変容を前提としていない点も疑問である。	ご意見として承ります。	認定こども園
283			具体的には、認定こども園方式とした場合の想定児童数、実現可否などを加味し、市民のニーズに則する形で実現してほしい。幼稚園の価値は多くの市民が理解しており、願わくば通わせたいと考えていると想定する。単純な統廃合以外の打ち手を求む。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
284			近年の社会情勢により、保育ニーズが多様化していること、また財政効率の観点から小規模園の統廃合が避けられない状況にあることは承知しております。しかし、大津幼稚園は明治時代から続く稀有な歴史を持つ園であり、大津という街の歩みそのものです。ここで育った多くの市民が今もこの街を支えており、この場所は地域の「心の拠り所」となっています。安易な廃止は、市民の歴史や思い出の根幹を奪うことになりかねません。大津市は滋賀の県庁所在地であり、現在、文化や歴史を活かした街作りに注力されていると拝察します。その中で、大津の名を冠する象徴的な幼稚園を失うことは、街の魅力を自ら損なう行為ではないのでしょうか。時代の流れに合わせて「形」を変えることは必要ですが、大津幼稚園という名称やその精神を、次世代に繋がる形で残す工夫を強く求めます。古きものを大切にしながら現代のニーズ（長時間保育等）を満たす、柔軟な再編案を再考していただければ幸いです	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	園の特徴 預かり保育の拡大

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
285			大津市が掲げる「のびのびと遊び、一人ひとりを大切にする」という幼児教育の理念を長年体現してきた大津幼稚園を廃止することなく、多様な家庭環境に対応可能な「認定こども園（または認定保育園）」へと移行し、存続させることを強く要望いたします。 【理由】 1.独自の教育実践と理念の継承 大津幼稚園は、一人ひとりの個性を尊重し、豊かな遊びを通じて人間性を育む教育を長年実践してきました。この質の高い教育環境は本市の誇りであり、園児数が減少しているからといって安易に失うべきではない、地域の貴重な教育資産です。 2.地域コミュニティの活性化と見守り体制 当園は地域住民との交流が盛んであり、高齢者から近隣住民まで、地域全体で子供たちを見守る文化が根付いています。子供たちの元気な声は地域の活力そのものであり、園の存続は多世代交流の拠点として、安全・安心な地域づくりに直結しています。 3.多様なニーズへの対応による存続の可能性 現在、共働き世帯の増加などにより、従来の幼稚園形態では入園が難しい家庭が増えています。これを「需要がない」と判断するのではなく、保育ニーズにも柔軟に対応できる「認定こども園」へ転換することで、入園希望者を確保し、園の歴史と教育方針を次世代へ繋ぐことが可能であると考えます。 【結びに代えて】 大津幼稚園を無くすことは、単に一つの施設を閉じるだけでなく、これまで築き上げてきた地域との絆や教育のノウハウを断絶させることを意味します。子供たちの未来と地域の活力を守るため、持続可能な形での存続について前向きなご検討をいただけますよう、心よりお願い申し上げます	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
286	2	下から3行目～末尾	本文「以上のことから・・質の高い教育・保育環境の提供と保護者支援を目指して、・・・」と記載されているが、今回の大津幼稚園の平野幼稚園との再編は、自宅から園までの歩行距離を配慮してバスの運行をするなど、園児と保護者の安全な登降園を支える行政での具体的な支援の方策が示されていないので、在園児や今後大津幼稚園の入園を希望する未就園児親子の不安を増大させている。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
287	6	上から3～7行目	就労形態がフルタイムパート（長時間）は保育所、認定こども園を希望する保護者が多い。ところが保育所は大津市では育休明けの2歳児では入所できない状況になっている。こども園は大津市に公立は1園のみ、場所も比叡平という特殊な地域にあり、だれもが通いやすい場所とは言えない。国は保護者の多様な就労形態に応じて入園できるこども園の設置を進めている。県下でも守山市、草津市など公立幼稚園の園児数の減少をうけて市立こども園として公立の教育・保育が維持され、だれもがその教育・保育を受けられるようになっている。このように大津市以外の市では公立幼稚園からこども園への移行整備が進んでいるにもかかわらず、大津市でこども園が一つ(比叡平のみ)というのは、適正な就学前教育・保育の実施されるための整備が遅れているとしか考えられない。こども園の設置は待機児童対策としても有効であるのは自明のことである。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
288	10	(4)	保護者の就労に対する支援策として大津市立幼稚園が預かり保育に時間延長をしたことは評価できるが、一般的な9時から17時まで就労形態を考慮すると預かり保育は7時半～18時半までの延長が求められる。再編計画に当たって、登降園時間は早まったり遅くなったりすることを考慮して、保護者のニーズに対する預かり保育時間の柔軟な対応を今後検討していただきたいと思う。	市の施策に対するご意見として承ります。	預かり保育の拡大
289	12	(5)	運営費のなかで人件費の割合が高いことを明記されているが、教育・保育は子どもに関わる大人の存在が不可欠である。そのため人件費の比率が高いのは街づくりの施策として必要なものであると思われる。また特別な配慮を要する子どもの増加に対して、その受け皿としての公立幼稚園の果たす役割は大きいことも明記されていることから、市として一人一人を大切にする保育が実践できる保育者の存在を公立幼稚園・保育園の大きな財産として評価されていると考えられる。特別な配慮を要する子どもたちだけでなくだれもが安心して通園できる場が公立幼稚園であることをもう一度評価し、適正人数の確保だけを基準にするのではなく、地域との関係性や歴史、園の実態などを配慮し、地域の関係者、保護者と何度も話し合って、合意を求める方向で進めてほしい。地域での見守りや支援があってこそ培われた文化が各園に位置づいていることが大津の公立幼稚園の財産である。	20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適の観点で検討を行ったものです。	進め方
290	13	(6)	通わせたい施設の要件として保護者が挙げているのは「1 自宅に近い」、「2 給食の提供」、「3 教育・保育内容が良い」などである。「1 学区内で自宅に近い」「3 教育・保育内容が良い」は公立幼稚園の強みであるので、2の給食の提供を実施すれば、園児数確保も可能となり、待機児童対策にもつながる。幼稚園の給食も中学校給食のように、給食センターからの配送で可能であると考えられる。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。 なお、待機児童の95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	給食 待機児童

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
291	13	(6)	p16の16行目「園児数の少ない地域を中心として認定こども園への移行などの取り組みの促進」と記載されているので、現在の施設を維持しながら、給食を実施してこども園への移行できる方法を園や保護者、地域と話し合ってスタートしてほしい。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
292	20	(6)	これまでの再編で藤尾学区、日吉台学区は民間による幼稚園園舎を活用したこども園の設置で、学区内の園児の行き先が確保されている。仰木学区、雄琴学区はバス運行で安全な登降園が確保されている。ただ、仰木幼稚園、雄琴幼稚園の園舎は廃墟と化し、放置されている。今後、あのままでは治安面での問題が生まれないか危惧される。再編計画は園児の数のみを注目し、園の数を減らして人件費の節約を図るという市政の方針だけで、夢があふれる大津の未来図は廃墟の施設の放置が乱立する街なのかと思うと市民として市政の在り方の再考を強く求めたい。市役所の庁舎改築も大事だが、人を育てることが未来につながることで大事にすることが行政の姿勢として大事な視点だと考える。説明会で参加者の質問に真摯に向き合い、よりよい方法を市民と一緒に考える姿勢が、職員の方々からも感じられるように地域住民の立場にそった対応を切に願う。	33ページの適正規模に記載のとおり、子ども達の育ちの環境として「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、人件費の節約を図ることを目的としたものではありません。	予算削減・効率化
293	39 42		「公立園同士の再編から市立認定こども園の設置を検討する」とされているが、P 42に記載された地域性の考慮として、大津幼稚園を選んだ保護者の思い、例えば 1 質の高い教育・保育の維持、2 小学校との滑らかな接続、3 特別な配慮を要する園児をはじめひとりひとりを大事にする保育の維持、4 地域の文化、伝統や伝承（ユネスコに登録された大津祭など）の保育の位置づけなどが継続されることを願う。大津市が長く培ったスタンダードな公立幼稚園の教育が保護者やこどものニーズに応じて継承し、進化発展するため、まず「大津市立認定こども園大津幼稚園」として生まれ変わることを強く希望します。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
294	52		■大津幼稚園の認定こども園化について 大津市の保育所等待機児童数は令和7年4月1日時点で132人であり、2年連続で全国最多となっています。 P.19では、令和6年4月に比叡平こども園が大津市公立園として初めての幼保連携型認定こども園として開設されたと明記されていますが、市内に公立認定こども園は現在この1園のみであり、大津幼稚園が位置する打出中学校区には存在しません。P.39では、「公立の認定こども園化」が明記されており、本計画で子ども園化の可能性が明記されています。またP.32の基本方針2では「1号認定子どもの選択肢が不足してくる地域が発生しないよう、地域ごとに需要と供給のバランスを考慮する」とされています。 大津幼稚園を認定こども園化することにより、以下の効果が期待できます。 ・待機児童問題の解消に直接貢献できる。 ・就労している保護者が仕事を辞めた場合でも、子どもを同じ園に継続して通わせることができ、保護者・子ども双方の安定につながる。 ・専業主婦・主夫家庭が就労を開始した場合も、保育の継続利用が可能となる。 ・公立施設としての教育の質・専門性・施設環境を維持しながら、子育て世帯の保育ニーズにも対応できる。 大津幼稚園の再編にあたっては、平野幼稚園との単純な統合ではなく、認定こども園化を最優先の選択肢として検討してください。 私は、子どもを大津幼稚園に通わせている就労中の保護者として、大津幼稚園の認定子ども園化を切に望みます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
295	54		■保護者への説明・合意形成について 「再編実施の2年前に実行計画を作成し、関係者に説明を行う」とされていますが、説明のタイミングが実行計画策定後に限定されています。P.54では「当事者である保護者や地域の方などへの説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことが必要」とされていますが、説明会の回数や形式、意見収集の方法、収集した意見の計画への反映方法など、「丁寧に」の具体的内容が示されていません。 実行計画の策定前段階から、保護者・地域住民が意見を述べられる協議の場を設けてください。また、寄せられた意見がどのように計画に反映されるか示してください。	54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
296	12		■特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ機能について P12・図10では、市立幼稚園が1園あたり約10人の特別な配慮を必要とする子どもを受け入れており、民間園の2倍以上であることが示されています。この機能はP.26(5)においても市立幼稚園が果たしてきた役割の一つとして明記されています。市立幼稚園が減少することにより、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ先が減少し、子育て世帯の選択肢が失われます。障害の有無や家庭の状況にかかわらず、すべての子どもが質の高い教育を受けられる環境を守ることは、公立幼稚園が担うべき役割ではないでしょうか。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
297	52		■大津幼稚園固有の状況について P.52では、大津幼稚園が「大津市立幼稚園の発祥の地」であることを認めながら、再編基準への合致のみを根拠として第1段階での平野幼稚園との再編としています。P.31の基本方針では「園児数や施設の老朽化だけを判断材料として画一的に統廃合を進めると、教育の質をどのように担保していくのかという問題が生じる」と明記されているにもかかわらず、大津幼稚園については人数のみを再編基準としており、基本方針との整合がとれていません。大津幼稚園については、表14(P.47)において、「創立137年、小学校との一体化施設による連携、地域の歴史的文化(大津祭)を生かした保育」という固有の特徴が列举されています。大津幼稚園に子どもを通わせる保護者としても、まさしくこの地域固有の幼児教育を受けてほしいという思いで大津幼稚園を選択しています。なぜ大津幼稚園の固有の特徴、保育を無視して、人数のみを根拠に再編を結論づけたのか検討プロセスを具体的に示してください。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 大津幼稚園が、最初の市立幼稚園であるという歴史については検討委員会でも意見が出されたところです。その上で、子どもの育ちの場、集団規模を確保することを第一として検討しております。	検討経過
298	39		■公教育の役割について 公立と民間の間には、施設の設計・環境・職員の専門性において現状として大きな差があります。保護者として、子どもが民間保育施設に2年間通園し、その後大津幼稚園を利用してきた実体験から、この差を強く実感しています。大津幼稚園では、幼児目線の安心安全な施設環境のもとで専門性の高い先生方による幼児教育を受けられており、保護者として大変感謝しています。 P.5では未就学児の母親の就労率が上昇していることが示されていますが、就労家庭が増えるほど保護者が施設を選べる余地は狭まり、希望する施設に入れなくなります。公立幼稚園の縮小はこの問題をさらに深刻化させます。P26(5)では市立幼稚園が果たしてきた役割として、「平等に教育の機会を提供し、誰もが学び成長できる環境の保障」と明記されています。 公立幼稚園を縮小することは、家庭の就労状況や経済状況にかかわらず質の高い教育を受けられるという公教育の根幹を損なうのではないのでしょうか。	家庭の就労状況や経済状況にかかわらず質の高い教育を受けられるためには、民間保育園等を含めた全ての就学前施設が大切な施設であると考えており、どの施設を選ばれても、より良い教育環境が得られるようにする必要があると考えております。	その他
299			大津幼稚園の存続を希望します。 伝統ある幼稚園がなくなるの損失だと思います。 幼稚園と保育園は内容の保育だと思う反面、幼稚園は就学前教育の場で少し意味合いが違うように思います。幼稚園のよいところを残しつつ、柔軟な対応のできる子ども園になるといいと思います。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
300			京都市ヘバスで通園している園児を多く見かけます。園児数が減っていることも事実ですが、京都市幼稚園等に通園する子どもの数の推移や割合は学区ごとに出ないのでしょうか。 保育料無償化で大津市民の税金から出ている保育費用が京都市の幼稚園等に多く使われることも残念に思います。	小学校区ごとの数値は把握しております。 なお、保育料は個人に給付されるものであり、給付を受ける保護者が、ご家庭のニーズに合った選択をされた結果であると考えています。	市外の施設に関すること
301			子どもが逢坂幼稚園に通っています。3歳児クラスで1クラスあたり18人以上と基準を設けられていますが、少人数だからこそその利点もあることをご理解いただきたいと思います。クラスのお友達が少ないからこそ、先生の目も良く届きますし、お友達のことをよく理解して関係づくりができていてと感じています。縦のつながりも多く、3・4歳児はお手本を身近に見ることができ、5歳児は年長クラスとしての意識を強く持っています。また、子供たちが何か思いついたときに、幼稚園全体でその発想をサポートすることができる点は少人数ならではの特にいいところだと思っています。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、本検討の内容は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであります。	適正規模
302			幼稚園が将来通う小学校の傍にあり幼少連携がとれていることや、通園が通学の練習になること、小学校を身近に感じていることなど、学区単位の幼稚園はとても重要だと思います。合併後も連携を取るとしても距離ができてしまうことは避けられませんか、合併先すべての小学校と今ほど綿密な連携は難しいと思います。	ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携
303			表15の通り、園庭、園舎、駐車場、周辺環境など逢坂幼稚園はとてもいい環境に恵まれています。この幼稚園を合併して使わなくなるのはとてももったいないと思います。図11のニーズ調査からも通園バスより駐車場が使える幼稚園を希望される傾向があります。また周辺地域は山側に急な坂も多く、3・4歳児を連れて歩くには辛い地域も多いです。幼稚園保護者も夫婦で就労されている家庭が増えたこともあり、市立幼稚園の原則徒歩という方針は難しくなっていると思います。駐車場がある園は園児募集の時から送迎にも使用できると積極的に伝えてもらいたいです。学区外の家でも通園が難しいため通園バスのある市外の幼稚園を選択されるなら、学区を跨いでも市立幼稚園を選んでもらえるよう学区外からの車通園を可能にしたいのではと思います。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
304			逢坂幼稚園が平野幼稚園に合併されると、通園方法の不安もあります。バス通園ではバスに乗っている間の往復時間分の園児活動ができなくなりますし、園庭開放もなくなる可能性も考えると、思い切り遊べる公園が少ない地域のため子どもの体力がつかないことにもつながります。平野幼稚園に駐車場もないため自家用車での通園も難しいと聞きました。徒歩や自転車では距離がありますし悪天候の時の負担も大きいです。電車での往復は時間的にも金銭的にも負担になります。図 1 1 のニーズでもあるように保護者の一番のニーズは自宅に近いことです。合併してしまうと逢坂学区から市立幼稚園を選択できなくなる上、平野幼稚園の園児数も大きくは増えないのではないかと思います。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
305			市立幼稚園の園児数確保を目的に再編を考えるなら、図 1 1 のような保護者ニーズを幼稚園に入園を検討している家庭に絞った方法で調査してみるべきかと思います。そこで出てくるネガティブな要素に対策することが今後の園児数確保につながると思います。	今後の施策の参考として承ります。	その他
306			今回の再編の方針には令和 5 年からの園児数から対象にされていたり、3 歳児入園数が 3 年連続 5 人を下回れば翌年度 4 月 1 日に再編と書かれていたり、再編先や通園方法が分かっていないなど、保護者からすれば不安な要素が大きいです。また新聞も出てしまい、市立幼稚園を検討されていたご家庭も市立幼稚園を選びにくく感じられたのではないかと思います。入園時点で何の説明もなく在園中に合併になることは子どもにも家庭にも負担が大きいです。入園前に説明の無かった再編成を行い、子どもや家庭に負担がかかるような政策はやめていただきたいです。全国的なニュースになった幼稚園教諭の給料を下げる政策に加え、今回の再編案にある市立幼稚園の先行き不透明な状態では、これからを担う子どもたちへの教育を等閑にしているように感じます。	当市立幼稚園再編案は検討段階のものであり、決定しているものではありません。その上で、突然の再編等にならないよう、市全体として検討を行っているものです。	進め方
307		1.地域コミュニティにおける大津幼稚園の重要性について	私は大津幼稚園に接する堅田町の自治会長として、日々、園児や保護者の姿を見守っております。道路に面した園庭に花が咲き、子供たちの歓声が響く光景は、地域住民にとって単なる教育施設以上の「心の灯火」であり、地域の活気の源です。降雪時には地域で雪かきを行うこともあるなど、地域一丸となって子供たちの安全を守ってきた歴史もあり、当園は地域コミュニティの核として不可欠な存在です。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
308		2.保護者の就労状況に即した運営改善の必要性	現在、当園には自治会員の子弟だけでなく、私の孫も通園しております。孫の両親（私の娘夫婦）は共働きであり、平日の送迎は祖父である私が担っています。現在の入園者数減少の背景には、共働き世帯が増加しているにもかかわらず、給食の提供がない、あるいは保育時間が短いといった「預けにくい環境」があると考えます。市が入園児を増やすための抜本的な対策（給食実施や預かり保育の延長など）を講じぬまま、単に「入園者減少」を理由に閉園を決める方針は、市民として到底納得できるものではありません。	平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食 預かり保育の拡大
309		3.再編計画の判断基準と拙速な進め方への疑義	今回の再編計画が「3歳児の入園者数」のみを基準に進められている点には、強い危惧の念を抱いています。これは一面的な指標に偏った判断であり、地域の実情を無視した拙速な計画と言わざるを得ません。	再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。なお、3歳児を基準とした理由として、3年保育を実施していること、3歳児で入園される子ども達が最も多いこと、4歳児・5歳児で園児数があまり増えないことなどが挙げられます。	再編基準
310		3.再編計画の判断基準と拙速な進め方への疑義	また、平野幼稚園への統合による登園距離の増加に対し、親子への具体的な支援策も提示されておらず、これでは「幼稚園離れ」を助長するばかりです。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
311		4.大津幼稚園独自の価値と保護者のニーズ	大津幼稚園が選ばれている大きな理由は、以下の点にあります。 *通園の利便性：*自宅から近く、安全に通園できること。 *小中一貫教育の基盤：*就学先である中央小学校との密接な連携、および打出ブロック内での3校連携が図られており、就学への安心感があること。 こうした特有の良さや、それに基づく保護者のニーズが、今回の再編計画では十分に配慮されていません。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	検討経過

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
312		5.市への提言と結び	自治連合会から計画中止の嘆願書が提出されている重みを、市は真摯に受け止めるべきです。もし財政上の課題があるならば、まずは市として善後策を提示し、自治連との対話を通じて「市民の生活のための政策」へと再構築することを強く求めます。 大津市には、地域の核となる人間を育てるという重要な使命があります。大津幼稚園の閉園を検討するのではなく、むしろ「給食の実施」「保育時間の延長」など、現代の保護者ニーズに応える施設整備のモデルケースとして、大津幼稚園から公教育の充実を図っていただきたい。市長および市職員の皆様には、子供たちの生活を守る視点で、本計画を今一度白紙から考え直していただくよう切に願います。	本検討に当たっては、財政面の課題ではなく、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であること、子どもの育ちの観点から集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討を行ったものです。 なお、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食 預かり保育の拡大
313	33	4 適正規模・再編基準について	ここに書かれている「適正規模」とは何かが、よくわかりませんでした。確かに子どもたちは集団のなかで育っていきませんが、「4歳児20人以上」「5歳児25人以上」の根拠がわかりません。実際に子どもたちが互いに意識し、共同の関係やあそびをつくりながら、自分づくりも進めていける規模は、もっと少人数であると思います。また、異年齢集団のすぐれた実践は全国各地にあります。 少子化、親の就労等が進んでいることは理解しますが、だからこそ、より丁寧に子どもたちの保育を行なっていける好機とも言え、ここに示された「適正規模」を根拠に再編を進めるのというのは説得力に欠けると考えます。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。	適正規模
314	33	4 適正規模・再編基準について	さらに、1 2 頁にあるように、特別な支援を必要とする子どもたちは増加してきており、公立幼稚園は、そうした子どもたちへの保育に大切な役割を果たしてきたと考えます。そうした特別な支援を必要とする子どもたちの場合、より小さな集団の方が、じっくりと力をつけていきやすいのではないのでしょうか。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
315	52	カ打出中学校区大津幼稚園の再編について	反対です。 私は、難病があり配慮の必要な子供の親です。 このような子供のセーフティネットになりうる公立幼稚園を安易に再編させることは、子供と親の命に関わることであり、強い憤りを感じています。 公立幼稚園の役割と運営について 特別な配慮への対応：市立幼稚園では民間園の2倍以上の「特別な配慮を必要とする子ども」を受け入れ、公立としてのセーフティネット機能を持つ（園児数の18.5%） まず一般的に、配慮の必要な子供の親が幼稚園を選ぶ理由をご理解ください。 ・親が付き添い・通院・急変対応のため働けないことが多く、保育園を選べない ・待機児童の多い地域では、長期入院となった場合、席を残せず転園を考えなければならないケースがあり、不安が残る ・難病児は感染が命取り。保育園は人が多く長時間保育のため、感染しやすく、躊躇する 我が家のケースと意見 入園前見学の際には、私立3ヶ所、公立1ヶ所の幼稚園の園長と個別面談し、「圧倒的に公立が良い」と感じ、大津幼稚園に入園させることを決めました。以下の理由すべてが、大津幼稚園を残すべき理由であると考えます。 ①歴史ある幼稚園は土地が広く、校舎や園庭が広々としていること ②少人数かつ学級閉鎖があるため、難病児にとって危険な感染リスクが減ること ③研修制度がしっかりしており、教諭の質が高いと感じたこと ④未就園児期の親子登園事業(ことりクラブ)など、母親のセーフティネットとしての役割が充実していたこと ⑤地域の人たちとのつながりが深いこと	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。 地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。 園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかななどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	特別な配慮 地域との関わり 認定こども園

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
316		315の続き	①歴史ある幼稚園は土地が広く、校舎や園庭が広々としていること 大津駅付近に新しくできた私立の幼稚園やこども園は、狭い土地に建っているので、校舎が狭い傾向にあります。難病児は感染で悪化するリスクがあるため、「人数に対してこの狭さではとても預けられない」と感じました。 また、私立は園庭も狭く、走り回って遊ぶにも限度があります。大津駅前付近はマンションが多く、大津中央地区の幼稚園児は、家のマンション率が90%を超えていると聞きます。そのためコケることが多く、足腰を鍛えるためにものびのびと遊べる広い空間や園庭が必要と感じています。 その点、大津幼稚園は、園庭が広く、毎日駆け回っており、子供の発達にも大いに寄与していると考えます。 ②少人数かつ学級閉鎖があるため、感染リスクが減ること 前述の通り、難病児は、感染リスクに敏感に生活しなければなりません。そのため私は「園児の少ない園」をメインに探していました。1クラスの人数を増やすことばかりお考えのようですが、このような考えをせざるを得ない層がいることを忘れないでいただきたいです。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
317		316の続き	③研修制度がしっかりしており、教諭の質が高いと感じたこと 公立幼稚園は自治体主導の研修が豊富で、最新の教育要領に基づく実践研究会などが充実しています。 入園前見学の際には、私立3ヶ所、公立1ヶ所の幼稚園の園長と個別面談しましたが、私のような「配慮の必要な子供の親」のケアまでしっかりとしてくださったのは、公立幼稚園だけでした。 見学の電話をする際、難病児だと言うと、空気が凍り「上に確認してから折り返します」と言われることばかりでした。ただ大津幼稚園に電話した時は「お母さん、大変でしたね」とまず最初に言ってくれました。その時どんなに嬉しかったか。ステロイドでお相撲さんのような体になった娘を見て、たくさんの人に「ギョッ」とされるようになってからは、人と関わるのが怖くなり、誰にも話さず孤立して、ひとりぼっちでしたから。 保育園に通う普通の親子を見ると気が狂いそうだったので、すれ違わないようにするために9時以前と16時以降は、外に出ない生活が一年以上続いていました。 「自宅保育で何もしてやれていない。テレビで見る虐待をしている親と、私は何が違うんだろう？」 キッチンに包丁が出ていると、動悸がするようになり、保健師に助けを求めたこともありました。 見学の時、「うちの子は入園できますか？」と聞かなければならない親の気持ちを想像したことはありますか？心臓をギュッと握りつぶされるような気持ちです。 大津幼稚園の園長だけが、「うちの園はどんな子も受け入れます」と、間髪入れずにキッパリ言ってくれました。その場で、ワーッと泣いてしまいました。嬉しくて、やっと誰かに自分たちが受け入れられたような気がして…。 我が子は、私から離れて興味のある方にすぐ向かいます。それを見て「愛着形成がしっかりされていないと、子供は親から離れられない。お母さんは、大切にお子さんと向き合ってこられたのがわかります」とも。 嬉しかったです。やっと、私のことを評価してくれる人ができたのだと。ひとりぼっちじゃなくなったのだと。 子供だけでなく、私のケアまでぬかりなくして頂きました。心から感謝しています。 これらの各先生によるきめ細やかな対応は、公立の教諭の充実した研修制度があってこそだと考えます。 中央学区の幼稚園は、もしなくなれば民間に任せればよいと思われるかもしれませんが、このような、きめ細やかな対応や、教育をしてくれる公立幼稚園が家から徒歩で通える範囲内にあることは、大きな価値であると考えます。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
318		317の続き	④未就園児期の親子登園事業(ことりクラブ)など、母親のセーフティネットとしての役割が充実していたこと 少人数で構成されていることりクラブには、安心して通うことができました。 ことりクラブでは、他の子供と関わり合いながら我が子の成長を見ることができて嬉しかったです。 先生の指導のもと、同じ教室で楽しく活動する子の姿を見ると、「私がやってきたことは間違いではなかった」と、鬱気味だった私が前向きになるきっかけになりました。 また、難病の感染対策のため、一年以上お友達と関わり合いを持てなかった我が子のコミュニケーション面でのハンデを解消するきっかけにもなりました。 ことりクラブがなければ、私は死んでいたかもしれません。それくらい、ギリギリの状態でした。 未就園児、とりわけ配慮の必要な子供の親は、孤立しやすい傾向にあります。精神的に衰弱している親が、平野学区の方まで足を運ぶことは不可能です。 地域に幼稚園があることは、未就園児の母親のセーフティネットにもなります。数字ばかりではなく、「弱者の立場」を考え、幼稚園を残して頂きたい。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
319		318の続き	⑤地域の人たちとのつながりが深いこと 私は、前述の通りママ友がいませんでしたが、代わりに地域の方々に支えられて生きてきました。「おはよう！」「いってらっしゃい！」 通園前、商店街の品出しをしながら、いろんなおっちゃん、おばちゃんたちが娘に挨拶してくれます。この風景に、入園前からずっと支えられてきました。地域の人たちの「おはよう！」が聞きたくて、塞ぎ込んでいた私が外に出るようになりました。 我が子の事情を知る地域の人たちは、みんな可愛がってくれます。私にとって、いつもの生活と大津幼稚園の生活は、ずーっと延長線上にあります。これがもし、平野になってしまったら？ スクールバスが出たら、地域の人たちとの挨拶もできなくなってしまう。大津祭りの乗山体験も無くなってしまう。これらは園児だけでなく、地域の人たちがとても楽しみにしていることです。 園が再編し、集約されてしまえば、地域の人たちとの繋がりが100%希薄になります。 大津市の挙げるさまざまな数字はわかりやすいですが、このような人との結びつきは、数字では表せない貴重な価値があります。私は、地域の人たちの中で、たくさんの経験をし、心を成長させてほしいと思います。なくなるなんて考えられません。	地域との繋がりとという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
320		319の続き	地域の人たちの声 今回の件について、地域の方(30～85歳くらい)15名ほどと話したことを、まとめます。 そもそも幼稚園教諭の賃下げをするような市政はどうかしている。 待機児童問題を解決し、保育士を増やしたいなら、賃上げをすべきだった。大津幼稚園だって、待機児童を解消するためなら本来こども園にすべきなのに、今回の無理な平野への再編も、保育士が足りないからやりたいんだろう。 だが、賃下げして保育士がさらに大津市から離れる理由作りをしてしまったのは大津市。 明らかにこれは大津市の失策であり、その被害を被るのは未来あるこどもである。 大津市には、子供を大切にしない気がない。がっかりしている。 このように、幼稚園教諭の賃下げの件をはじめ、保護者だけでなく地域の方々も非常に怒っています。しかも、保育士インフルエンサー「てい先生」がSNSで取り上げ、9万いいね、1,229.8万ものインプレッションがつき、大きく話題になったこともあり、全国的に「大津は子育てに消極的」というイメージがつかしました。 話題になった今回の件も、親としては「子育てをしたことのない人の案」にしか思えません。数字でない部分に価値があることを、現場を見て考慮すべきです。 今後の方針について大津幼稚園のこども園化を望みます。 待機児童の多い保育園のニーズと、幼稚園のニーズ両方の維持を検討していただきたい。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
321	25	幼稚園が果たしてきた役割	幼稚園が果たしてきた役割を讃美する一方、ニーズに対応しきれていない課題について、記載がない。 どうして、園児が減少したのか、保護者ニーズ P 1 3 の幼稚園に関わる項目から見ると、保育時間が希望通りでないこと、給食を提供していないことが主な原因であるのは、明らか。このことについての一切の記載がない。P 2 4 には、「保育の拡大を実施してから1年を経過知っておらず検証が十分できてきない」とある。検証ができていない段階で、再編に走るのは、幼稚園制度の今後に展望がないなかでの、再編案であり、ニーズに対応できないまま、自然消滅を待つかの如くである。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 また、給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	預かり保育の拡大 給食
322	25	幼稚園が果たしてきた役割	幼保一元化は40年来の課題で、少なくとも2006年の認定こども園制度が出来て以来20年が経過している。改革なく、ここきて、検証がないまま、再編に進むのは、本末転倒である。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
323	27	幼稚園教育のあり方	再編ありきの理屈であり、平成28年の「大津市立幼稚園における～規模適正化に向けた実施計画」これを踏襲し、根拠としている。 この実施計画は、どのように、進められ、また、その結果どのように評価されているのか。根拠とするからには、明確にすべきである。	園児数を増やす取組として、既に平成28年度には、最も大きな要望として、「3年保育の実施」、次いで大きな要望として「預かり保育の充実」が提案され、順次実施してきたところです。 再編の検討は、3年保育実施後の園児数により検討を行うとされ、加えて令和3年3月には令和3年度から令和5年度までは再編を実施しないとされました。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、令和6年度から改めて再編に係る検討を行っているものです。 この経緯について記載します。	検討経過

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
324	37	再編等の方向性検討	広域エリアを「中学校ブロックとした」とあるが、市街化調整区域が大半の中学校区では、P45の図 1 9 市域図の①⑫⑬等では一園になると片路 1 0 キロ以上の通園距離となる箇所が相当出る、把握しているか。 P4、1 4 のニーズ調査で「自宅の近くにある」が第一位である保護者の思いとは、相矛盾する。 中学校ブロックの括りで、再編するにしても、地域の実情において、自ずと対応があるべきだ。 ブロックでの再編に地域の意見交換会を実施すべきだ。	大津市では、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適の観点で検討を行ったものです。	検討の目的
325	29	架け橋期の教育の推進	「再編実施後は、再編後の園が複数の地域における連携を担っていく」まったく机上の空論このような連携、このような協働とか具体的に示すこと。	20ページに記載のとおりです。	地域との関わり
326	44 53	園児数推移 検討経過と概要	令和8年度は実数が出ている。更新されないで状況で考察されることは、回避すべきである。 第一段階としている田上、青山の令和8年の三歳児は、田上7人、上田上10人、青山6人「いずれも第一段階」は誤り	令和7年度に検討を行ったものであり、令和8年度の実績は反映されていません。 なお、再編基準としては、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による基準を設けており、ご意見にあるとおり、1度でも10人を下回る場合は第1段階として判断を行いました。が、明確に記載されていないため、「1度でも下回る場合」と明記します。	人口推計・園児数推計
327	42	地域性等の考慮	「駐車場の有無や台数」再編先の条件としているが、幼稚園は徒歩通園が基本で、駐車場の確保はむしろ基本に反するとされてきた事実は、確認されているか、では駐車場が教育財産として確保されている園は、何がゆえに税金を使って確保したのか。それなのに確保のない幼稚園は、再編先には該当しないとするのでは、理解できない。地域の支援で確保が可能な園は、条件を満たすとして取り扱われるべきである。	駐車場の数については、48ページ下部に記載しているとおり幼稚園敷地内にある駐車場のみ計上しております。	検討経過
328	45	田上・青山中学校校区	再編先に位置関係が反映されていない。青山から上田上を通過して、約10キロの田上までの通園を希望される方は皆無では、また、どの園も再編後の園児数を受け入れるに十分であり、規模に問題なく、堰堤の環境とは、どこに違いがあるのか。	43ページに記載のとおり、園庭の特徴など、教育環境や子どもの育ちの環境という観点から検討を行ったものです。	検討経過
329	8	図 8 と本文	本文中に「保育所・認定こども園の施設数についても、～横ばいで推移」とあるが、それが図でばっとわかりにくい。図の 2 ・ 3 号施設が対応することか。初見時の見え方を気にしてほしい。	ご意見として承ります。	その他
330	20	(6)	「これまでに実施した再編によって、集団規模が大きくなったことで～子どもたちの遊びや生活も豊かに展開されています。とあるが、これは、なにかの根拠に基づくものか。	市立幼稚園の現場の意見によるものです。	検討経過
331	21	表 7	パーセンテージだけではなく実際の数字も入れてはどうか。かなり分母が少ない学区もあるのでは。	ご意見として承ります。	その他
332	2 3 2 4	(8)、表 9	新入園児数の減少幅がR7は小さい、ということだが、表 1 を見ていると、これまでの 3 歳児全体の減少の仕方より、ゆるやかになっているので、当たり前結果ではないか。取組の効果のように見えている。 また、その後効果検証を十分にできていない、ということだが、支援拡大の取組の検証を待たずに、再編を進めるという風に見える。データの蓄積と分析が足りない中での判断ではないか。	表1は就学前児童の人口であり、既に保育所等を利用している子ども達も含んでいることから、表9の結果との直接的な関連は示していません。 23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
333	39	図 1 7	純粹にフローが見づらい。立体的にしていることや、文字の色が白になっていることが原因な気がする。また、文字も小さい。 このフローが検討の「肝」となるはずなので、もっと見やすく・わかりやすく・伝わりやすいフローにしてほしい。 また、本文中には公立園（市立幼稚園及び市立保育園）とあるがその注釈は、図中にも必要ではないか。	図の修正を行います。	その他
334	3 9 4 0	本文	市立保育園の検討は行っていない、ということだが、こども園含め、検討委員会では議論になっていた。検討委員会の建付けは理解するが、今回の検討は、きわめて個別最適な結論を導くことになっていないか。再編は否定しないが、プロセスが良くないのでは。	ご意見として承ります。 本検討は、近年、市立幼稚園の園児数が急激に減少している状況を受けて行っているものです。	検討経過
335	44	表 1 2 の上の説明	中黒が 3 点あり、それぞれに（ 3 5 ページ（ 4 ）アに該当・・・）などという記載があるが、このページも重要なページなので、このページだけで内容がわかるようにしてほしい。	表現方法の工夫をします。	その他
336	50	(2)	検討委員会議事録を拝見し、1 地区ごとの方向性について、事務局が示した 3 パターンで委員会がこれで、という方式で決めていったと認識しているが、検討委員に責任を与えずではないか。市としてはこのパターンを最優先としたい、というような思いがあってもよかったのではないか。	ご意見として承ります。	その他
337	51	※	別途保育園のあり方も検討する必要がある、というような記載が複数出てきているが、こういったタイミングで、どのような手法で実施するのか。	答申後に市として検討されるものと考えます。	進め方

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
338		基本的な方針について	市立幼稚園に通う保護者です。 現在、給食は週1回の宅配弁当のみで、その他は手作り弁当となっており、保護者の負担が大きい状況です。週1回の給食の日には、子どもが”みんなと同じものを食べられた””普段は食べないものにもチャレンジできた”と、とても嬉しそうに帰ってきます。給食は単なる食事ではなく、教育的効果を強く感じています。一方で、毎日の弁当持参が必要なことが、入園をためらう一因になっていると感じています。実際に、弁当負担を理由に市立幼稚園を選ばないという声も聞かれ、園児数減少の一因にもなっているのではないのでしょうか。市立幼稚園の再編等を検討されている中で、園児数確保や園の魅力向上という観点からも、給食体制の充実は重要であると考えます。 共働き世帯が増えている現状も踏まえ、保護者の負担軽減および子どもの健やかな成長の観点から、給食回数の拡充（将来的には毎日給食の実現）についてご検討いただけますと幸いです。これにより、園児数確保や再編の必要性の緩和にもつながることを期待しております。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
339			幼稚園合併を行うにあたり、遠方になる方や自動車をお持ちでない方、送迎不可な方が自宅近隣の保育施設への入園出来る保証は確保されるのか？市立保育園が周辺にない場合はどうするのか。または送迎バスを導入するのか。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
340			遠方になったことにより通園時間が長くなることにより保護者の負担が大きくなるため、給食を導入して欲しい。給食がないからこども園や保育園を選んでいる方もいるので、給食導入すれば幼稚園を選ぶ方も増え待機児童も減り、幼稚園の利用率もかなり上がると思います。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。 なお、待機児童については、95%以上は0～2歳児となっており、幼稚園に通われている3歳児以上の待機児童は、ほとんど発生しておりません。	給食 待機児童
341			少人数だからこそ一人ひとりを大事にした風通しのよい保育が今回合併が検討されている園のとてもいいところだと思うので、ただ人数を集約するだけの合併では、保育の質が下がってしまうのではないか。非認知能力を求める今の世の中、大勢でみんな一緒という保育は違う気がします。	本検討の内容は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものです。	適正規模
342			以下を要求します。 1.2026年4月付け文書『大津市立幼稚園の再編等について～～より良い教育環境の提供に向けて～～』の白紙撤回 2.上記に関連する関連議案の取り下げ	ご意見として承ります。	その他
343			就学前の子どもたちの施設（以下、就学前施設）の検討として、冒頭では保育所・認定こども園等の状況やそれへのニーズとも合わせて論じられていますが、再編計画となると、それらと切り離して市立幼稚園に限って行く未を見通そうとされているように感じます。 女性労働の増加，それを支える長時間保育へのニーズの高まり，待機児童問題，幼児の自宅周辺での同世代とのかかわりの困難，こうした社会状況にあって，幼稚園のあり方そのもの（教育／保育時間，長期休園期間，給食提供等）が再検討されるべきではないのでしょうか。それが無いなら，再編計画というよりは，廃止計画に過ぎないことは目に見えていることでしょう。 しかし，市立幼稚園には，ハード面一つをとっても貴重な財産である余裕のある園舎と恵まれた園庭があります。先生方も勤続年数が長い方も多く，子どもの発達に見通しを持って子どもたちに接しておられます。教育職であり，保育士と比べて，子どもと離れての研修時間や教材準備の時間も一応保障されています。障害児の育ちの場にもなっています。何よりも地域と結びついた長い歴史があります。 必要なことは，「保育」「教育」を切り離して計画を立てるのではなく，両方を保障する営みと施設ではないでしょうか。市立幼稚園の充足率が低下してきているのは，市立幼稚園だからではなく，「教育」という建前のもと，提供する機能が時代のニーズや必要性に合わなくなってきたからではないでしょうか（親のニーズという点からだけではなく，子どもの育ちの環境の保障という客観的・社会的ニーズという点です）。その点，すでに，両者の統合を謳った認定こども園も20年の歴史があり，また公立園でも認定こども園が取り入れられ，幼保の実質的統合化は進んでいます。 諸外国の動向からみても，日本でもいずれは短時間教育／保育を利用する家庭は少数派になっていくことでしょう。一方，あえて幼稚園を希望する家庭も一定数は続くことでしょう。上に述べた社会動向と社会的必要性を前提にしつつも，当面は，長時間・短時間，その両方のニーズにもこたえながら，大津市の就学前施設全体の計画の中で，現行幼稚園の恵まれている点（上記）を生かしつつ今後の「保育」（educationandcare）のありかたを検討していただくようお願いいたします。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園

[illegible]

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
348	6	表 3 家庭類型別就学前施設利用希望	前述したことと併せて述べたいと思います。 幼稚園に通わせたい専業主夫主婦、フルタイム×パート(短)には、認定こども園の良さや活動について理解できる場を大津市が積極的に作り、子どもの発達保障・社会性の育ちに寄与できる施設であることや幼稚園同様に保護者支援にも繋がる点について専門的な知識を供与し、理解していただくようにするのは如何でしょうか？難しいですか？	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
349	12	運営費について	理解できました。ただ、何よりも大切なのは子どもの発達であると思います。統合することによって、子どもを受け入れる施設には、統合によって算出された資産？お金？は、全てでなくても良いので、統合された施設への施設改善への投資や保育者（幼稚園・保育所・こども園全てを保育者と表記します）の給与向上へと繋げていただきたいです。保育者個々人の給与の値上がりも勿論のことですが、近年、保育者不足が社会的問題になっていますが、ゆとりある保育関連の人材確保へと資金投入も大切な課題だと思います（保育者の研修なども人材不足だから無理という声が聞こえてくるかも知れませんが、条件が整って、保育や子どもの成長の面白さを伝えていくこと、と給与予算の向上によって保育者志望者は増えるのではないかと思います）。一方で、幼稚園が認定こども園へ移行する場合は、3歳未満児の発達に寄与できうるための、設備投資、保育者の乳児の専門的な保育への知的供与は必至であると考えます。そこにも予算をつけていただきたいと思います。	今後の施策の参考として承ります。 認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園 子育て支援全般
350	17	(2)「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」の策定	17ページには、『「大津市乳幼児教育・保育共通カリキュラム」は、幼稚園教育要領と保育所保育指針を基本として、就学前の子ども達が過ごす場所が異なっているにもかかわらず、子どもにとっての質の高い教育と保育を保障することを目的に、市立幼稚園・保育園の保育者を中心メンバーとした策定会議により、平成28年度に策定されました。この共通カリキュラムには、0歳児から小学校接続期までのカリキュラムが定められているほか、本市の乳幼児教育・保育の基本理念と、めざす子ども像が以下のように掲げられました。』とあります。が、テーマのところで何故「大津市乳幼児教育・保育共通カリキュラム」となっていないのでしょうか？幼稚園を対象とされたためでしょうか？しかし、本文の中に「0歳から」とあります。大津市の子育てを巡る現状から今後の課題として「乳児」についても意識していただければ良いように思います。	ご意見として承ります。	その他
351		全体	再度の再編計画に反対です。 大津市は子育て世代から見放されると思います。子育て世代には、選択肢として幼稚園も保育所も必要です。人数に関係なく、身近に、支所、小学校、幼稚園、保育所があることが大津市の1番のサービス、基本です。子育て世代が増えないと街は衰退します。減るから減らす縮み思考ではなく、住民を増やす思考で行政をお願いしたい。 2026年は、志賀町・大津市合併20周年になります。しかし残念ながら合併のメリットを活かせず、支所や小学校、幼稚園の縮小の計画ばかり、大津市は提案しています。 今回もかという思いです。 志賀町では、大津市になって幼稚園再編で既に2園になり、また再編で、ついにはひとつも残らない、このままでは志賀町から行政サービスがなくなると心配しています。	本検討の内容は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものです。 再編等の検討にあたっては、園児数の推移だけでなく施設の状況や園の特徴、地域の状況等総合的に判断して検討しています。	適正規模
352		その他	全57ページの資料を読んで、4月28日までに意見を出すは、期間が短すぎます。 5年前から検討が続いているようですが、結果を急ぎすぎです。 60ヶ月検討して、市民には1ヶ月では周知期間が短く、9月か6月に延長すべきです。	ご意見として承ります。	その他
353			大津幼稚園統廃合について反対します。 平野幼稚園と統廃合するとの案を見ました。 遠くなるなというのが一番気になりました。 園バスを導入してほしい！と思いましたが、ニュースでも度々報道されていましたが園バスでの置き置き事故が不安になります。 しっかりと対応していただけたら心配ないことだと分かっていますが、こういった問題も出てくると言うことを頭に置いていただきたいです。 だからといって徒歩や自転車ですぐ送迎はしんどいし厳しいです。 大津幼稚園だと家からも近く徒歩で送り届けることができるのですごく安心できます。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
354			また待機児童の問題もあるので、こども園にするまたは幼児園にするのはどうでしょうか。 幼児園だと3歳児から対象年齢で預かりの時間が伸びるというかたちなので今の大津幼稚園の規模でも行えるかと思います。 そして待機児童問題も緩和してどちらにたいしてもプラスになるのではないかと考えられます。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
355	14	ニーズ調査	・夫婦ともに働きたい、という家庭が増えているので、実際は「保育時間が希望通りであること」の項目が、もっと重視されているように思う。預かってもらえる時間が短いと、フルタイムで働くことは不可能なので、現状では、保育園を選ばざるを得ない。幼稚園よりも保育園の方に利用希望が多いのは、そういうことだと思う。 ・長男入園時、保育園も考え、市に入園条件など聞いた際「フルタイムで働いていても入園できるかわかりません！」と一蹴され、幼稚園で探した。(働くつもりでした。)待機児童問題が改善されてほしい。 ・幼稚園に子どもを通わせたかったので、そのためには仕事を辞めなければならなかった。(どうしても朝間に合わないの。) ・幼稚園は教育、保育園は保育をするところといった違いがあることや、その他園の特色など理解したうえで、園を選択できるようになるのが理想では。	今後の施策の参考とさせていただきます。	待機児童
356	27-30	幼稚園教育の在り方について	・幼稚園では、子どもたちはすぐく個々に寄り添ってもらい、過ごしています。幼稚園のおかげで、「できた！」が日々増えるのがわかるので、先生方を含め、とても良い環境だと思っている。本当にありがたい。 ・「架け橋期」の重要性について書かれているが、晴嵐幼稚園5歳児も、年に何度も小学校との交流をしている。また、小学校区にある保育園との交流もあり、小学校へ向けて子どもたちが安心できるよう、連携がはかられていると感じている。中学校区は栗津と北大路、小学校区が膳所、晴嵐、富士見と違っている、複雑な地域なので、統合になった場合でも本当に今までの様に幼稚園と小学校・校区内の保育園との密な交流が続けられるのか不安。 ・小学校につながる地域で通える園の方が、子どもにとっても安心かと思う。 ・集団生活する中での子どもの困り感や親の不安などにも、幼稚園の先生方は丁寧に寄り添ってくださっている。子どもが少しでも気持ちよく過ごせるように、集団生活に入っていけるように、先生方と親とが同じ方向を向いて、子どもの成長に関わっていると日々感じている。園の先生方には、大変感謝している。 ・登園時、降園時、毎日担任の先生をはじめ、園長先生方と顔を合わせることができ、子どもの毎日の様子を直接聞くことができる。先生方との距離(心の距離も)が近く、安心して子どもを預けられることも、幼稚園の魅力である。 ・子どもにとって必要な配慮や、適切な支援につなげてくださるので、親としても安心。	架け橋プログラムは、市立幼稚園が中心となって取り組んでおります。 今後も、子ども達が、小学校での学びや新しい環境に適応する力を養い、前向きな気持ちで次のステージへ進む準備を整えることができるよう、市立幼稚園が中心的役割を担いながら、地域の就学前施設と小学校との連携を図り、架け橋期の教育の推進に取り組んでいくことを求めています。	幼小連携
357	49-53	検討経過とその概要について	・晴嵐幼稚園は、広い園庭や遊具があり、子どもたちがのびのびと元気で楽しくに過ごすことのできる場所であると、子どもを通してとても感じる。絶対に残してほしい。 ・万が一統合となった場合、子どもたちにとって素晴らしい環境である幼稚園は、その後どのように使われるようになるのかとても気になる。(子どものために使われますよね？) ・現在、地域の方との交流も多々あるが、園が変わってもそういった交流も続けていくことは可能なのか？ ・小学生になっても、幼稚園の送り迎えの保護者から声をかけてもらえたり、挨拶したり卒園後いろんな人に見守ってもらえる。幼稚園が小学校区にある魅力。 ・もともと、近隣に未就園児の親が交流できるような場所が少ないが、近くの幼稚園がなくなってしまうと、育児の悩みなどを抱えた親が孤立することにつながる心配。 ・ただ園を減らして集めるだけで子どもが増える、というほど単純なことではないと思う。何でもかんでも母数を減らせれば良いというものでもない。その場しのぎの対策に思える。 ・園では、おにぎり弁当の日ができた、雨の日の車登園を考えてくださったり、保護者の負担が少しでも減るようと工夫してくださっている。降園直後の園庭の開放も、保護者同士のつながり、交流の場ともなっている。	園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかななどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 また、跡地利用についてはご意見として承ります。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	園の特徴 地域との関わり

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
358	49-53	検討経過とその概要について	・もしも統合され、学区外(膳所幼稚園)まで通うとなれば、送迎や朝の時間の負担が増えて困る。 ・運転免許もなく、3人以上の未就学児がいて、幼稚園が遠方の家庭は、どうやって通園するのか。徒歩圏内の園がなくなれば、自宅保育をするしかない。園バス整理や近隣保育園での受け入れなどの代替措置は必須。 ・幼稚園に通うような小さな子どものへの負担を考えると、家から園は近くに越したことはない。 ・夫婦共働きなどにより、園児数減少は理解できるが、園が小学校学区外になると通園手段や時間等も変わり、園児数減少を加速させるように思う。実際、学区外にしか幼稚園がなくなるとすれば、近くの保育園を探すと思うという声もある。 ・統合とする前に、市としては幼稚園の園児数が増えるよう何か対策をしてくださっているのか？	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。なお、転園を希望される家庭への対応についてのご意見については、市担当所属とも共有します。 既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	通園支援 預かり保育の拡大
359		358の続き	・働く保護者も増えているため、給食が導入されると負担が減ると思う。また、車送迎が可能となれば、仕事に行く人にとっても送迎がスムーズになったり、少し離れたところからでも登園しやすくなったりするのではと感じる。 ・就労に関わらず、預かり保育が無償化になると助かる。 ・統合すれば一時的には、同年代の子どもとの集団生活を営む場が大切にされる幼稚園教育になるのかもしれないが、持続的に園児数を保ち、幼稚園教育の在り方について(27ページ～)にあるような、その他の項目も実現し続けることはできるのか。 ・小学校教育にもつながる、今まで積み重ね培われてきた幼稚園教育をもっと大切に考えてほしい。教育保育一本化するつもりで考えておられるのなら、ぜひ幼稚園のような教育環境を残す方法を考えていただきたい。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。 預かり保育の無償化については、ご意見として承ります。	給食 預かり保育の拡大
360	47	市立幼稚園の特徴 晴嵐	・この表は、いつどのように調査されたものなのか。 ・四季を感じる樹木→ウメ、イチョウ、ビワ、モミジもある。 ・砂場も2か所あり。	令和7年度から実施している大津市立幼稚園再編等検討委員会における検討において、市立幼稚園の現場からの情報を集約したものです。	園の特徴
361		逢坂幼稚園PTAとしましては、今回の再編案には賛成できません。逢坂幼稚園が無くなることには反対です。	①少人数保育の良さ ・3学年合同保育をしていて、他の学年からも沢山刺激を受けています。 ・先生が子ども一人一人に丁寧に関わってくれる少人数の良さを感じています。 ・園児数が少なくても、近隣の園とよく交流会をして同学年の普段より大きい集団を経験できています。 ・園児数が少ないからこそ子供たちが主体性をもって行事を進めることができています。 ・子どもの思いつきを実現できるフットワークの軽さは少人数の良さのひとつです。 ・小規模園では、教員が園児一人ひとりの特性や家庭環境を深く把握しており、非常に手厚い教育が行われています。 ・小規模園は、大規模な集団が苦手な子や発達に特性のある子にとって必要な場所です。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。	適正規模
362			②逢坂幼稚園の恵まれた環境 ・広い園庭や畑、裏山があり、子どもたちは自然と触れ合いのびのびと遊んでいます。 ・送り迎えの面で、未就園児連れや悪天候の時には駐車場があるので助かっています。 ・駅の周辺で小さい子どもが安全に遊べる公園少ないため、降園後に広い園庭で遊べるのは助かっています。 ・大津駅が近く、電車通勤でも通勤と送迎を合わせられるため夫婦で育児協力しやすいです。	園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。	園の特徴
363			③幼保連携の効果や小学校の隣にあることの利便性 ・小学生との交流が定期的にあり、小学校へもよく行っているため、入学前から小学校に慣れています。 ・書道や科学などいろいろな分野で先生とも交流をもっています。 ・行事にも小学校の校長先生や教頭先生が見に来てくれるため、子どもも保護者も入学に向けて安心感があります。 ・幼稚園の隣が学校のため、小学校の参観へも登園後すぐに行けるのでとても助かっています。 ・通園がそのまま通学の練習になり、入学後の事故防止や防犯になります。	架け橋プログラムは、市立幼稚園が中心となって取り組んでおります。 今後も、子ども達が、小学校での学びや新しい環境に適応する力を養い、前向きな気持ちで次のステージへ進む準備を整えることができるよう、市立幼稚園が中心的役割を担いながら、地域の就学前施設と小学校との連携を図り、架け橋期の教育の推進に取り組んでいくことを求めています。	幼小連携
364			④地域との交流 ・地域の方やお店も逢坂幼稚園の子どもたちに愛着を持って接してくれています。 ・子どもたちもいろいろな施設やお店に何うことがあり、自分たちの住む町とのつながりを感じています。 ・幼稚園が交流しているお店は幼稚園の近くで自宅からも徒歩で行けるので、子どもと行くことも親子の楽しみになっています。 ・小学校区と連動した幼稚園は、地域住民とのつながりを育む場でもあります。地域のつながりがあることで育児の孤立感を減らせます。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
365			⑤再編案を受けて ・お弁当や送り迎えの負担を考えて私立幼稚園を選ぶ家庭が増えているように感じています。再編合併では通園の負担が増えるだけなので、合併先の幼稚園でも園児数を確保することは難しくなっていくのではないかと思います。 ・近くの園に徒歩か自転車で通えることは、多子世帯や車を所有しない世帯にとって特に重要です。 ・合併先の案として、逢坂幼稚園が大津幼稚園ではなく平野幼稚園へということになるのであれば、遠方にもなるため違和感があります。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
366			・保護者ニーズの上位にある中で、給食の提供と保育時間の延長をすれば園児数のさらなる増加につながると考えます。給食は栄養面を考えても魅力があります。 ・今回のように再編合併という可能性を示唆されると、慣れた頃に通園先も環境も変わる可能性があるため、今未就園児をもつ保護者が市立幼稚園を選ぶことが難しくなってしまうと思います。 ・今後の再編基準として園児数の減少が主な焦点とされています。今回パブリックコメントを募集する前に、一見決定事項かと思われてしまうような内容の記事が新聞に掲載され、不安に思われた方が多くいます。そのことが、少なからず来年度以降の園児数の減少に影響してしまうのではないかと懸念しています。市として誤解を解くような分かりやすい対策を検討してもらいたいです。 ・現在市立幼稚園を選択し通わせている保護者の視点や、小人数の保育園を選択した家庭のニーズも反映されるようにしてもらいたいです。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。 保育時間の延長については、今後の施策の参考とさせていただきます。 「決定事項かと思われてしまうような内容の記事が新聞に掲載」されたことについては、市のホームページで訂正しております。	給食 預かり保育の拡大
367			・今回の資料からは跡地の計画がないため、跡地をどのように活用し、地域の保育・教育機能を維持していくかが示されていません。再編計画は跡地の活用方針と併せて提示して、保護者だけでなく地域の方々も将来像を描けるよう明確にすることが必要だと考えます。	再編後の施設の活用については、個別に検討します。	その他
368		全体	今回の説明会に参加させていただきました。その後資料も見ました。園児数の減少については否めません。一定以上の人数で社会性が育つことは確かなのですが、今回のただその同学年の子どもの数だけを基準に再編し、統合されようとしていることには納得できません。この時期の子どもの成長には、同じ学年とは言えど大きな個人差があり、また、上下の学年とのふれあいでも伸びていくものも多くあるので、少人数の園でも、先生方の専門性あふれる指導により、質の高い教育を受けることができています。よって、単に人数だけで決定されることには反対です。 私が反対する理由は、地域の実情をふまえた決定になっていないからです。私の住む大石学区にある大石幼稚園は、P47にあるように「小学校区唯一の就学前施設」です。自然に恵まれ、地域と一体になって、子どもたちを育てていただける環境のよい所です。小学校との交流もさかんで、架け橋期の教育も充実しています。そのおかげで子どもたちは、この地を愛し、誇れるようになっていきます。それを他の地区へ通うようにした場合、同じように育つのでしょうか。	園の規模については、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、33ページの適正規模に記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。 また、異年齢との交流による教育的効果はご意見のとおりですが、29ページに記載のとおり、「同年齢の集団」と「異年齢の集団」とでは得られるものが異なる点を考慮した教育を展開することを求めています。	適正規模
369		全体	広すぎる校区のため、徒歩で通うことができない場合もありますが、P14～15にあるように「自宅の近くにある」というのは大切なことです。それぞれに家庭の事情があり、誰もが小さな子を連れて離れた所へ通うことができるわけではありません。その点もカバーできなければ、子育て支援とは言えません。この地に就学前の子どもの通える施設を残してください。今回、幼稚園児数の人数だけで検討されていますが、この大石でも、保育所がないから他の地域の施設を選ばれている方もいます。ならば、こども園にすることも検討していただきたいです。幼稚園教諭と保育士を一本化しようとしている大津市で今、何故幼稚園だけで再編することを考えているのでしょうか。施設の一本化も考えに入れていただきたいものです。そうして、地域の子どもは地域で育てる、より良い教育、保育環境を大津市の全ての子ども達に提供していただきたいと思います。	今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	通園支援 認定こども園
370		369の続き	今回、この意見書を書くためにR8.1.15の第6回の検討委員会の議事録も見ました。大石のことを検討されているP11～13で激しい憤りを感じました。地域の実態をご存知ない方が、勝手に意見を言って決められていくことに、市のありかたそのものにまで不信感を覚えました。P12で委員の方が、「大石という土地柄、そこに住んでいる方は色々なことは覚悟されていると思う。それを念頭に住んでおられるので、比較的反対とかが逆にそんなにないのかなと思う。」と言われたのは、どういう意味なのでしょう。大石なら不便でもいいと、大津市から切り離された気持ちになりました。私たちも大津市民です。税金も納めています。地域の差なく、平等に行政サービスが受けられることを求めます。 説明会では、今後案がまとまれば、各地域での説明会を、と言われたように思うのですが、それでは遅いです。まず、それぞれの地域の実態を知り、意見を聞き、その上で案を出して説明するという手順が必要だと思います。決定するのは、その後のことでしょう。	今回の検討は、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適の観点で行っているものです。	進め方

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
371	19	令和6年4月比叡平こども園開設幼保連携型認定こども園の設立	私は大石地区で主任児童委員をしています。説明会に参加して、これはもう決定事項であって、周知する為の説明会だったのか…と、感じました。そうは思いたくないので意見させていただきます。 大石幼稚園を存続、或いは、大石にも幼保連携型認定こども園を開設してほしい。 大石には保育園がなく、幼稚園も1施設しかありません。よって、働きたい親は離れたところにある保育園に預けに行かざるを得ません。 幼保連携型認定こども園が開設されれば、遠くの保育園に預けに行っていたご家庭も利用しやすい地元の施設に預けることができます。 もし、大石に幼稚園が無くなれば、子育てに不安を持つ家庭が増え、これから大石に住みたいと希望する人たちも減り、過疎化に拍車をかける事に繋がるでしょう。	当市立幼稚園再編案は検討段階のものであり、決定しているものではありません。 認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
372	19	令和6年4月比叡平こども園開設幼保連携型認定こども園の設立	大石は、「曾束」「富川」「小田原」「龍門」など、今でも幼稚園まで通園するのに時間がかかっています。仮に、さらに遠方までの送迎が必要となると、日に2回の往復、今以上に保護者の負担が増えてしまいます。 送迎にかかる時間的負担は言うまでもなく、車で行くとなるとガソリン代・バス代など経済的負担が増えます。そもそも車の免許を持っていない保護者も現にいます。 大石には、3人以上の子どもを育てている家庭も多く(これはとても素晴らしい事です。)その家庭には小学生のいることが多々あります。遠方までの送迎時間が増えれば、低学年の下校時間に間に合わないなど、親にとっても、子どもにとっても、不安なことが増えてしまいます。決して、子どもたちや保護者に寄り添っているとは言えません。 幼稚園、小学校が近くにあり、常に連携・交流できていてこそ安心できると思います。 大石幼稚園に通園していた人・している子どもたち・そのご家庭の方々は、大石が自然豊かで、地域との連携もしっかりあり、環境の良さを生かした質の良い教育がなされていることをよく知っています。	今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
373		372の続き	今の季節には、コシアカツバメが巣を作り、子育てを始めます。オタマジャクシ・かえる・かたつむり・メダカ・てんとう虫・鈴虫にバッタ・・自然の生き物には事欠きません。 5月頃には田植え(地域の方が田んぼを提供して下さっています。)をし、その生育を見守り、秋には収穫をします。収穫したコメは、地域の方々が機械を準備してポン菓子作りの実演・試食・配布をして下さり、恒例になりつつあります。 その他、サツマイモの苗付け・芋ほり、焼いも大会・・・大石ならではの生きた教育がたくさんできます。 節分には、幼稚園に隣接する介護老人福祉施設のベランダから何人もの鬼さんが姿を現し園児たちを喜ばせて下さっています。教育的にも、こうしたお年寄りとの交流はとても大切です。 何と言っても、目と鼻の先には大石淀公園があり、四季を通して草花を楽しめ、子どもたちの散歩・遊びには最高の場所です。 程よい距離に駐車場(何十台も駐車可能)もあり(10台程度なら園の斜め向かいにもあります。但し、地域と要相談)、大石小学校はもとより、病院(南大津クリニック)・交番・郵便局・コミュニティーセンター・バス停など徒歩2～3分にあります。	地域との繋がりとという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
374		373の続き	園児の人数で、バツサリ切り捨てるのではなく、しっかりと周りの環境を見に来ていただきたいと思います。	再編等の検討にあたっては、園児数の推移だけでなく施設の状況や園の特徴、地域の状況等総合的に判断して検討しています。	再編基準
375		374の続き	今後、新名神高速道路の「龍門サービスエリア」が新名神大津スマートインターチェンジ(仮称)に併設されます。これは予想ではありますが、かなり大規模なサービスエリアだと聞いているので、従業員の募集も大規模に行われると思います。大石地区からだけでなく、遠方からの通勤もあると思います。となれば、通勤途中に子どもを預けられる園があれば安心して働くことが出来ます。さらには、これは期待でもあります。人口増加に繋がるのではないかと考えています。仮に今、園が無くなってしまうと今後、新たに園ができるとは考え難いです。 決して、1月の議事録で述べておられるような「大石という土地柄、そこに住んでいる方はいろいろ覚悟されていると思う。・・・早く再編をして、子どもがある程度人数の多いところに行って、豊かに育っていける方がずっといいのかなと思う。」とは、なりません。何をもちて豊かな育ちと言うのでしょうか。ちゃんと、幼稚園・小学校はあると思って住んでいます。 いろいろ決まっていく前に、再編についてもっと当該地域に来て説明してほしいと思います。関心がなかったり、そもそも、「幼稚園が無くなるなんてあり得ない。」と思っているご家庭もあると思います。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものです。	適正規模
376	33	(1)適正規模について	適正とは思えません。 幼児が1クラス20人、25人は多いと思います。1クラス10～15人程度であれば、手厚い保育・教育と言えます。ですが、それ以上だと、この時点で取り残される子どもが出てきそうに思います。その状態で小学校に進んでしまうと小学校も厳しいと思います。	適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。	適正規模

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
377			1. 市立幼稚園は、大津市の就学前教育・保育の理念を具体化する公立の現場である 本計画案では、市立幼稚園がこれまで、質の高い幼稚園教育、小学校との円滑な接続、地域の特色を生かした教育、地域の子育て支援、特別な配慮を必要とする子どもを含む教育機会の保障など、重要な役割を果たしてきたことが示されています。これは、市立幼稚園が単なる教育施設ではなく、大津市の就学前教育・保育の理念を地域の中で具体化する公立の現場であることを意味します。 また、大津市は「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」を策定し、乳幼児期から学齢期までの学びの連続性を重視した幼児教育・保育の推進を図ってきました。市立幼稚園は、その理念を現場で実践し、地域の子どもたちの育ちを支える役割を担ってきたものと考えます。	1点目について、ご意見として承ります。	その他
378			2. 公立幼稚園は、特別な配慮を必要とする子どもを含め、平等な教育機会を保障する「最後の砦」である 市立幼稚園、保育所、認定こども園などの公立就学前施設は、単に子どもが通う教育・保育施設であるだけではありません。地域において、子どもの発達、健康、生活、家庭状況の変化を早期に把握し、必要に応じて関係機関につなぐ公的な支援拠点としての役割を担っています。とりわけ、市立幼稚園がこれまで果たしてきた役割のうち、「地域の子育て支援の推進」および「平等に教育の機会を提供し、誰もが学び成長できる環境の保障」は、地域の公的施設であるからこそ担ってきた重要な役割です。計画案においても、市立幼稚園は、未就園児親子通園事業や一時預かり保育等を通じて地域の子育て家庭を支援してきたこと、また、年度途中での転入園児、特別な配慮を必要とする子ども、保育の必要な子ども、児童養護施設で生活する子どもに対して、平等に教育の機会を提供してきたことが示されています。民間園も地域の教育・保育を支える重要な存在ですが、入園の可否や受け入れ体制には各施設の状況が反映されます。また、保育所については、公立・民間を問わず、定員や保育士配置の状況によって、子どもが希望しても入所できない場合があります。そのような中で、保育所に入れない子ども、特別な配慮を必要とする子ども、家庭的な支援を手厚く必要とする子どもを、地域の公立幼稚園が受け止めてきた役割は大きいものです。つまり、公立幼稚園は、単に幼稚園教育を提供する施設にとどまらず、他の施設につながりにくい子どもや家庭を受け止め、平等な教育機会を保障する「最後の砦」として機能してきたと考えます。したがって、公立園の配置を検討する際には、単に園児数や施設効率だけでなく、その地域において、公的責任に基づく教育・保育、発達支援、子育て支援、相談機能、そして特別な配慮を必要とする子どもの確実な受け皿がどのように保障されるのかを、具体的に検討する必要があります。 とくに、公立幼稚園と公立保育所を合わせて、特別な配慮を必要とする子どもを相当数受け止めている現状を踏まえるならば、再編によってその受け皿が地域的に偏ったり、一部の園に集中したりすることがないよう、公的に保障する必要があります。市立保育所が設置されていない地域の市立幼稚園を統廃合することは、単に幼稚園が一つなくなるという問題にとどまりません。その地域から、特別な配慮を必要とする子どもや家庭的支援を必要とする子どもが、確実に相談し、受け入れられる公的な就学前支援の拠点が失われることを意味しかねません。また、自家用車を持たない家庭にとって、通園距離の拡大は深刻な問題です。送迎バス等の通園支援が確実に保障される見通しがなく、歩いて通える範囲に公立園がなくなることは、特別な配慮を必要とする子どもとその保護者にとって、選択肢を狭めるだけでなく、就学前教育・保育へのアクセスそのものを困難にするおそれがあります。	2点目について、特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。 また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	特別な配慮 通園支援

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
379			3. 「1中学校区1幼稚園」への再編では、公立園へのアクセスと選択可能性が損なわれるおそれがある 今回の再編案では、「1小学校区1幼稚園」から「1中学校区1幼稚園」へと考え方を転換する方向性が示されています。少子化や保育ニーズの変化を踏まえ、一定の再編検討が必要であることは理解します。しかし、再編の判断にあたっては、園児数や施設効率だけでなく、その地域に公立の就学前教育・保育施設が存在するかどうかを重要な判断要素とすべきです。 また、仮に中学校区を単位として地域を広げて考えるのであれば、その中学校区内には、公立の幼稚園、保育所、認定こども園等が複数配置されることが望ましいと考えます。なぜなら、利用者が「公立園を選ぶならそこしかない」という状況に置かれるのではなく、「ここか、あそこか」と、家庭の状況、子どもの特性、通園距離、保護者の就労状況等に応じて選択できる余地を残すことが重要だからです。 とりわけ、特別な配慮を必要とする子どもについては、再編により一つの公立園に受け入れが集中しないよう配慮する必要があります。公立園が中学校区内に一つしかない場合、支援を必要とする子どもと家庭がその園に集中する可能性があり、園の人的・物的体制に過度な負担が生じるだけでなく、子ども一人ひとりへの丁寧な支援にも影響を及ぼしかねません。 また、通園距離が長くなることは、発達や健康に課題のある子どもや、その保護者にとって大きな負担となります。したがって、中学校区を単位として再編を検討する場合であっても、幼稚園、保育所、認定こども園等を含む複数の公立施設を配置し、子どもの特性や家庭の状況に応じて、公立園を選択できる余地を確保することが必要です。 公立園は、単に施設数として存在すればよいものではありません。地域の子どもと家庭にとって、実際に通うことができ、相談することができ、必要に応じて選び取ることができる身近な公的資源である必要があります。したがって、「1中学校区1幼稚園」という考え方を機械的に適用するのではなく、中学校区内における公立幼稚園・公立保育所・公立認定こども園の配置状況を総合的に見たうえで、公立園へのアクセスと選択可能性が確保されるよう再検討すべきです。 特に、市立保育所が設置されていない地域において市立幼稚園が統廃合の対象となる場合、その地域から公立の就学前教育・保育の拠点が失われる可能性があります。これは、地域の子育て支援、発達や健康に課題のある子どもの早期把握と支援、保護者の孤立防止、小学校への円滑な接続という点から、大きな影響を及ぼします。 4. 園児数を中心とする再編基準については、教育・保育の質と地域の役割を踏まえた柔軟な運用が必要である 本計画案では、再編基準について、基準とする年齢を「3歳児」、基準とする人数を「15人」とし、3年連続して15人を下回る場合には、原則として再編等の検討対象とすることが示されています。また、10人を下回るかどうかによって第1段階・第2段階の検討に区分し、3年連続して5人を下回った場合には、翌年度4月1日に再編等を行うこととされています。しかしながら、再編の判断が依然として園児数を中心に組み立てられている点については、慎重な検討が必要です。 近年のOECDの幼児教育・保育に関する議論では、教育・保育の質は、単に一定以上の集団規模を確保することによって保障されるものではなく、職員配置、子どもと職員の比率、集団規模、職員資格などの構造的条件と、子どもと保育者の相互作用、子ども一人ひとりへの応答的な関わり、遊びや生活を通した学びの質などのプロセスの質をあわせて捉える必要があるとされています。OECDのTALISStartingStrong2024でも、子どもと大人の比率、集団規模、職員資格などは、幼児教育・保育の質を把握するうえで重要な構造的要素として扱われています。 したがって、幼児教育・保育の質は、単に集団規模の大小だけで判断できるものではありません。子ども一人ひとりへの応答的な関わり、保育者との安定した関係、少人数だからこそ可能となる丁寧な支援、家庭や地域との近さ、特別な配慮を必要とする子どもを含む包摂的な環境なども、重要な質の要素です。 再編基準を運用するにあたっては、園児数だけを主要な判断材料とするのではなく、当該地域における公立園の配置状況、通園距離、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ状況、保護者支援、発達相談・子育て相談の機能、小学校との接続、地域における公的支援拠点としての役割を総合的に評価する必要があります。 とくに、市立保育所が設置されていない地域では、市立幼稚園が地域における唯一の公立就学前施設として機能している場合があります。そのような地域において、園児数のみを中心に再編を判断することは、公立の就学前教育・保育および子育て支援の拠点を地域から失わせる結果になりかねません。 以上のことから、現在の再編基準を機械的に適用するのではなく、OECD等の国際的な幼児教育・保育の質に関する議論も踏まえ、教育・保育の質、地域の実情、子どもと家庭への支援機能を総合的に評価した柔軟な運用と再検討を求めます。	3点目について、再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 また、特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮 通園支援 再編基準
380				4点目について、再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	再編基準
381			5. 市の計画案自身も、園児数やコストだけでは評価できないことを認めている 計画案自身も、市立幼稚園について「特別な配慮を必要とする子どもを多く受け入れていることから、コスト面のみで評価することはできない」としています。また、再編等の方向性検討においても、園児数だけでなく、園舎・園庭などの物理的状況に加えて、教育環境や子どもの育ちの環境という観点から検討が必要であるとされています。 この点からも、市立幼稚園の再編は、単なる園児数の減少や施設運営の効率化の問題としてではなく、地域における公的就学前支援の保障、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ、保護者支援、子どもの育ちの環境という観点から総合的に検討されるべきです。	5点目について、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであり、施設運営の効率化の問題として検討したものではありません。また、再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	特別な配慮 再編基準

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
382			6. 市立保育所がない地域では、幼稚園の存続または公立認定こども園化等を再検討すべきである 以上の点を踏まえ、南郷・田上など、市立保育所が設置されていない地域については、単純に近隣幼稚園との統廃合を進めるのではなく、地域に公立園を存続させる方向で再検討することを求めます。 具体的には、市立幼稚園の存続、市立保育所の設置、または幼稚園機能と保育所機能の双方を備えた公立認定こども園化などを含めて、地域の実情に応じた検討を行うべきです。 計画案では、公立認定こども園について、令和6年4月に比叡平こども園が開設されたことが示されており、公立園の再編の選択肢として認定こども園化を検討してきた経過も確認できます。この経験を踏まえるならば、市立保育所が存在しない地域こそ、幼稚園の単純な統廃合ではなく、公立認定こども園化を含む地域実情に応じた再検討が必要です。	6点目について、認定こども園化を始めとしたご意見として承ります。	認定こども園
383			7. 行政は、最も幼い子どもの最善の利益を中心に据えるべきである 行政は、財政効率や施設規模の適正化だけでなく、最も弱い立場に置かれやすい人々、とりわけ最も幼い子どもたちの利益を最優先に考える責任があります。就学前の子どもは、自ら声を上げることができません。だからこそ、行政計画においては、子どもの育ちの連続性、地域で育つ権利、支援を必要とする子どもと家庭への公的責任を中心に据える必要があります。とくに、発達面・健康面において個別の支援や配慮を必要とする子ども、家庭の状況により支援を必要とする子どもにとって、地域に身近な公立園が存在することは、単なる利便性ではなく、育ちと生活を支える重要な条件です。再編にあたっては、そうした子どもたちと家庭が不利益を受けないよう、慎重な検討が求められます。	7点目について、33ページの適正規模に記載のとおり、子ども達の育ちの環境として「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つためには、一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものであり、財政効率を目的としたものではありません。	再編基準 予算削減・効率化
384			8. 意見のまとめ 以上の理由から、今回の再編計画においては、園児数を中心とする再編基準を機械的に適用するのではなく、教育・保育の質、地域における公立園の役割、特別な配慮を必要とする子どもの受け入れ、通園距離、保護者支援、子育て支援機能などを総合的に踏まえた柔軟な運用と再検討を求めます。 あわせて、市立保育所がない地域において市立幼稚園を統廃合することにより、公立の就学前教育・保育の拠点が失われることのないよう、幼稚園の存続、市立保育所の設置、公立認定こども園化等を含めた再検討を強く求めます。さらに、中学校区を単位として再編を検討する場合であっても、特別な配慮を必要とする子どもが一つの公立園に集中することのないよう、また自家用車の有無や通園距離によって子どもと家庭が不利益を受けることのないよう、中学校区内に複数の公立施設、すなわち公立幼稚園、公立保育所、公立認定こども園等が配置されることを求めます。公立幼稚園が「平等な教育機会を提供する最後の砦」として果たしてきた役割が、再編後も地域的な偏りなく保障されるよう、具体的な方策を示すことを求めます。	8点目について、再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 また、特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討する必要があると考えます。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	通園支援 再編基準 特別な配慮 子育て支援全般
385	14	図11 ニーズ調査 ①自宅の近くにある ②園長・スタッフの対応や印象がよい ②給食を提供している ③教育・保育の内容がよい	再編についての説明会に参加して、公立幼稚園の果たす役割とは何かを強く意識しました。 少子化の進行、母親の就労状況の変化により、園児数が減り現状の幼稚園を保護者が選択する数が減っている現在、幼稚園教育を推進していくには、適正な規模が必要であることは理解できました。しかし、継続できる方法が再編ありきでは今後は先細りになるばかりではないかと危惧いたします。 幼稚園教育要領にのっとりた幼児にふさわしい生活の展開から自ら学ぶ環境、子どもを支え伸ばす教師の指導力、その幼児教育の拠点をフェードアウトしていくとしてもやむをえないとまで読み取れてしまいました。その理由は、アンケート調査で示されている事柄からです。 ・「自宅の近くにある」は、平成26年度より減ったとはいえ80％近くを保持している。身近な地域にある方が望ましいと考えられている。 ・「給食を提供している」は、60％と、平成26年度より10％増加している。要望が今後も増える予想がたつ。 再編をすすめていくと、再編された園の周りの子どもたちばかりになり、ますます人数が減る可能性がある。通園バスの運用がなければ、公立幼稚園を選びたくとも選べない。給食を一部分でも導入する事で就園率があがる事が期待できる。保護者のニーズは高いので、公立幼稚園の選択肢を確保するために必要ではないかと考えます。	ご意見として承ります。	給食 通園支援
386	12	図10 市立幼稚園はI園あたり約10人を受け入れており、民間園の2倍以上となっている。	説明会では、市立保育園では人材不足のため受け入れられないため受け皿になっているとのこと。幼稚園では、教育施設として支援体制が整っているからこそといえる。どんな子どもも受け入れるインクルーシブ教育が公立幼稚園の良さである。再編をすすめていくと、家の近くを希望する保護者が多いが、近隣園での受け入れ拒否にあたり、また、通園時間が長くなることでのストレス(決まった時間にバスに乗る等)が考えられる。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
387			◎大津市における未就園児の教育のビジョン 保護者の就労がすすんでいる現状はありながら、幼稚園は幼稚園教育内容の継承、地域の人々、環境の中で大津の子どもを育てる中心の塔であって欲しいと思います。「大津市幼児教育・保育共通カリキュラム」が策定してありますが、モデルや道標は公教育が担い、実践して検証していくものです。地域の子どもが地域で育つ保証として、幼稚園型、あるいは幼保連携型こども園の設置も視野に入れるべきだと考えます。 今回は、幼稚園を適正規模にすることで保育の質を確保する幼稚園教育にスポットがあたっていましたが、大津市が就学前教育をどのようにすべきであると思っているのか、特に人間の土台となる性格や望ましい行動習慣が形作られるといわれ、また、非認知能力が育つとその後の前向きに生きる態度、人との関わり方、困難を乗り越える力につながるといわれている大事な幼児期に、公教育の果たす役割、位置づけを大きく示すべきだと思います。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
388	47	表14市立幼稚園の特徴 大石 小学校区内唯一の就学前施設	学区に他の就学前施設がないので、保護者の就労のニーズ、就学前保育を保证するためにも、公立による子ども園がふさわしいと考える。 隣の学区とも離れすぎているので、拠点園までの通園時間が長くなりすぎるのではないか。 再編をすすめると、大石幼稚園が子育て支援を担っていたので、園がなくなると親子支援の場もなくなる。就学前の施設がなくなると、子育て世代から選ばれない地域となり、大石学区の街づくりにも影響を及ぼすと考えられる。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
389			預かり保育時間の延長で、「働いていても幼稚園」のスローガンを掲げておられていますが、浸透しているとはなかなかいえない現状です。母親の就労状況(p5,6ページ)では、フルタイムの方が40%で、認可保育所利用の割合が高いです。幼稚園は専業主婦・主夫だから保育時間が短い幼稚園を選んでいるとわかりますが、フルタイム、パートの預かり保育利用割合が低いのは、幼稚園の中でのそもそも働いている人の割合が低いからなのか、周知ができておらず対象者を確保できていないのかと思われます。 「預かり保育」という言葉から受ける印象も、「お願いしますね」「はい、お預かりしました」と、イベントの託児預かりのような軽さが感じられました。保育後の遊びや生活の充実を図り、広く周知していく事で、幼稚園教育も選択できるという認識が定着して欲しいと願います。	23ページに記載のとおり、令和7年度から開始した預かり保育の拡大についての周知が不足しているという意見はあります。 一方で、既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。	預かり保育の拡大
390	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	今回の再編について、3つの視点で反対します。 ①適正な集団規模の根拠について ②公共サービスの観点から ③住民感情の観点から ①適正な集団規模とは、何に基づいているのかが疑問。 適正という言葉の曖昧さ、その根拠の意味の不明確さです。小規模の集団生活をした場合、個々人の主体性や社会性が失われる根拠などないと考えます。それこそ、何十年に渡り、小集団と大集団で育った人間の統計的調査をしてきたのか、大変疑問であります。今まで、教育現場で常識的に考えられていた事が、多くが誤りであった事実があります。歴史的に見て、確実な実証実験(論理性ではなく、数十年の実証成果)がないと真実とは言えません。 仮にもし市が言われることが、そうであったとしても、教育を幼稚園という枠に何故、限定して考えるのか?幼稚園は市民社会の中の1つであります。嘗ては、子ども達は、町内組織の中で集団生活を学んできました。行政のあるべき姿は、幼稚園の統廃合ではなく、市民社会の中に、どうやって幼稚園を参加させていくかであると思います。 少なくとも、現在の大津幼稚園は、毎年我々が実施している七夕まつりに積極的にご協力を頂いており、又、昨年は、大津幼稚園の園児さん達の合唱を第四回大津百町まつりに参加も頂いております。小集団ならではの地域コミュニケーションが醸成されています。このことは、幼稚園の統廃合がされれば、地域イベント、地域交流の減少を意味します。従って、統廃合は、市が言う集団生活の社会性の育成に逆行することです。	1点目について、適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模については、適正規模を「1学級の園児数が4歳児であれば20人以上、5歳児であれば25人以上、各学年の学級数は2学級以上」としたこれまでの大津市における検討結果を採用したものです。 また、34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。しかし、幼稚園教育においては、33ページに記載のとおり、「多くの友達と影響を与え合い、切磋琢磨したり、様々な感情体験の機会が得られる」ような、子ども同士の関りを十分に持つために一定の集団規模が確保できることが望ましいと考え検討を行ったものです。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	適正規模 地域との関わり

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
391		390の続き	②公共サービスの観点から 今回の統廃合の根底には、市は言われていませんが、財政の問題があると考えています。数年前、市民センターの統廃合の問題もそうであったと思います。 根本的な視点として、行政サービス、教育に収支の観点を入れるべきではありません。税は何のために収めるのか？民間企業と行政との根本的違いを市は理解すべきです。小集団の教育に問題があると考えるのであれば、それを改善する為に、税を使うべきです。そこに収支の観点を入れてはいけません。市が財政上の観点から、教育への投資ができないのであれば、市の全てのお金の支出を洗い出し、精査すべきです。 私が嘗て調べたことで言うと、先ず、全ての補助金を精査することで、財源は生れる筈です。無駄な補助金をやめればそうと額の資金が生まれる筈です。また、議員、市長の給与の見直し、定員削減も実施すべきではないかと思います。市の中では解らない無駄は山ほどあります。それこそ、民間のコスト意識を入れるべきです。市が自ら痛みのある努力をしないで、安易に統廃合をすべきではないと思います。教育にお金を投入することは、大津の未来に投資する事であります。	2点目について、再編等案は、2ページに記載のとおり、質の高い教育・保育の提供を目指して検討を行っているもので、予算の削減案ではありません。 なお、財源に関しては、市の施策に対するご意見として承ります。	予算削減・効率化
392		391の続き	③住民感情の観点から 自分の故郷が無くなって悲しまない人はいません。自分の母校が無くなって喜ぶ人もいません。大津幼稚園は創園何年でしょう。恐らく、80年近くにはなるのではないのでしょうか？卒園者の中には、もうお亡くなりになっておられる方も多くおられるでしょうが、少なくとも、年20名の卒園者としても、70年間計算で1400人以上の人が声なき声で反対しているでしょう。大津幼稚園は、中央幼稚園ではなく、大津幼稚園であることの歴史的意味合いがあります。そこに、大津幼稚園の歴史的意味、これは大津の幼稚園の歴史でもあります。このことは、大津の教育の歴史的遺産としての意味合いを含みます。パブリックコメントには出てこない地域住民の声ない声を市は聞くべきです。行政からのアクションがない限り住民の真の声はわかりません。一度や2度の説明会で意見集約などできませんし、まして、パブリックコメントで市民の意見を聞いたとは言えません。中央学区、逢坂学区の子ども達が平野に行く。その距離は当然徒歩では行けません。スクールバスを使うつもりでしょうが、急用ができた時、早退したい時は保護者が向かえにいくのですか？車で行くのですか？車のない人はどうするのですか？おじいちゃん、おばあちゃんが送り迎えをしている家庭では、急な場合どうするのでしょうか？ スクールバスになると、行きかえりに地域の人たちにも会えなくなります。益々、地域住民と疎遠になり、地域で子どもを育てる意識が無くなり、地域力が低下していきます。良し悪しは別にして、地域には、地域の意識、風土があります。その風土を無視した形の行政は決してうまくいきません。中央から、逢坂ら、平野に行く!なぜ、平野に行くの?こんな感情を市は考えたことありますか？市民の環境、感覚をもっと見るべきでしょう。 声なき声を聞くには、市が地域に入り、住民と直接会話し、その回数を何10回も重ねないとできるものではないと思ってください。現状では、市民納得なしの統廃合です。	3点目について、20～21ページに記載のとおり、これまでから部分的に規模の適正化を行ってきたところですが、10ページに記載のとおり、近年、市立幼稚園の規模の縮小が急激に進んでいることを受けて、改めて全体最適の観点で検討を行ったものです。 また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	適正規模 通園支援
393	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	反対。曳山に乗ってほしい。子どもたちを曳山に乗せるボランティアをしています。	ご意見として承ります。	地域との関わり
394	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	反対です。地域とのコミュニケーションがなくなる。大津祭で曳山に登れる貴重な体験を大事にしてほしい。	ご意見として承ります。	地域との関わり
395	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	地域との繋がりが途切れ、大津まつりとのふれあい（歴史）もない。地域での子ども教育が必要です。	ご意見として承ります。	地域との関わり
396	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	地元で大津祭りのボランティアをしている者です。大津祭りで地元の園児の皆と関われるのを楽しみにしています。地元と子ども達の関わりをずっとなくさないでほしいです。	ご意見として承ります。	地域との関わり
397	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	子どもの成長に見合った施設が必要で、保・幼の合併は理に合わない。公の観点、発想は無理が有り。	ご意見として承ります。	認定こども園
398	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	反対します。	ご意見として承ります。	その他
399	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	私の知人は中央学区に住居をかまえば、大津駅にも近く、夫婦共働で大津幼稚園、中央小学校、環境もよく、と引っ越してきた若い夫婦の夢を壊さないで、願います。 2才児のママ、保育園に入れなかった今年、大津幼稚園で週 2 回位遊ばせてもらえ感謝しております。私は79年前大津幼稚園に楽しく過ごせました。	ご意見として承ります。	その他
400	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	反対致します。私の娘と息子が通園しておりました大津幼稚園は当時創立100周年を迎えて記念事業を皆様の御協力の基で取り行われました。今から40年程前のことで詳細は覚えておりませんがタイムカプセルを地中に埋め何年か後に掘り出し子供達の幼き頃の夢を再確認しました。子供達の大事な時期に大津幼稚園で優しく育て頂いた事感謝しております。現在創立139年に向かっているところですね。幾多の苦難を乗り越え現在に至る貴重な伝統を次の世代へと繋いでいきます様応援しております。	ご意見として承ります。	園の特徴

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
401	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	大津幼稚園で子供がお世話になりました。小人数できめ細やかにお世話いただきありがたかったです。だから、再編の意味が本当に今を生きる方達にとって、その人達の事を考えているとは思えないです。子供達は少人数だからこそ通える子供もいるはずです。隣接する小学校があり、交流があり、成長には大切な事です。小学校に通う時には親しみがあ、安心感がありとってもいい事だと思います。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。 一方で、本検討の内容は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであります。	適正規模 幼小連携
402	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	両親共働きが多い今時、朝の夕方の一分一秒を無駄にできない時間を、どうして遠くまで送り迎えをすればいいのですか？若い方達は一生懸命です。子育て、仕事、両立できるように考えていただきたいです。どうか、もう一度考えていただき、大津幼稚園をのこしてください。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
403	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	私は大津幼稚園の再編計画に反対します。（息子2人卒園しました）住み慣れた地域や馴染みの先生・友達からはなれることが、子どもの不安やストレスつながると思う。大津幼稚園は、隣接する中央小学校との交流があり、幼稚園を卒園して中央小に入学する時にも、普段から仲良くしてもらってるお兄ちゃんお姉ちゃんがいてストレスなく、入学できています。また、園が遠くなることで、子育ての環境が悪化、地域全体が子育て世代に選ばれない街になり、さらなる人口減少を招く可能性もあります。保育時間の延長など、これからもっと浸透していけば入園者も増えるはずで。	ご意見として承ります。 小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携 預かり保育の拡大
404	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	反対です。息子は結果的には大津幼稚園には入園しませんでした。が、もし、こども園であれば入園していたと思います。すずめクラブには毎週通っていましたし、先生との関係もできていた中で、入園にはとても悩みました。なぜ、別の園を選んだのかと言うと、就業する上での条件、毎日のお弁当といったことがネックになったからです。もし、この点がクリアされていれば、大津幼稚園は、次に進学する中央学校と隣接していること、小学校や近所との交流があることが魅力的でしたので選択していたと思います。地元の幼稚園として、再編ではなく、残す道はないのか考えていただきたいです。	ご意見として承ります。	認定こども園 給食
405	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	大津市が進めている再編について、子どもたちのためにより良い環境を整えていく必要があることは理解しております。その中で、大津幼稚園が再編の対象として検討されていると知り、保護者や地域住民が不安を感じています。大津幼稚園は、子どもたちが安心して過ごせる大切な場所で、地域とのつながりもあり長く親しまれています。再編については、一時的な人数だけで判断せず、今後の見通し（近辺のマンション増加など）や地域の事情を考えていただき慎重に進めていただければと願っております。小学校区をまたぐ統合は、子どもたち、保護者にとって大きな影響があると感じます。現場の声に耳を傾け慎重にご検討いただきますようお願い申し上げます。	人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	人口推計・園児数推計
406	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	「市立幼稚園の再編等について(案)」において、"保育ニーズの変化"について、アンケート調査などをもとに検討されていますが、少し表面的ではないかと違和感を覚えます。 当逢坂学区社協では、乳幼児支援事業として、未就園児の子育てママのネットワーク作り(孤立防止)等を目的とする子育てサロンを開催しており、毎年夏前後からの話題として、保育園、幼稚園等の選択が話題となり、検討する上でのママさんたちのニーズを聞かせてもらっていますが、圧倒的に多くの声は「できれば幼稚園に通わせたい」というものです。その理由は、「幼児教育」という視点からです。その一方で、指摘にあるように、母親の就労希望の増加により、それを実現するためには、今の幼稚園の在り方(運営制度)では、ママ達は「無理、無理」という結論に直ぐに結びついてしまうということです。無理と考える意見のトップは、「毎朝のお弁当はとて継続られない」です。2番目が、「お迎えの時間が早い」です。もしも、この2点が解消されればどうですかと尋ねると、9割がた「幼稚園」という答えが返ってきます。これはまさに、第1に望んでいる「幼児教育」が、現行制度では、受けさせたいけど現実的な制約から受けさせられないということだと思います。つまり、幼稚園が選はれなくなったのではなく、今の幼稚園では、"選べなくなった"ということではないでしょうか。 このようなこーズを満たすためには、確かにコストアップではありますが、少子高齢化が進む日本社会にあって、これからの市政に望まれることの一つには、「子育てに優しいまち」であり、現にいろいろな工夫やアイデアで、子育て人口を伸ばしている市町があります。単に園児数が減るから集約しますの発想ではなく、社会一ズにあわせた幼稚園制度の改革の視点が無いことが残念です。 子ども達と市の将来のため、初等・中等の義務教育を受ける権利と同様に、幼児教育を受ける権利と子育てのしやすさが大津市の魅力である、と全国に発信できるような施策を検討して頂けるよう、切に願います。	ご意見として承ります。	給食 預かり保育の拡大
407	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	反対です地域のつながりをなくしてならないと考えます。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
408	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	反対です地域のつながりが無くなる為	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
409	26	(4) (5)	50頁にもわたる検討文書の前半は、とても詳細に現在の公立幼稚園が今まで果たしてきた役割が検討され述べられていました。 『平等な教育の機会の提供』これはとても大切なことで、公立幼稚園の大きな責任担っていると思います。 しかし、再編の理由や必要性については納得のいきにくい物です。「こどもの人数が減った、適正規模ではない、今までの役割が果たせない」という論理は乱暴に思えます。現在の幼稚園利用者の子どもと保護者の実態からみて、少人数でも「平等な教育機会として提供されている」ことで、少数者の利益を守り、地域の特別な配慮を要することも大切にしている役割を、果たせていると思います。 少数になったら非効率的である、という論理は、解ります。後半の子どもの人数予測からの、今後の再編計画については、人数のみの視点で述べられ、効率化するため、ということが読みとれます。少数であるが故に切り捨てられるこどもへの視線が弱い様に感じます。 もう少し丁寧に、大津市の公立幼稚園において、特別な配慮を要する子どもへの平等な教育機会提供をしていることが、再編後も保障されるのかどうか、という点での検討をお願いします	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、効率化を目的としたものではありません。 また、特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	適正規模 予算削減・効率化 特別な配慮
410	12	図1	特別な配慮を必要とする子どもの人数が一園あたり10人を超えている、と言う現状は、説明会で「公立保育園で保育士が足りなくて受け入れられない子どもの受け皿に公立幼稚園がなっている」と説明されました。令和2年より一貫して、300人以上の子どもが公立保育園幼稚園に入っています。受け入れ比率が、民間の保育園や認定こども園よりも高いのは、公立園が長年積み上げてきた保育教育への信頼です。保護者が見学した上で、保育や教育の公的責任や保育教育内容を見て選ぶ、あるいは地域の公立小学校と一緒に行く友だちと育ちあうことを期待して、選択して公立幼稚園を選ぶとも考えられます。この公立保育園や公立幼稚園への期待、保護者から求められている役割を踏まえて、公立が質の高い保育を提供し続けることで、大津市のすべての保育園や幼稚園での保育・教育が『一人一人を大切にしている保育・教育』『差別なく保育・教育をうける機会』が保障されていると思います。この300人以上の子どもについて、再編計画を立てる時に行き場が考慮され、地域の中でこの幼稚園や保育園の数で受け止められる、という検討がされたのでしょうか？これらの特別な教育的な配慮を要する子どもにとっては、大きな集団が良い、とは限りません。 少人数でじっくり落ち着いた環境の中で安定するというとも、幼稚園の良さとして選ばれる理由になっていると思います。	特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。	特別な配慮
411	12	図1	また、これらの子どもの通園距離が伸びることや地域から離れることは、健康面でも精神面でも負担が増え、通園バスなどの保障も不確かで駐車場整備の視点だけでは、保護者の負担が増すばかりです。 すべての大津の子ども達が共に育ちあう保育・教育を平等に受ける事が可能となるための再編計画であって欲しいとねがいます。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
412			「大津市立幼稚園再編等検討委員会」が設置され、そこで7回の会合のもとに示された「大津市立幼稚園の再編等について（案）」を手元に、いろいろと考えさせられました。しかしながら考えれば考えるほど矛盾ばかりが増えてしまい、今日（4/28）まではっきり結論はだせません。休日の日に実際にいくつかの幼稚園を見て回り、どこもその園庭環境の良さはそれぞれ地域の特性があり、そのことにも創意工夫のあり方、多様性の良さを感じさせられました。「ここにはこどもの健やかな育ち、命がある」あえて今いえることは、「いまある幼稚園を維持発展的にさらに、より良い教育環境の提供に向けて再考していただきたいとお願いしたい気持ちでいっぱいです。これは反省的判断です。	園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかななどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。より良い教育環境の提供に向けて検討します。	園の特徴
413	3～	(2)母親の就労状況について (3)保育ニーズの高まりについて (6)保護者ニーズの変化について	これらの認識がありながら、第2章及び第3章の各論において十分反映した深まり、議論、提案になっていないのが残念である。それが故に、2年連続で全国ワーストレベルという汚名を払拭しうる有効な施策たり得ていないのではないかと憂慮する。	ご意見として承ります。	待機児童
414	16	(1)「大津市立幼稚園・保育園のあり方の方針」の策定	「保幼一元化の取り組み」として、……が明記されました、としながら、一部触れてはいるものの、第2章及び第3章の各論において十分反映した深まり、議論、提案になっていないのが残念である。	ご意見として承ります。	認定こども園
415		全体として	多くの克服すべき課題があるが、若い世代が大津市に移り住み、安心し、期待を寄せるような思い切った積極的な姿勢の議論、提案がほしい。そうでない限りワースト記録を克服できないだろう。(案)としてよく検討されている努力は認める。だが、今必要なのは各論にみる原則的な教育理念の美辞麗句ではない。	市の施策に対するご意見として承ります。	子育て支援全般 その他

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
416			この後の幼稚園再編等計画の委員会の答申は、乱暴と考えます。幼稚園園児の減少が、何故起こってきたのか、子どもたち、保護者のニーズを聞き対策をせず、安易な再編という方向に持っていくのは、間違っていると考えます。子ども未来部の発足から一年、委員、及び関係者の方々は、大津市ま36学区の地域、幼稚園に足を運ばれ、現場の声を聞き答申されたか疑問です。 上田上学区は、平成21年から、き危機感をもち、上田上の教育を考える会議を発足し、幼稚園、学校の子どもたち、保護者、先生方と共に、上田上の自然を生かした教育に取り組み、幼稚園の芝生化、里山幼稚園他により、また、幼稚園前に駐車場を設置するなどにより、多くの園児が学区外から来ていただき、今年度、近隣の幼稚園より、多くの園児が、入園してくれています。それぞれの学区、幼稚園の特色を生かした先に、園児、保護者のニーズに答える事が出来、園児数も増えるのではと考えます。まだ、最終の決定まで、時間があるならば、各幼稚園、上田上幼稚園に是非、お越し下さい。 いつも、佐藤市長がおっしゃておられるように、データだけで判断するのではなく、現場主義の視点で、再編問題に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。 なお、中学校校区との再編でありましたが、田上中学校は上田上学区にあります。	園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。	園の特徴
417	52	カ打出中学区大津幼稚園の再編について	大津幼稚園の再編成については、反対です。 付近の保育施設の中でも、とても居心地がよく、子どもたちがのびのびと過ごしながら、たくさんのことを学べる保育施設だと感じています。 ほどよく市街地でありながら、車通りは緩やかで、日当たりのよい広々とした園内に、遠くに見える山景や園内で四季を感じられる植栽計画など、日々、自然の心地よさを感じられる点にとても魅力を感じております。 また、大津祭りや大津港など、地域の歴史や文化に身近に触れられるのも素敵だと思っています。 こうした環境や学びの数々から、沢山の穏やかな園児さんが育っているんだとみて思います。 現在、長男が通っており、次男にも同じように、この環境の中で のびのびと育てほしいと願っています。 ぜひ当園のまま残していただけますと嬉しいです。 何卒よろしくお願いいたします。	ご意見として承ります。	園の特徴 地域との関わり
418	19	再編基準の見直し	大石学区は、大石幼稚園しか就学前施設がないと聞いたので、人数が少ない、園児が減少している、を理由に、再編を検討されてしまうと、通う施設が無くなってしまう子ども達がいいます。それはどうなのでしょう？	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
419	32	3	大石学区は、富川や曽束など長距離を車で通っているご家庭もあるようです。バスや駐車場を検討していただけるので、あれば具体的にバスの経路、時間などを幼稚園ごとに説明するべきなのではないでしょうか？	54ページに記載のとおり、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	通園支援
420	2	1 はじめに	必ずこれらのパブリックコメントを、市民の意見として受け入れるだけでなく、改善に充ててください。 私は、南部区域の公立幼稚園に子供を通わせている保護者です。 統廃合の対象となっているにも関わらず、園の先生方や保護者に対して一切の説明もなく、地方新聞に再編の案を掲載し、公にしたことに対して強く非難します。 在園児や、入園希望の子ども達、保護者に対して配慮もなく、強引で失礼だとは思いませんか？	パブリックコメントにて頂戴しましたご意見につきましては、検討委員会にて考え方の整理を行った上で、結果をホームページにて公開させていただきます。 また、新聞報道につきましては、公開の場である津市立幼稚園再編等検討委員会等の議論や報告を記事にされたものですが、一部、本市の見解と異なっていた内容があったため、市ホームページにて本市の見解を掲載しております。	検討経過
421	2	1 はじめに	園児数の現象に伴い「体験できる遊びが限られる」とありますが 南部地域で申し上げますと、仮に石山幼稚園に統合し園児数が倍以上となった場合 手狭な園庭に、1 2 0 名を超える多くの子供達が集まり、体験できる遊びが増えると言えますか？ 現在、南郷幼稚園では、園庭で田植え、園庭でみかん狩り、園庭の畑で沢山の野菜を植えて収穫を行う等、大きな園庭で自然における活動、関わりを大切にされています。豊かな自然環境と、経験豊富な用務員さんや先生方との連携で、充実した遊びが学びへと繋がっています。 少人数ならではの、他学年との関わりや交流も毎日あります。	適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものです。各園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。	適正規模 園の特徴
422	16	3 これまでの取組	「津市立幼稚園・保育園のあり方検討会」というものが存在するのであれば、市立幼稚園の再編を具体的に検討するにあたって、現場の園長や先生の声が直に聞ける上記の検討会にて、まず初めにどのような区域分けをするかどうかで具体的に議論されるべきではありませんか？	現在設置されている委員会は、津市立幼稚園再編等検討委員会となります。 検討委員会は、関係機関や保護者、地域の方などの代表者で構成され、市全体の方 向性として検討を行ったものです。	その他
423	18		「中学校区ブロックごとに、規模の適正化を図っていく」のであれば 南郷幼稚園・大石幼稚園の統合は当てはまりますが、石山幼稚園は基本的には学区外であることから、これには当てはまりません。	再編等の方向性は、概ね中学校区ごとに検討を行いました。52ページに記載のとおり、石山幼稚園は、再編基準には合致していませんが、南郷幼稚園及び大石幼稚園は、ともに第 1 段階に該当し、南郷幼稚園及び大石幼稚園ともに園児数が少ないことから、子ども達の育ちの環境を考慮し、石山幼稚園に再編の検討を行ったものです。	検討経過

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
424	23		市立幼稚園における就労している保護者に対する支援をより良くするとありますが、本当にそのつもりですか？園を集約することで、園児数が増える＝預かり保育を利用する園児数も増える 小学校の児童クラブのように、先生の不足と、園児の溢れかえった環境化になるのは目に見えています。それが本当に教育の質の向上ですか？ 南部地域では、石山幼稚園に130人余りの園児が集まり、そのうち仮に半分の児童が預かり保育を利用したら65人。 先生は何人体制で、保育室は何部屋を確保できますか？安全面の確保も可能ではないです。 現在、南郷幼稚園の預かり保育では、全学年の園児が集まり、アットホームな雰囲気、保育室だけでなく園庭でものびのびと活動しています。石山幼稚園の園庭は700平方メートルに対して、南郷幼稚園の園庭は倍以上の1962平方メートルです。	再編等の検討については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	適正規模
425	23		預かり保育でお迎えに来られる保護者はほとんどが車です。石山幼稚園では駐車場の確保ができますか？ ドライブスルー下校を実施している園もありますが、石山幼稚園前の道路は交通量も多く、道幅も広くないことから不安が懸念されますし、不可能です。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
426	52		石山幼稚園が再編基準に合致していないのであれば、再編を行う必要はないとみなします。 仮に再編を行うなら南郷幼稚園と大石幼稚園は同じ中学校区であることから、まずはこの2つの園が第一段階として南郷幼稚園に統合を行うべきではありませんか？今一度考え直す必要があります。 南郷地域では、大型新築分譲地等は今はないものの、時代の流れに伴い入居者の入れ替わりが始まっています。今後、園児数が増える見込みもある為、石山幼稚園との3園の再編は行うべきではありません。	再編の方向性については、ご意見として承ります。	検討経過
427	9～11	表4、表5	保育所、認定こども園、幼稚園の園児数について記載があるが、表5にある幼稚園の地域ごとに、市立保育園（14園、比叡平こども園含む）や民間保育園（私立幼稚園・こども園）もあわせた検討が必要とおもわれる。	再編の方向性については、ご意見として承ります。	検討経過
428	52	キ	粟津中学校区・北大路中学校区については、膳所小学校に隣接する膳所幼稚園（大津市中庄二丁目）への再編が予定されているが、現在の富士見幼稚園（大津市富士見台45番）、晴嵐幼稚園（大津市鳥居川町15番）からは距離がかなり離れている。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
429	52	キ	晴嵐幼稚園については隣接して私立保育園（社会福祉法人つばさ会）があることやほかにも周辺に民間の保育施設や晴嵐保育所が小学校の近くにあることから民間保育園への流出や既存の晴嵐保育園の利用が考えられるから、そのような説明分析が必要なのでないか。	49ページに記載のとおり、再編等の検討にあたっては、市内の就学前施設の位置関係も参考にしました。	検討経過
430	52	ク	石山中学校区・南郷中学校区は、石山幼稚園（大津市石山寺三丁目）に再編が予定されているが、特に、大石幼稚園については、スクールバスが必要なほど距離が離れている。近隣に代替する民間のこども園等がなければ、通学することが必要になる。大石からの交通の便でいえば田上幼稚園が通いやすい位置になるかもしれない。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
431	52	ク	ほかの幼稚園も同様であるが、石山幼稚園も南郷幼稚園も小学校が見えるほど近くにあるので、同小学校へ通学する児童にとっては小学校入学準備としては、意味があったものと思う。	小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。	幼小連携
432	52	ケ	田上中学校区・青山中学校区については、青山については草津方面・上田上については瀬田方面への交通の便もよい。中学校区によらず、草津市の施設や瀬田や瀬田北学区とも合わせた検討も考えられるのではないかな。	再編の方向性については、ご意見として承ります。	検討経過
433	2～3	望ましい教育環境の保障	少子化に伴う園児数減少や保育ニーズの変化を理由として、幼稚園の再編が必要とされています。しかし、その前提として「園児数の少なさ＝望ましくない教育環境」とする考え方に疑問を感じます。 少人数であることは、子ども一人ひとりに目が行き届き、丁寧な関わりや豊かな遊びを保障できるという大きな利点があります。人数の多さのみをもって「望ましい集団」とするのではなく、少人数だからこそ可能となる教育の価値についても、十分に検討されるべきではないでしょうか。	34ページに記載のとおり、園の体制や教師の指導・支援を工夫することで質の高い教育・保育を提供してきており、小規模の施設を否定するものではありません。適正規模については、4歳児及び5歳児それぞれで、どのようなことを経験してほしいか、そのためにはどれくらいの規模が望ましいか、という教育的観点から検討されたものであり、原案のとおりとします。	適正規模

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
434	2～3	望ましい教育環境の保障	また、再編や統廃合により通園距離が長くなることは、子どもにとって大きな負担であると同時に、保護者にとっても送迎の負担増加につながります。幼少期の生活は、地域の中で安心して過ごせることが何より重要であり、地域とのつながりの中で育つ環境が損なわれることを懸念します。 近年、学校の統廃合が進んだ地域において、子どもが長距離通学を強いられるなど、子どもの生活環境に影響が出ている事例も見受けられます。こうした状況を踏まえると、単に効率性や規模の観点から再編を進めるのではなく、子どもの発達や生活の質を最優先に考えた検討が必要です。 つきましては、以下の点について再考を求めます。 ・少人数教育の価値を前提とした運営の可能性の検討 ・通園距離および保護者負担の増加に対する具体的な配慮 ・地域に根ざした幼児教育環境の維持 ・統廃合以外の選択肢（小規模園の存続や機能転換など）の検討	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	通園支援 地域との関わり 認定こども園
435	31～36	基本的な方針について 一定の集団規模が望ましいとされている	ここでもまた、「望ましい集団規模の確保」が再編の主要な目的とされていますが、その根拠や、それによって失われる可能性のある要素についての検討が十分とは言えません。 特に、園の大規模化や統廃合により、 ・子ども一人ひとりへの関わりが希薄になる可能性 ・職員の負担増加による保育の質の低下 ・不適切保育や虐待のリスクの見えにくさ といった点が懸念されます。 子どもの育ちにおいて最も重要なのは、規模ではなく「安心できる関係性」と「丁寧に見守られる環境」です。 集団規模のみを軸とした再編ではなく、安全性・人権保障の観点を含めた多面的な検討が必要です。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものです。	適正規模 その他
436	55～	【第4章再編等の実行計画】	実行計画においては、再編の進め方やスケジュールについては記載されていますが、子どもの安全確保や虐待防止に関する具体的な方策が示されていません。 園の統廃合や環境の変化は、子どもにも保護者にとっても大きなストレスとなる可能性があり、また職員体制の変化は保育の質や安全性に直接影響します。 そのため、以下のような視点を計画に明記することを求めます。 ・虐待防止および不適切保育を防ぐための具体的な仕組み ・第三者による定期的なチェック体制 ・子どもの声や保護者の意見を継続的に反映する仕組み ・再編前後における子どもの心理的ケア 再編は単なる効率化ではなく、子どもの命と尊厳に関わる問題です。 安全性と人権保障を計画の中心に据えた内容とすることを強く求めます。	ご意見として承ります。 なお、再編等の計画は、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討を行ったものであり、効率化から検討を行っているものではありません。	その他
437		案全体について	子どもを取り巻く環境の変化が、保護者の孤立や負担の増大を招き、結果として子どもへの不適切な関わりや虐待のリスクを高める可能性についても、行政は十分に考慮すべきであると考えます。 近年、子どもをめぐる痛ましい事案が社会問題となっていますが、その背景には、家庭だけの問題ではなく、地域とのつながりの希薄化や、保護者が孤立しやすい環境があると指摘されています。 幼稚園は単なる教育の場にとどまらず、保護者が悩みを共有し、地域の中で支え合う拠点としての役割も担っています。統廃合や再編によってその機能が弱まることは、結果として家庭の孤立を深め、子どもの育ちに影響を及ぼすおそれがあります。 行政には、こうしたリスクを未然に防ぐ観点からも、単なる効率化ではなく、地域における子育て支援の基盤を維持・強化する責任があると考えます。 大津市の子どもたちと子育て中の親たちにとって、少しでも豊かな環境になりますように、願ってやみません。	再編される地域についても、保護者と教員の密接な関係を構築し、的確な判断・指導ができるように、これまで再編を実施した園での取組を参考に検討するよう求めます。 なお、再編等の計画は、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討を行ったものであり、効率化から検討を行っているものではありません。	子育て支援全般
438			1.地域の活力の源である幼稚園の存続を 学区内から幼稚園が消えることは地域活力減退に繋がると考えます。地域コミュニティの観点からも、様々な世代が共に暮らす豊かな社会を維持するためにも、今回の幼稚園の再編成（統廃合）案には反対します。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
439			2.歴史ある「大津幼稚園」の教育の質と独自性を担保する 今年度で138年の歴史を誇る当幼稚園は当時のお茶の水女子大学附属幼稚園をモデルに創設された園で、日本の幼児教育では先駆的存在であり、「のびのびと遊び、一人ひとりを大切にする」という理念に基づいた長年の実績は、本市が誇る教育資産です。また、当幼稚園では、大津祭などの伝統文化を積極的に取り入れ、同じ敷地内にある小学校とも密接に連携しています。この環境こそが、子どもたちにとって豊かな人格形成の基礎となっていると考えます。今回の幼稚園再編成案は、大津市が誇るべき本幼稚園の歴史や教育的価値を軽視することになるのではないのでしょうか。効率化や合理化を優先して統廃合すべきではないと考えます。 上記2点の観点から、私は大津幼稚園を「幼保連携型認定子ども園」として存続させることを提案します。 上記提案の主旨は、大津幼稚園の教育体制を維持しつつ、認定子ども園化することで、バスの運行、給食の提供、預かり保育の拡大など多様化する保護者のニーズに応え、待機児童対策にも貢献できると考えるからです。学区の人々との話し合いから、新しい形での存続を考えられることを希望します。	園の特徴については、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなどの意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 なお、再編等の計画は、本来幼稚園は「集団生活を営む場所」であることから、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育を実現できるようにすることが重要なこととして検討を行ったものであり、効率化から検討を行っているものではありません。	園の特徴 予算削減・効率化
440			上記2点の観点から、私は大津幼稚園を「幼保連携型認定子ども園」として存続させることを提案します。 上記提案の主旨は、大津幼稚園の教育体制を維持しつつ、認定子ども園化することで、バスの運行、給食の提供、預かり保育の拡大など多様化する保護者のニーズに応え、待機児童対策にも貢献できると考えるからです。学区の人々との話し合いから、新しい形での存続を考えられることを希望します。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園
441	52	カ打出中学校区大津幼稚園の再編	小さい頃に大津市立大津幼稚園に通っておりました 中央学区で生活している場合大津幼稚園がないと平野幼稚園までは距離も遠く、子どもの急病時などのお迎えや自宅との距離があることで道中での安全が守れない可能性も出てくるかと思います。 中央学区にはマンションなども増えており子どもを育てる家庭も増えてきている中での幼稚園合併には上記の意見も含めて反対させていただきます。 ご検討お願いいたします。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 また、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。	通園支援 人口推計・園児数推計
442			現在娘家族が中央学区在住で、私自身は大津幼稚園の卒園生です。中央小学校に隣接する大津幼稚園が無くなることは大変残念です。 少子化が進む中、数々のデータをもとに幼稚園の再編計画をされたことは理解できます。しかし、学区の公立校園がこれまでに果たしてきた地域での役割、将来への期待に目を向けますと、大津幼稚園の閉園は容認できません。 学区内に公立の保育園がなく、フルタイムで働く娘の子どもは隣接学区の民間保育園を選択せざるを得ませんでした。 待機児童が増加していることは大きな課題です。しかし、市の中心部の活性化を図るために県が文化施設の建設や教育機関の誘致を進めていることから、今後住みやすい大津市としての展望があります。現に商店街の近くには戸建て住宅やマンション建設が進み、人口の増加が見込まれます。 現時点の幼稚園のガラガラ状態で閉園を考えるのではなく、今の市立幼稚園の形態が世の中のニーズに対応していないということに着目して存続させる対策を検討いただきたいと思います。 つまり、共働き世帯が増えているなかで、短時間保育、給食もなしという市立幼稚園の形態の改革をお願いします。	既に平成28年度から、園児数を増やす取組として、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されています。 その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものであり、原案のとおりとします。 これまでに実施してきた園児数を増やす取組について、22～23ページに追記を行います。 また、人口推計については、マンション建設の予定も勘案した上で、小学校区ごとに実施しており、市立幼稚園の園児数の推計も、該当の小学校区ごとに算出しているため、「将来的な児童数増加の可能性」については考慮されているものと考えております。 給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	預かり保育の拡大 給食
443			今必要な対策は、「公立幼稚園の統合ではなく、各学区内で認定こども園へ移行する」ことだと考えます。保育園との一体運営により共働き世帯のニーズに応えられ、園児の数は増え、運営の合理化も進み、今できていない対応もできるようになると思います。そして、何より子どもたちが自分の住んでいる地域の文化や歴史に触れながら多様な環境で体験を積んでいくことができます。 子どもの数のみに着目した安易な統合ではなく、地域に愛着をもって育った子どもたちの姿を見据え、未来の大津市のための改革をお願いします。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
444			大津幼稚園の再編については、反対の意見です。 《おもな理由1地域とのかかわり》 我が子（現在小学生2名）は、大津幼稚園に通いました。地域の子が園内で遊べる日があったので、0歳から遊びに行かせてもらっていました。 子の発達など気になることがある時など、気軽に先生や保護者に相談できるあたたかい場所でした。 そして、入園してみると、地域ともかかわれる場所でした。 地域の方々は、生活発表会や作品展をみにきてくださったり、園児たちをととてもかわいがってくださっていました。 また、昔遊びを教えにきてくださったり、園内行事の際に託児にきてくださったり、徒歩での通園時の挨拶などで、顔見知りの地域の方も増えました。 これは中学校区など大きな地区のくくりではできないことかなと思います。 以上の経験から、地域で子どもを育てるとはこういうことなんだな、と感ずることができました。 地域の方々はいつも優しく声をかけてくださるので、子ども自身も地域の方に見守ってもらっていると感じ、安心して過ごしていたと思います。 特に中央学区は大津祭がある地区でもあります。大津幼稚園は湯立山とのかかわりがあり、園児も曳山にのせてもらったり、お囃子を体験させていただいたりして、大津祭に興味をもっていました。 そういった伝統が身近にあることも大津幼稚園の魅力です。 再編のために、この素敵な地域とのつながりが今後なくなっていくと思うと、とても残念です。	地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。	地域との関わり
445		444の続き	《おもな理由2幼小連携》 大津幼稚園は中央小学校とのつながりがあることで、幼稚園から小学校へスムーズに移行できるという特徴があります。 我が子が、登校しぶりもなく笑顔で学校に通えているのは、幼稚園の段階から小学校とつながりがあったことが大きいです。 同敷地内に小学校があるということで、普段から小学校の様子もみており、授業、休み時間、掃除時間、運動会や音楽会などのイベント等、小学校生活がどういものかを肌で感ずることができていました。逆に小学生となった我が子は5.5交流での幼稚園児との交流を通して、小さな子を大事にする、大切にするという意識も育っていました。 5.5交流のほかにも、先生方が会議や研修で連携をとってくださっていて、お互いに発達段階や様子を知れることは教育する側にとっても大きなメリットがあると思います。この幼小連携は、他の自治体にも誇れる取り組みだと思います。 このように、中学校区でひとつ幼稚園があればいいという考えには賛成できません。 平野幼稚園に通うのであれば、幼小連携のことを考えると、逢坂学区や中央学区の子や親にとっては全く意味がないことになります。	小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、架け橋プログラム等を通して、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。 なお、架け橋プログラム等は、市立幼稚園が中心となって取り組んでおります。	幼小連携
446		445の続き	《さいごに》 大津市が取り組んでいる公立ならではの幼稚園教育のよさ、これがなくなってってしまうのは残念です。子どもの興味を引き出したり、また興味があるものを遊びや実体験につなげたり、幼稚園生活での先生方のはたらきかけは見事でした。 幼稚園の先生は、我が子やほかの子と関わる時には、子どもの心に寄り添ってくださっていて、人として尊敬できる方ばかりでした。 やはり、公立ということで研修が充実しており、先生の教育者としてのレベルが高いのであろうと感じていました。 この幼稚園教育があつてこそ、大津市の未来を生きる人材が育っていくのではないのでしょうか。この教育を公でやることに意味はあると思います。 子どもの教育のための予算が削られることには納得がいきません。 人数が少ないから大津幼稚園は残す価値がないのでしょうか。 大津幼稚園には大津幼稚園にしかない価値があると思います。大津幼稚園の存続をぜひご検討いただきたいです。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであり、予算の削減案ではありません。	予算削減・効率化

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
447			学級の園児数が定員の半数未満となる園の解消、集団生活を通じた質の高い教育環境の確保、子育て支援の強化。 とありますが、まず質の高さとは、人数の多い少ないだけではないと、感じています。中学校2年生の長女は大人数の保育園で1歳から小学校入学まで過ごしました。小学校4年生の長男は1歳から2歳までを保育園で。3歳の時に逢坂幼稚園へ入園し、3年間を過ごしました。現在次女が逢坂幼稚園年少です。長男の幼稚園生活において、まさに階段を登るように年少、年中、年長と成長をとげていました。それは長女の時には感じる事が出来なかった事です。少人数ならではのきめ細やかな対応が素晴らしいです。 子供たちはあるがままの3歳を過ごし、少しずつ自分と自分以外のお友達とのかかわり方を先生方のサポートのもと、しっかり学んでいます。そして卒園する頃には、小学校で生活できる力をしっかり持っています。3歳の次女は、まだ数日しか登園していないですが、自宅から幼稚園まで毎日一生懸命歩いています。きっと、すぐ隣の小学校への通学も何の不安もなく見送ることができるようにと思います。仮に、平野幼稚園に統合したとします。娘は逢坂小学校へ入学するんです。平野小学校ではありません。小学校への入学準備が、平野幼稚園へ行くことでできますでしょうか？質が高くなり、小学校への不安も減るのでしょうか？平野幼稚園までは歩くには遠く、登園しにくい方もたくさん出てくるでしょう。何をもって子育て応援なのか。ある一定の層に対してでしょうか。子供たちの姿を見て質が悪いと感じるのでしょうか？園児数が問題なのであれば、どうすれば入園児が増えるか、あれだけ素晴らしい環境の幼稚園に入園してもらえるか。市としてのサポートはそちらに向けてもらいたいと願います。	小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではないことから、市立幼稚園が中心となって取り組んでいる架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。 また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 なお、園児数を増やす取組としては、既に平成28年度の検討において、「3年保育の実施」と「預かり保育の充実」が提案され、順次実施されていますが、その上で、近年、急激に園児数が減少している状況を受け、改めて本検討を行っているものです。	適正規模 幼小連携 その他
448			大津市は、子どもたちの就学前における人権を数字で奪うのはおかしいと思います。	35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	適正規模
449			●対象園南郷幼稚園、大石幼稚園再編先石山幼稚園 再編先について、園児の急な発熱や怪我などのお迎えや大石学区からの通園距離などを考えると、地理的に3園の中心に位置する『南郷幼稚園』が良いのではないのでしょうか。 施設面においても、園舎、園庭、駐車場共に、石山幼稚園より広いと思います。 ●対象園上田上幼稚園、青山幼稚園再編先田上幼稚園 再編先について、園舎、園庭、駐車場の広さを考えると田上幼稚園だが、園児の急な発熱や怪我などのお迎えや青山学区からの通園距離などを考えると、地理的に3園の中心に位置する『上田上幼稚園』が良いのではないのでしょうか。 また、再編先が田上幼稚園に決まった場合、上田上学区の地域性を活かした豊かな自然体験が継続されるのかも心配です。 上田上幼稚園の芝生の園庭も魅力的です。	地理的な位置関係だけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しており、原案のとおりとします。 また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 なお、地域性に関しては、検討委員会でも意見が出された上で検討を行いました。検討委員会では、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承するよう意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。	検討経過 地域との関わり 園の特徴
450	52	長等幼稚園について	今後園児数が増加する傾向となっているなら、再編対象とならないはずではないのか？なぜ、第2段階での再編となるのか？	再編等については、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、この基準によると第1段階に合致します。その上で、51ページ以降に記載のとおり、園児数が増加する傾向の推移となっていることから、推移を見るため第2段階としたものであり、原案のとおりとします。	再編基準
451	52	長等幼稚園について	歴史ある園で、園庭も広く、大木も育つ。長等小と連携教育も取組む。この環境を活用し、長等幼稚園をこども園にすべきである。	認定こども園化については、貴重なご意見として承ります。	認定こども園

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
452			大津市の幼稚園再編計画は、名称的には幼稚園のことを指していますが、待機児童問題と深く関わっているのでは、と感じています。 そこで、大津市での保育ニーズをどのように把握しているのでしょうか。 実際に保育園を利用している方のうち、保育園でなければ保育できないご家庭はどのくらいの割合なのでしょう か。 大津市の公立幼稚園には給食がないことや、未満児でも家での保育がキツイと感じて、保育園利用ができるギリギリの働き方をして保育園に預けているケースもあると聞きます。未満児から預け始めると、そのまま保育園を利用し続けることになり、フルタイムで働きたいご家庭のお子さんの保育が叶わないことに繋がっているのでは、と思います。 大津市では、生後4ヶ月から健診があります。基本的に全員受診するものです。9ヶ月からは集団健診となる場を利用してアンケートを取るなどして保育ニーズを把握することもできるのではないのでしょうか。実際の保育利用とは相違があっても、その時点での保護者がどのように子どもの預け先を考えているのかを大津市が知る機会に繋がられるのでは、と考えます。 （例えば、何歳ごろから幼稚園または保育園を考えているのか、就労の有無や形態、保育園や幼稚園への考え方、給食の有無によって選択肢が広がるのか、など） 現在の待機児童数問題は、単純な待機児童数、保育士数だけの問題ではなく、保育ニーズを把握する必要性を感じています。 幼稚園再編が案の通り行われると、1小学校区に1園ではなくなるところがあります。現在、密な幼小連携が取られていると感じていますが、それをどのように保証して行くのでしょうか。この密な幼小連携については、学区外からも子どもの集まる保育園の保小連携では敵わない強みだと思っています。学区がまたがることによって、幼稚園の先生方の負担が増えてしまうのでは、と懸念しています。	保育ニーズの把握については、7ページ以降に記載のとおりです。 今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。 また、集団健診の場を利用したアンケートについては、今後の参考とさせていただきます。	待機児童 幼小連携 その他
453		452の続き	幼稚園で給食の提供が行われないのはなぜでしょうか。近隣の市町村の公立幼稚園でも給食を提供しているところは増えています。この幼稚園再編計画でも、近隣の自治体を参考にして・・・というフレーズをお聞きするのですが、なぜ給食については参考にされないのでしょうか。パートタイム等、拘束時間の長くない就労形態であれば、給食の提供があれば預かり保育と併せて十分な選択肢となり得ると感じます。大津市が昨年度から掲げている「働いていても幼稚園」という、保護者の選択肢を広げてくれる魅力的なワードが実際のものとなるよう、給食の提供をお願いします。	給食の実施については、検討委員会の検討範囲ではないことから、ご意見として承ります。	給食
454		453の続き	幼稚園では、特別な配慮を要する子を多く受け入れており重要な役割であるとのことでしたが、多様化する個々のニーズに丁寧に対応できるよう、余裕のある人員配置をお願いします。幼稚園の保護者の満足度が高いのは少人数で丁寧に見てもらえるからだ、という市民の声もありましたが、保護者が感じているのは少人数の丁寧さではなく、「幼稚園ならではの丁寧さ」を評価しているのだと思います。これまでの歴史のなかで培ってこられた幼稚園教育への評価です。 個人的には、今回の案で初めての社会生活となり丁寧な指導が必要な3歳児クラスが15名を超えたときに1名追加で配置される、という点は高く評価しています。 幼稚園を再編し幼稚園の未来を先細りさせる政策ではなく、幼稚園という選択肢を広げ幼稚園の未来を拓く政策をお願いします。 最後に。待機児童数が全国ワースト1。これだけを見ると、大津市はどうなっているんだ？と不安に思う市民も多いかと思います。しかし、裏を返せばそれだけ大津市が子育て世代に選ばれている、という証なのだと思います。ここから先、選ばれ続ける大津で在れるかは、本当に子どもたちのことを考えた政策がなされていくのかどうかにかかっています。これから創っていく子どもたち、そして子どもたちに関わる方々を大切にしてください。待機児童の解消のために、幼稚園再編計画で幼稚園の先生も保育園へ、ということはとても乱暴な政策であり、大津市で働いている幼稚園・保育園の先生方と通う子どもたちそして保護者を随分蔑ろにしているな、と感じています。未来を創っていくのは、今の子どもたちそしてこれからの子どもたちです。目の前の数字に躍起になるのではなく、20年30年後を見据えて政策を行ってください。いま大津市で育っている子どもたちが大人になった時、「大津が大好き」「自分も育った大津で子育てしたい」と未来を描けるような政策を期待しています。	ご意見として承ります。 特別な配慮を必要とする子どもに関しては、検討委員会でも、しっかり検討するよう提案をしています。支援については、市立幼稚園だけでなく、全ての就学前施設で行う必要があるという意見も出されています。 また、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。	特別な配慮 適正規模 待機児童

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
455			大津市立幼稚園の再編等についての【第2章基本的な方針と考え方】では、幼稚園教育のあり方について（1）から（7）までと基本的な方針について（1）から（4）まで考慮すべき点として定められています が、文書を読みますと、「統合するかどうかの判定」については、ほぼ（1）の「園児数（集団規模）」という数値基準のみであり「基準の偏り」が見えます。 1.「判定」と「配慮」の分離 計画書では、以下の二段階で話が進んでいます。 第1段階（判定）：園児数が基準（3歳児15人未満など）を下回るか。→ここで「統合対象」が機械的に決まります。 第2段階（検討）：統合が決まった後で、通園距離や地域事情をどうするか（2、3、4の項目）。→これらは「存続させるための基準」ではなく、「統合を進める際の調整事項」として扱われている側面が強いです。 つまり、基本方針（2）～（4）は、統合を回避するための「ハードル」ではなく、統合を前提とした「地ならし」の項目になっているという解釈です。 2.幼稚園教育のあり方の限定的な解釈 「幼稚園教育のあり方」についても、（4）の「集団生活の確保」が最優先の評価軸になっています。 本来の幼稚園教育には「地域に根ざした教育」や「少人数ならではのきめ細かな指導」といった側面もありますが、今回の計画案では「一定数（1学級15～25人程度）がいないと社会性が育たない」という「集団規模のメリット」が唯一の絶対的な幼稚園教育のあり方として置かれています。 そのため、他のあり方（地域交流や個別のニーズなど）は、集団規模が確保できない以上、二の次として扱われている（あるいは基準が設けられていない）のが現状ではないでしょうか。	今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、原案のとおりとします。	検討経過 適正規模
456		455の続き	3.文書上の矛盾点 基本方針には「総合的に勘案する」と書かれながら、実際に対象園を選んだ根拠表を見ると、ほぼ例外なく「3歳児入園者数が15人を下回っているため」という理由が筆頭に挙げられています。 このことから、実質的には「数値基準のみで選別し、選別された後にその他の項目で手法を微調整している」という見方です。 「遠方の園への通園を強いられる」「地域のコミュニティ拠点が失われる」といった、具体的な不利益が数値基準のみで一方向的に押し付けられることは、「数値ありきの強引な進め方ではないか」といった不信感を生み、個人の受ける教育の権利や福祉を損なう行為であると批判の対象になりうるのではないのでしょうか。 他の自治体での権利侵害主張と問題事例 大津市と同様に、数値基準による機械的な統廃合を行った結果、裁判や激しい反対運動に発展している事例が複数あります。 例：東京都小金井市（市立保育園廃止事件） 兵庫県三田市（集団規模の基準をめぐる議論） 兵庫県神戸市（市立幼稚園の4割閉園案） 距離に伴う権利侵害の論点 「徒歩通園」の限界：市側はこれまで徒歩通園を原則としてきましたが、3kmを超える統合（大石～石山、田上～青山）は、保護者の送迎負担や三歳児の子どもの体力的に「実質的な教育機会の制限」に繋がる可能性があります。 代替手段の未整備：距離が大幅に伸びるにもかかわらず、スクールバスの運行や駐輪場・駐車場の整備計画が具体化されていない点は「考慮不尽（十分な検討を欠いた判断）」として指摘される可能性も考えられます。 より良い、子供たちの教育環境を保障するため、現在、大津市立幼稚園を利用する園児の保護者向けに再編（案）に関する説明会の実施し、教育環境の現在における課題を確認した上で、再編の必要性について検討することを希望いたします。	数値基準につきましては、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。 また、通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。 なお、54ページに記載のとおり、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	再編基準 通園支援

案該当箇所			意見内容	検討委員会の考え方（各課回答）	中分類
連番	頁	詳細箇所			
457		456の続き	3.文書上の矛盾点 基本方針には「総合的に勘案する」と書かれながら、実際に対象園を選んだ根拠表を見ると、ほぼ例外なく「3歳児入園者数が15人を下回っているため」という理由が筆頭に挙げられています。 このことから、実質的には「数値基準のみで選別し、選別された後にその他の項目で手法を微調整している」という見方です。 「遠方の園への通園を強いられる」「地域のコミュニティ拠点が失われる」といった、具体的な不利益が数値基準のみで一方向的に押し付けられることは、「数値ありきの強引な進め方ではないか」といった不信感を生み、個人の受ける教育の権利や福祉を損なう行為であると批判の対象になりうるのではないのでしょうか。 他の自治体での権利侵害主張と問題事例 大津市と同様に、数値基準による機械的な統廃合を行った結果、裁判や激しい反対運動に発展している事例が複数あります。 例：東京都小金井市（市立保育園廃止事件） 兵庫県三田市（集団規模の基準をめぐる議論） 兵庫県神戸市（市立幼稚園の4割閉園案）	数値基準につきましては、35～36ページに記載のとおり、客観的な指標として園児数による再編基準を設けていますが、それだけではなく、51ページ以降に記載のとおり、地域の特徴などについても慎重に検討しております。	再編基準
458		457の続き	距離に伴う権利侵害の論点 「徒歩通園」の限界：市側はこれまで徒歩通園を原則としてきましたが、3kmを超える統合（大石～石山、田上～青山）は、保護者の送迎負担や三歳児の子どもの体力的に「実質的な教育機会の制限」に繋がる可能性があります。 代替手段の未整備：距離が大幅に伸びるにもかかわらず、スクールバスの運行や駐輪場・駐車場の整備計画が具体化されていない点は「考慮不尽（十分な検討を欠いた判断）」として指摘される可能性も考えられます。	通園距離については、今後、再編により通園距離が長くなる場合が想定されることから、32ページに記載のとおり、地域の実情に応じた通園支援の方法を検討することを求めています。	通園支援
459		458の続き	より良い、子供たちの教育環境を保障するため、現在、大津市立幼稚園を利用する園児の保護者向けに再編（案）に関する説明会の実施し、教育環境の現在における課題を確認した上で、再編の必要性について検討することを希望いたします。	54ページには、当事者である保護者への説明会などの機会を通じて、丁寧に進めていくことを求めています。	進め方
460			今、逢坂幼稚園に息子が通わせてもらっています。姉も逢坂幼稚園に通わせてもらっていました。親と子供が初めて離れる場所なので、安心できる場所がよいと思っていました。少人数ならではの密な関わりをして下さり、息子の異変にもすぐに気付いてくださり、先生方は日々一生懸命息子だけでなく、保護者とも関わってくださり、本当にありがたいです。小学校のプールを使わせてもらったり、遊びに行かせてもらったりするおかげで、姉達は小学校に不安を抱える事なく入学できました。 このような素敵な園が無くなる可能性があるのは寂しいと思います。とはいえ、待機児童も多いので、この用な意見がでるのも分かります。預かりもしてもらえし、働きながら幼稚園を選ぶ人が増えるといいなと思います。幼稚園の魅力を知り、園児数が増えるのか一番ですが、せめて、今通っている園児が逢坂幼稚園を卒園するまではこのままあってほしいなと思います。	いただきました意見にある特徴については、検討委員会でも意見が出された上で検討を行いました。検討委員会では、こどもの育ちの観点から、各園の良い環境を継承できないかなど意見が出ていることから、「第3章基本的な再編等の計画」に追記を行います。 なお、地域との繋がりという面におきまして、20ページに記載のとおり、これまでに再編を実施した園での取組を参考に、再編後も引き続き、ご協力をお願いしたいと考えています。 また、小学校1年生になるのは市立幼稚園の卒園生だけではなくことから、架け橋プログラム等を通じて、全ての就学前施設に通う子ども達に質の高い教育・保育が提供できるよう努める必要があると求めています。 なお、今回の検討は、本来幼稚園が「集団生活を営む場所」であり、集団規模の確保による子ども同士の関わりの中で社会的な態度を育む教育が実現できるよう、慎重に審議を重ね検討したものであることから、待機児童問題とは異なる内容となります。	適正規模 幼小連携 待機児童